

2019年度 早稲田大学卒業生調査 報告書

2020年3月

早稲田大学 大学総合研究センター

全体要旨

本報告書は、大学総合研究センターが**2006年度に学部入学した卒業生を対象に実施した卒業生調査の集計、分析結果を掲載した報告書**であり、3部構成で集計データと自由回答の付録を収録している。調査は、2019年の12月から2020年の2月までに9,193名を対象にダイレクトメールを送付し、**543件の回答を得た（回収率5.9%）**。

第1部では、これまでの国内の卒業生調査を概観し、今後の活用可能性を検討し、第2部では、**入試区分別に記述統計分析**を行った。そのおもな結果は次の3点である。

第1に、**指定校推薦は、中学時代の「まじめさ」、「忍耐力」といった非認知能力が一般入試の入学者に比べ高い傾向が確認される。**

第2に、**自己推薦・AO入試等は、アウトプットという点で、一般入試に比べ「表現力・プレゼンテーション能力」がより身に付いている。**

第3に、**附属・系属校からの推薦は、一般入試に比べ「専門科目」、「一般教育科目」、「研究活動」により熱心、あるいはよく経験しており、指定校推薦に比べ「ゼミ」に熱心である。**この入試区分のなかでは、正課教育に対してより熱心で、より経験している傾向にある。ただし、これら結果は、回答者の学部が一部偏っているため生じた可能性があり、今後の追試も検討したい。

第3部では、「**在学時の学びがアウトプットに繋がるのか、そして繋がるとすれば、どのような学びがアウトプットに繋がるのか**」を検証した。検証の結果、明らかになったのは、おもに以下の4点である。

第1に、**成績と知識も含めた能力との間に、強い相関は確認できない。**

第2に、**中学時代の非認知能力や高校3年の成績といったインプットの変数は、成績と正の関係があるものの、知識も含めた能力との間に有意な関係は見いだせず、在学時の学びに熱心、あるいはよく経験するほど4つの能力が高い傾向にある。**

第3に、今回分析に用いた4つの能力は、**正課の学びだけでなく、課外活動である「大学関係の活動」と正の関係にあった。**

第4に、**身に付いた能力は、構造方程式モデルの分析や自由回答の記述から、仕事や生活において直接的・間接的に、実際に活かされている。**

以上のように、**大学入学前の諸条件を考慮しても、大学教育は確かに能力獲得に繋がっている。**なお、この調査研究とそこから得られる知見をもとにした学内施策への活用案についても補論で提示した。¹

¹ 調査の一部の回答は、卒後10年の回顧に基づいて行われている。従って、たとえば、在学時の成績や意識の回答は、正確には現時点からみた当時の成績や意識の自己評価あるいは自己認識である。今後、統合DWHとの結合が可能になれば、このような回顧データのバイアス問題に対して改善が期待できる。

目次

| | |
|-------------------------------|-------|
| 第1章 調査概要と対象について..... | p. 3 |
| 1. 調査概要..... | p. 3 |
| 2. 調査対象者の在学時の学習・生活環境..... | p. 9 |
| 第2章 各項の回答結果—入試区分に注目して..... | p.12 |
| 第2章概要..... | p.12 |
| 1. インプット..... | p.15 |
| 2. スループット..... | p.21 |
| 3. アウトプット1..... | p.27 |
| 4. アウトプット2..... | p.30 |
| 第3章 在学時の学びとアウトプットの関係..... | p.33 |
| 1. 正課教育・課外活動とアウトプットの関係..... | p.34 |
| 2. 正課教育とアウトプットの関係..... | p.38 |
| 3. 小括..... | p.41 |
| 補論 卒業生調査をどう活かすか..... | p.42 |
| 参考文献..... | p.46 |
| 付録..... | p.48 |
| 1. 分析に使用した変数と分析結果の詳細について..... | p.48 |
| 2. 全体の集計データ..... | p.55 |
| 3. 質問票（回答ウェブページ）..... | p.108 |
| 4. 高等教育研究委員会 名簿..... | p.117 |
| 謝辞..... | p.118 |

第1章 調査概要と対象について

1. 調査概要

大学総合研究センター高等教育研究部門では、早稲田大学生の入学から卒業までの一連のデータ収集と、それらデータ分析による学内施策の意思決定支援の充実を目的として、統合 DWH を中心としたデータインフラの整備及び分析を実施している。2018 年度からは（1）早稲田大学生のアウトプット²をより長期的な視点で見ること、（2）アウトプットとして成績のみならず、大学教育によって養われる能力に焦点を充てること、（3）アウトプットと在学時の学習の関係を捉えるために、卒業生調査を企画、実施した。

現在、大学総合研究センターの IR で使用できる学生のデータは、図 1-1 に示している統合 DWH から抽出できるものに限られており、アウトプットも通算 GPA に限定されている。また、在学時のデータも間接的な学習経験あるいは生活習慣のデータを得られる状況にはない。よって、学生の入学から卒業、あるいは卒業後も含めた EMIR を展開していく上で、卒業生調査の分析結果から、在学時にどのようなデータを収集すれば良いのか方法上の示唆を得られるものとする。

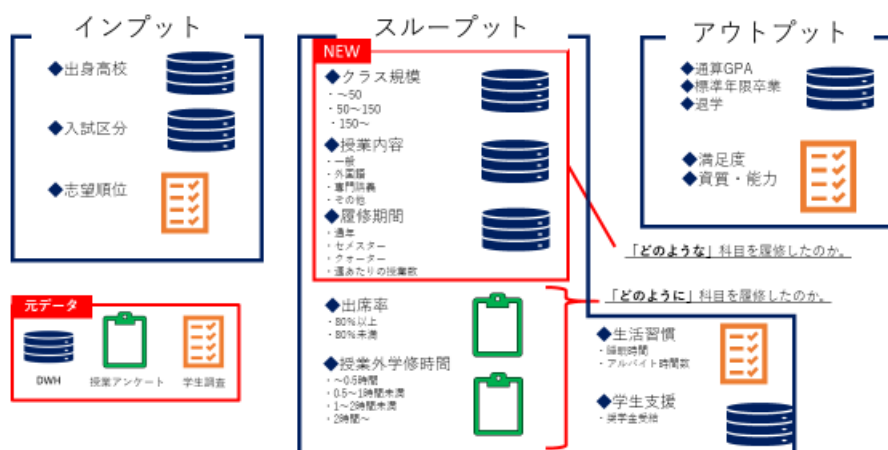


図 1-1 EMIR を実施する上での学内データの整理状況

国内の大学では、卒業生の学習成果を把握し、それらを大学の自己改善に活かす試みは、すでに推進されている。全学共通の学習成果を測定する取り組みとして卒業生調査を導入している大学は、2016 年時点で 49.5%、国立大学においては 79.4%である（大学基準協会 2018、p.34）。本報告書では、まず本調査の意義を確認し、かつ今後の活用可能性も見据えるために、大学における卒業生調査の目的や方法を改めて整理しておきたい³。

² 成果（アウトカム）といっても差し支えないが、現段階では大学教育以外（初中等教育や職場等）の教育・訓練の成果や生活上の経験も視野に入れるため、あくまで分析の枠組上、アウトプットと呼ぶ。

³ 近年の海外の動向は濱中（2017）で紹介されている。

i. 卒業生調査の目的

吉本（2007）によれば、卒業生調査の目的は学術性と説明責任の2つがあり、その2つからさらに、（1）純粋科学、（2）政策科学、（3）外部評価対応、（4）教育改善（政策導入）に分かれるという（図1-2）。

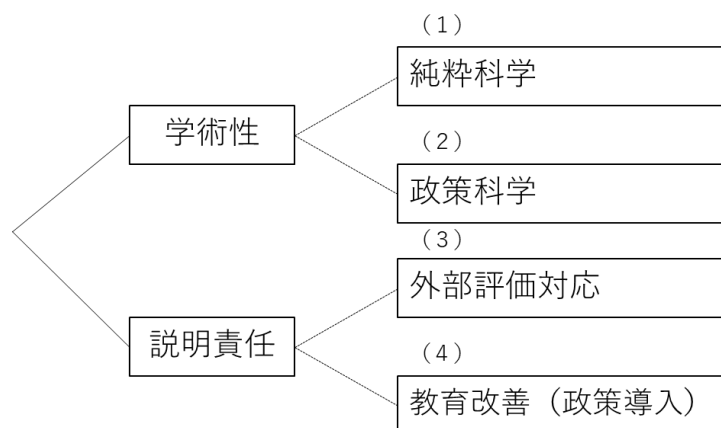


図1-2 卒業生調査を実施する目的の分類

目的の種類という点においては、たとえば以下のような調査が考えられる。

（1）純粋科学という面では、吉本（2007）で紹介されている CHEERS（Careers after Graduation - an European Research Survey）や、REFLEX（The flexible professional in the knowledge society new demands on higher education in Europe）などの国家横断的な調査は、各国の大学生の特徴を明らかにする比較研究として示唆が得られるものと考えられる。

（2）政策科学という面では、「大学教育についての職業人調査」（東京大学 2009）は、近年の社会人の学び直しの観点から政策的議論の資料としても用いられている（文部科学省 2015）。

（3）外部評価対応という点では、すでに各大学で多くの事例がある。また、分野別にコンソーシアムの体制を構築し、質保証の枠組みの策定を試みる事例として、医学教育（日本医学教育学会コア・コンピテンス教育委員会 2014）や教職課程（HATO プロジェクト 2016）でも試みられているようである。

（4）教育改善（政策導入）という面では、国立女子大学の「卒業生・修了生のライフコースと国立女子大学の将来像に関する調査」（2001）や「関西学院大学 卒業生調査」（2019-2020）（関西学院大学 HP）は、各大学の中長期の戦略策定のための現状と課題を把握するために企画、実施されたものと推察される。近年では、コンソーシアムを形成、データを収集・共有し、各大学の教育改善を図ろうとする試みもある（北海道大学高等教育推進機構編 2017）。

これらの目的は決して一つに限定されず、複数の点から活用できる場合も十分に考えられる。本報告書では、まず学内施策検討の基礎資料として用いられることを念頭に、**在学**

時の学びがアウトプットに繋がるのか、そして繋がるとすれば、どのような学びがアウトプットに繋がるのか、卒業10年のデータから分析し、結果を示す。

ii. 卒業生調査の方法

次に、今回の卒業生調査の方法について示す。吉本（2007）は、6つの検討項目を示し、それぞれ可能な選択を2つずつ示している（表1-1）。本調査において選択したものは色付で示している。

表1-1 卒業生調査の方法論についての検討項目

| 検討項目 | 可能な選択 | 利点 | 限界および対処等 |
|-----------------|--------------------|--|--|
| 1) 卒業生調査実施の組織 | 単独大学・部局の組織 | 大学・部局における他の点検・評価活動と連動し、各大学・部局固有の指標を含む枠組みでの調査を企画できる | 成果を比較し評価することが難しいので、調査枠組みの設定段階から、レファレンスについての検討が必要 |
| | 複数大学・部局の連携／外部の研究組織 | 比較の枠組みを用いて、相互評価等を含めて、結果の考察において外部者の視点を取り込むことができる | スケジュール、指標項目の設定等に調整の時間が必要であり、データ利用などの計画についても協議、合意が必要 |
| 2) 調査方法の選択 | 統計調査 | 多数の信頼性のある数量的な指標化が可能 | 調査枠組み等の企画のために一定の時間が必要であり、実施の経費も大きくなる |
| | 質的調査 | 実施の容易さ、個別の経験の中から具体的な教育改善への意見が得られる可能性がある | 数量的指標化が困難 |
| 3) 対象年度コーホートの決定 | 卒業年度全数 | 大学・部局の周年事業などでOBの活躍の概要的なプロフィールをえることができる | 長期的スパンの結果は過去の教育プログラムに基づくため、教育改善へのインプリケーションに直ちに繋がらない可能性がある |
| | 特定の年度の抽出 | 基本的な理論枠組みがあれば経済的に調査実施ができる | 教育の成果についての一定の理解が必要であり、卒業後10年以内で選択するのが適切 |
| 4) 対象者の選定 | 卒業生全数 | 学科別比較などの詳細な分析が可能になる | 大規模な大学・学部では不経済 |
| | サンプリング | 統計的な標準誤差範囲を想定することで、経済的な調査ができる | 小規模の大学・学部では実施困難な場合もあるが、複数年度の卒業生の傾向を共通のグループとして把握することで対応可能性も |
| 5) 卒業生の基本情報の確認 | 大学・部局保有の情報 | 大学の点検・評価活動としての位置づけによって個人情報保護の精神に準拠し、卒業生全数の情報が活用できる | 卒業時点での住所、あるいは保護者住所など、情報の更新のための作業の負担が大きい可能性がある |
| | 同窓生組織保有の情報 | 適切な更新が行われていれば、最新の現住所等の情報が利用できる | 同窓会加入や特定の職業だけの情報しかない場合など、情報の偏りの危険がある |
| 6) 調査方法の選択 | 郵送調査 | 返信用の封筒等によって、より高い回収率が見込まれる | 督促管理、郵送費、データ入力費など全体として経費・時間面でコストが大きくなる可能性がある |
| | Web調査 | アクセス・キーを用いて、督促管理などが容易であり、返信や回収データ入力などが省けるので経費・時間面で経済的な可能性がある | 回収率が低い可能性があり、インターネットアクセスの可否によって回答者にバイアスが生じる危険がある |

（出典）吉本（2007）を基に作成

この分類を踏まえれば、本調査は、5) 大学の情報をもとに、1) 全学の、3) 特定の年度（2006年度入学者）の、4) 全数を対象に、2) 数量あるいは質的な質問項目で設計し、6) 対象者に案内状を郵送し、Web ページでの回答を依頼したものとなる。なお、2019年調査では、2020年2月8日に開催された10年次稲門会にてチラシを作成し、回答を呼びかけていただいた。

調査時期も昨年と異なり、回答率は若干上回った。これらを含め得られた回答数は以下の通りである。なお、括弧内は昨年の数値である。

対象者：2006年度学部入学者（2005年度学部入学者）

回収時期：2019年12月26日～2020年2月10日（2018年6月～7月）

送付数：9,193（9,026）

回答数：543（432）

回答率：5.9%（4.8%）

iii. 質問票の構成と特徴

以上の目的と方法をもって実施された本調査の特徴について、EMIRの関係から整理したい。上述した「在学時の学びがアウトプットに繋がるのか、そして繋がるとすれば、どのような学びがアウトプットに繋がるのか」を測定するために、図1-3のように、入学前と入学時のインプット、在学時のスループット、そして卒業時と現在（10年後）のアウトプットデータを収集できるように質問項目を設計した。これらは、AstinのI-E-Oモデルをベースに、アウトプットを卒業時点（アウトプット1）と卒業後10年を経た調査時点（アウトプット2）の2つに分けた。

学内の統合DWHを用いたインプットとアウトプット間の関係を分析した結果では、ジェンダーや高校ランクがGPAに正に影響を及ぼす結果もあり（大学総合研究センター2019a）、それらと類似したインプットの変数によって統制したとしても、在学時の学習経験が卒業時あるいは現在のアウトプットに正の効果があるか、これが本調査の基本的な仮説となる。この枠組を検証する第3章では、実線（—）の直接的な効果ではなく、スループットを含めた破線（---）の効果が見られるのかに注目したい。

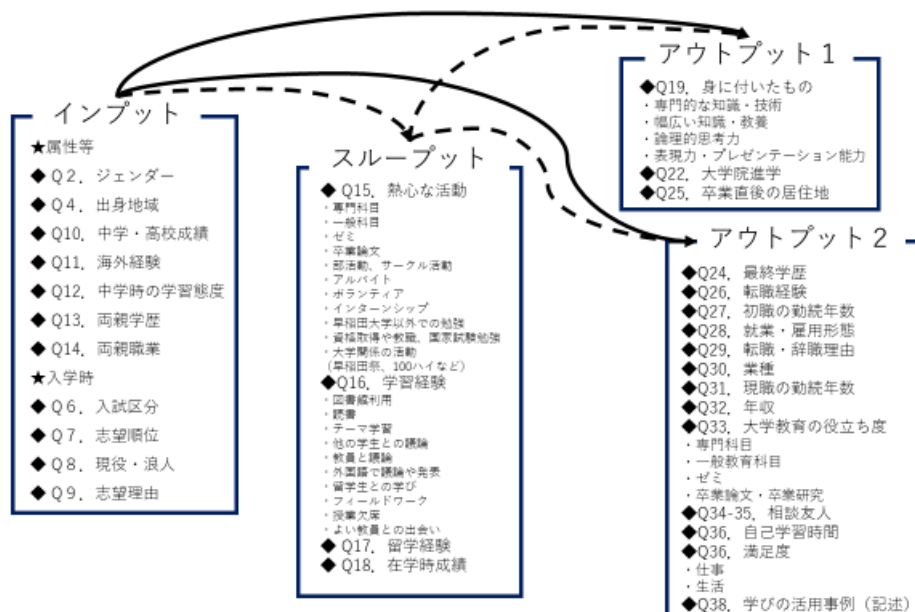


図1-3 質問項目の構造

以上のような本調査の枠組みによって得られるデータの特徴は、これまで大学が所有するデータと比較して大きく3つあると考えられる。

第1に、アウトプットに関する定量的なデータを獲得できる点である（知識・スキル、給与、満足度、学習習慣、最終学歴）。第2に、在学時の学習経験や学生生活に関するスループットの情報が獲得できる点である。この2点によって、大学教育の効果検証に必要なデータが得られる。そして第3は、先行研究上、重要な要因として指摘されてきた志望順位や中等教育での経験、親属性のデータを得られる点である。

このように本調査は、これまでの調査研究の知見を踏まえながら、大学教育の効果をより正確に測定するよう設計を試みているが、以下の3点に留意する必要がある。第1に、卒業後10年間の経験については転職の有無や就業年数を除いて尋ねておらず、大学教育を含む学校教育の効果を過大に評価してしまう可能性がある。第2に、回答者の家族に関する情報がないため、働き方や満足度など現在のアウトプットに影響を与える要因の特定には慎重になる必要がある。第3に、あくまで早稲田大学の卒業生を対象にしているため、図1-3の枠組みで在学時の学習経験とアウトプットに正の関係があったとしても、それが早稲田大学固有の効果と断定することはできない。これらの点にも留意して分析結果を示していく。

iv. 母集団と本調査のサンプルとの関係

本調査は上述した通り、2006年度の全学部入学者を対象にウェブ回答のURLを付したダイレクトメールを郵送し回答を依頼した。本報告書の分析において、特定の学部や属性が多いあるいは少なければ、当該年度入学者の母集団を反映したとは言えず、回答結果に偏りが生じる可能性がある。ここでは、3つの視点から母集団と回答サンプルを比較する。比較にあたっては、統合DWHのデータから当該年度入学者のデータを抽出した。

まず、ジェンダー別にみると（図1-4）、今回の対象年度の約65.0%が男性、女性が35.0%であり、女性の割合が40.3%と少し多い。なお、昨年実施した調査よりも女性の割合が若干多い。

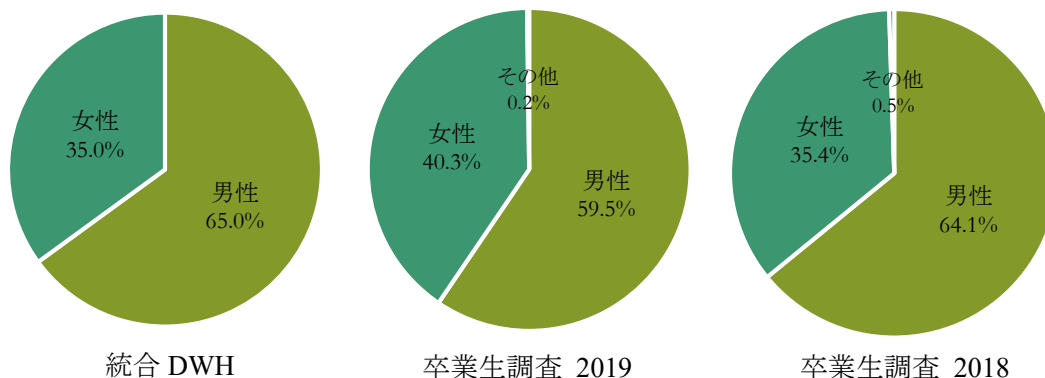


図1-4 サンプルの検証

（ジェンダー：左、統合DWH。中央、卒業生調査2019。右：卒業生調査2018）

次に、学部別の割合をみると（図1-5）、教育学部の割合が実際の母集団よりも多く（10.8% < 15.3%）、他方で理工学部の割合は、実際の母集団よりも小さい（17.5% > 11.0%）。国際教養学部の割合も若干小さい（6.1% > 3.1%）。

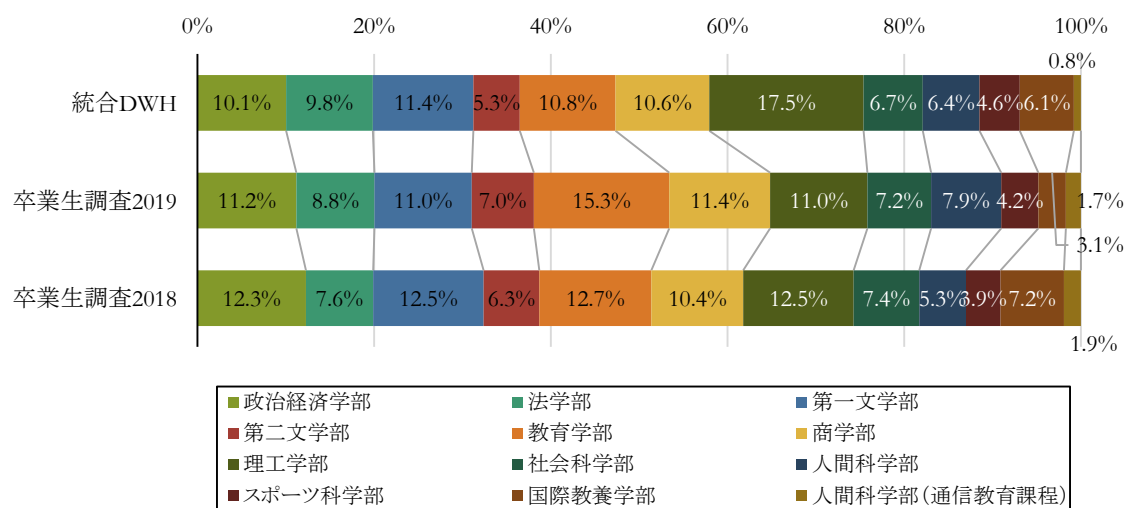


図1-5 サンプルの検証（学部）

また、入試区分別にみると（図1-6）、統合DWHと比較して、「一般入試」の割合がはやや多く（66.9% > 60.0%）、「附属・系属校からの推薦」の割合がやや少ない（9.6% < 13.1%）。昨年の調査と比較すると、「その他」の割合がやや増加した（7.7% > 3.8%）。

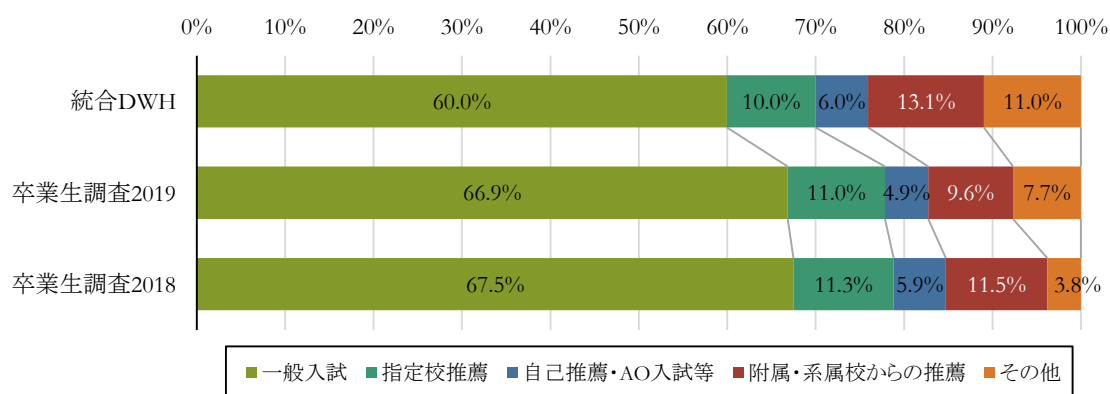


図1-6 サンプルの検証（入試区分）

以上、3点について回答者と母集団との比較検討を行った。部分的に若干偏りはあるが、それなりに母集団を反映しているサンプルと言えそうだ。今後も継続して特定の層の回答が多いあるいは少ない場合には、対応方法を検討することも必要になるだろう。

2. 調査対象者の在学時の学習・生活環境

次に、本調査の対象とする 2006 年度学部入学生の在学時の学習・生活環境について、整理する。これらを把握するのは、第 1 に、調査対象者は 10 年以上前の早稲田大学で学んだいため、当時の教育をある程度理解した上で結果を解釈する必要がある。そして第 2 に、対象入学年度の回答者が経験するコーホートや時代の効果についても注意する必要がある。今後、実施される卒業生調査と比較する場合にも、これらの基本情報が分析結果を解釈する際に参考情報となる。

このような考えから、表 1-2 では早稲田大学、高等教育政策、社会のカタゴリーで 2006 年～2010 年度にかけて生じた比較的大きな出来事を作成した⁴。

表 1-2 2019 年卒業生調査対象者の在学時の出来事

| | 早稲田大学 | 高等教育政策 | 社会 |
|------------|---|--------------------------|---------------------|
| 2006 年 | | ・センター試験英語で初めてリスニングが導入される | ・第 1 次安倍政権発足 |
| 2006 年 4 月 | 入学 | | |
| 2007 年 | ・創立 125 周年。 ・第一・第二文学部を文化構想学部・文学部に、理工学部を基幹理工学部・創造理工学部・先進理工学部に変更・再編。 | | ・サブプライム問題 |
| 2008 年 | ・「Waseda Next 125」発表。 ・専門職大学院教職研究科設置。 ・教務部外局として FD 推進センターを 10 月に設置。 ・「こうはいナビ」による、学生・職員共同で新入生をサポートするプロジェクトを実施 ・「ボランティア、フィールドワーク型授業」を 19 科目開講 | ・「学士課程教育の構築に向けて」(答申) | ・オバマ大統領当選 |
| 2009 年 | ・「授業の到達目標」「半期 15 回分の授業計画」を明示するようシラバス項目の見直しを実施 ・「Course N@vi」は約 17,000 科目中約 5,000 科目で活用 | | ・政権交代 ・リーマン・ショック |
| 2010 年 3 月 | 標準年限卒業 | | |

まず、理解しておくべきは調査対象者が在学していた期間に、入学と卒業時点で大きな出来事が生じていた点である。入学時においては、センター試験で初めてリスニングが導入されており、学校教育において国際性がより強調され始めた時期にあたる。他方、卒業時においては、リーマン・ショックが生じた。リーマン・ショックは就職活動時期に大き

⁴ 作成にあたっては、Waseda Next 125 のウェブサイト (<http://www.waseda.jp/keici/next125/index.html> : 2020 年 3 月 11 日閲覧) を参考にした。

く影響を与えたのみならず、内定取り消しなどの諸問題に直面した学生も少なくないと思われ、就職後の数年間は不安定な働き方に直面する卒業生も一定程度いたと推察される。

また、高等教育政策においては、在学時に「学士課程教育の構築に向けて」が答申される。当該答申は、2001年の「今後の高等教育改革の推進方策について」の諮問から、2005年の「我が国の高等教育の将来像」答申、2007年の「学士課程教育の在り方に関する小委員会」（小委員会）を経て作成された。「小委員会」では、いわゆる「学士力」について検討され、2008年の学士課程答申にも反映されている。この答申では、大学と社会を繋ぐコンピテンスの獲得と、その獲得に向けた学士課程プログラムの質保証について言及された。

このような社会状況のなかで、早稲田大学は2007年に創立125周年を迎え、各式典が催されるとともに、第一文学部・第二文学部の文化構想学部・文学部への改組、理工学部の基幹・創造・先進理工学部への改組とともに10の学術院体制を確立した。

2007年には、「Waseda Next 125」を発表し、創立150年に向けた各改革のロードマップを示し、2008年には、FD推進センターが設置され、翌2009年には、シラバス項目の見直しが実施され、「Course N@vi」もより多くの科目で活用されるなど、本調査の対象者が在学していた時期に全学的な教育施策が実行された。調査対象者の卒業時における白井克彦元総長の式辞においても、その間「チュートリアル・イングリッシュ」、「学術的文章の作成」、「数学基礎プラスα」、「テーマカレッジ」、「プロフェッショナルズ・ワークショップ」などの基礎教育と学部横断の課題解決型の教育の充実を図ったと述べられている（白井2010、p.44）。

このように調査対象者の在学中は、全学的に教育改善の取り組みが実行され始めた時期にあたる。したがって、今回の調査対象者は、早稲田大学の全学的な「教育改善がまさに始まる時期」に学士課程教育を経験した学生であることに留意する必要がある。

たとえば、統合DWH内にあるデータを用いて、評価区分の割合の推移を見ると（図1-7）、調査対象者が在学していた2008年から直近の2018年まで、全学で不合格の割合は16.0%から11.9%へと減少傾向にある⁵。その原因を特定することは、慎重になる必要があるものの、少なくとも履修授業が不合格になる（単位を落とす）ことは、調査対象者の在学時には、現在と比べより生じていた。また、授業のクラス規模についても、51名以上の割合は2011年時点では19%であったものの、2018年には15%まで減少しており（早稲田大学HP）、現在の教職員、学生の感覚とは必ずしも同様ではないと考えられる。

これらの基本情報も本報告書のなかで適宜参照したい。

⁵ 扱ったデータの件数は表1-3の通り。分析時点で2018年は、春学期のデータのみ格納されていた。

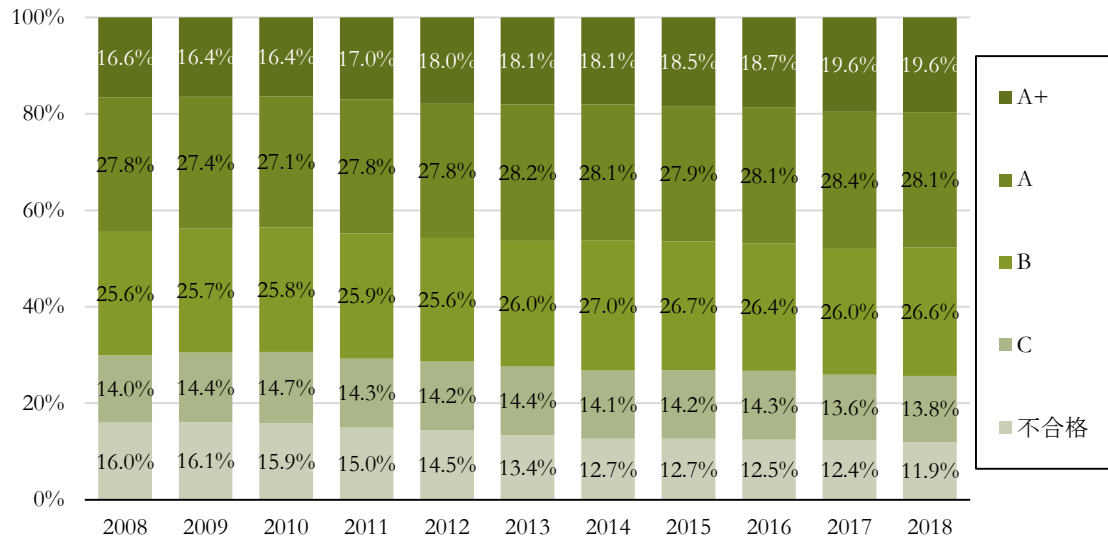


図 1-7 評価区分割合の推移

表 1-3 評価区分割合の推移（件数）

| | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| A+ | 114,613 | 117,254 | 118,218 | 121,662 | 128,790 | 128,793 | 128,209 | 129,163 | 128,642 | 133,471 | 66,446 |
| A | 191,636 | 195,286 | 195,804 | 198,616 | 199,274 | 200,766 | 199,151 | 194,859 | 193,016 | 193,762 | 95,033 |
| B | 176,098 | 183,091 | 186,393 | 185,095 | 183,434 | 184,743 | 191,421 | 186,177 | 180,942 | 177,565 | 89,868 |
| C | 96,581 | 102,857 | 105,948 | 101,951 | 101,690 | 102,228 | 100,042 | 98,969 | 97,914 | 92,393 | 46,519 |
| 不合格 | 110,181 | 114,591 | 114,891 | 107,107 | 103,866 | 95,145 | 89,714 | 88,515 | 85,648 | 84,628 | 40,381 |
| 計 | 689,109 | 713,079 | 721,254 | 714,431 | 717,054 | 711,675 | 708,537 | 697,683 | 686,162 | 681,819 | 338,247 |

第2章 各項目の回答結果－入試区分に注目して

第2章 概要

第1章では、「在学時の学びがアウトプットに繋がるのか、そして繋がるとすれば、どのような学びがアウトプットに繋がるのか」、この間をベースにしながら枠組を示した。第2章では、インプット・スループット・アウトプットそれぞれのおもな回答について入試区分別に示していく。

結果を示す前に、入試区分別に学部割合を確認すると（表2-1）、自己推薦・AO入試等では、政治経済学部（23.1%）、社会科学部（19.2%）、国際教養学部（19.2%）の割合が大きい。また、附属・系属からの推薦は政治経済学部（25.5%）と理工学部（19.6%）の割合が大きい。附属・系属からの推薦は、統合DWHを用いた分析では、学部によってアウトプットが異なるため（大学総合研究センター 2019a）、特に注意が必要である。なお、その他は、具体的に、社会人入試（14件）、センター利用（7件）、帰国子女入試（6件）、編入（4件）などであった。

表2-1 入試区分別の学部の割合

| | 政治経済 | 法 | 一文 | 二文 | 教育 | 商 | 理工 | 社会学 | 人科 | 人科 (通信) | スポ科 | 国際教養 | 合計 |
|-----------------------|--------------|-------------|--------------|-------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|
| 一般入試 (n=357) | 8.7% | 8.1% | 12.0% | 6.2% | 18.5% | 11.5% | 10.9% | 8.1% | 8.4% | 0.8% | 3.9% | 2.8% | 100.0% |
| 指定校推薦 (n=59) | 15.3% | 23.7% | 18.6% | 0.0% | 0.0% | 20.3% | 13.6% | 0.0% | 8.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 自己推薦・AO入試等 (n=26) | 23.1% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 15.4% | 0.0% | 3.8% | 19.2% | 7.7% | 3.8% | 7.7% | 19.2% | 100.0% |
| 附属・系属校からの推薦 (n=51) | 25.5% | 3.9% | 3.9% | 0.0% | 15.7% | 13.7% | 19.6% | 5.9% | 0.0% | 0.0% | 9.8% | 2.0% | 100.0% |
| その他(具体的に) (n=41) | 4.9% | 7.3% | 2.4% | 39.0% | 9.8% | 4.9% | 0.0% | 2.4% | 12.2% | 9.8% | 4.9% | 2.4% | 100.0% |
| 全体(n=534) | 11.4% | 9.0% | 10.7% | 7.1% | 15.4% | 11.6% | 10.9% | 7.1% | 7.9% | 1.5% | 4.3% | 3.2% | 100.0% |

このような注意点を踏まえ、入試区分別に、インプット、スループット、アウトプットについて⑮「卒業居住地」を除き、各項目のカテゴリーを肯定的な回答が高くなるよう値に変換し、平均値の比較を行った⁶。グループ間で有意差が確認できた場合に、グループ内の多重比較検定を行った。検定の結果、アウトプット1は10%未満、それ以外は5%未満で統計的に有意差が確認できたものを示す（表2-2）。

表中の「+」は括弧内のグループと比較してより有意に平均値が高いことを示している。たとえば、⑧の「全」は当該グループ以外と比べてより高いことを意味する。

⁶ 分析に使用する変数の処理法については、本報告書「」 p.48-54 を参照のこと。

表 2-2 入試区分別の違い

| | 一般入試 | 指定校推薦 | 自己推薦・AO入試等 | 附属・系属校 |
|-------------|------|----------|------------|--------|
| インプット | | | | |
| ① まじめさ | | +(一般) | | |
| ② 忍耐 | | +(一般) | | |
| ③ 第一志望 | | +(一般) | +(一般) | |
| ④ 就職に有利 | | +(一般) | | +(一般) |
| ⑤ 進路選択の幅 | | +(一般) | | +(一般) |
| ⑥ 周りの勧め | | +(一般・附属) | | |
| ⑦ 高3時の学力 | | +(一般・附属) | +(附属) | |
| ⑧ 高卒までの海外経験 | | | +(全) | |
| スループット | | | | |
| ⑨ 専門科目 | | | | +(一般) |
| ⑩ 一般教育科目 | | +(一般) | | +(一般) |
| ⑪ ゼミ | | | | +(指定) |
| ⑫ 研究活動 | | | | +(一般) |
| アウトプット1 | | | | |
| ⑬ 専門的な知識 | | | | +(一般) |
| ⑭ 表現力・プレゼン | | | +(一般) | |
| ⑮ 卒業後居住地 | | 非南関東 | 非南関東 | |

それぞれの入試区分の特徴は以下の通りである。

i. 一般入試

1. 今回用いた項目のなかで、他の入試区分と比較してポジティブな特徴は得られなかった。

ii. 指定校推薦

1. 中学時の経験をみると、「まじめさ」、「忍耐力」といった非認知能力⁷が一般入試の入学者に比べ高い傾向が確認される。
2. 受験理由では、「就職に有利」や「進路選択の幅」が一般入試よりも高い。なお、「周りの勧め」も一般入試よりも高いが、3～4年の成績に対して負の効果をもつので、全てがポジティブな傾向とは言えない。
3. 卒業後の居住地は、南関東以外の地域に居住する傾向にある。

⁷ 本調査で用いた非認知能力については、石田ほか（2016）を参考にした。

iii. 自己推薦。AO 入試等

1. 高校卒業までの海外経験が他の入試区分と比較して有意に高い。
2. スループットでは特徴的な側面は見られないが、アウトプットという点では、一般入試に比べ「表現力・プレゼンテーション能力」がより身に付いている。なお、指定校推薦同様に卒業後の居住地は、南関東以外の地域に居住する傾向にある。

iv. 附属・系属校からの推薦

1. 受験理由では、「就職に有利」や「進路選択の幅」が一般入試よりも高い。
2. スループットでは、一般入試に比べ「専門科目」、「一般教育科目」、「研究活動」に熱心であり、指定校推薦よりも「ゼミ」に熱心である。この入試区分のなかでは、最も正課教育に対して熱心な傾向にある。
3. アウトプットという点では、より「専門的な知識」が身に付いたと回答している。

以上は、入試区分をもとに、2変数間の検証を行った結果に留まる。在学中の学びについて、「附属・系属校」が他の類型よりも熱心に取り組んでいる結果は、上述した通り、政治経済学部と理工学部の割合が多いことも影響していると推察される。この結果については今後の追試も検討したい。

1. インプット

以下では、それぞれ入試区分別に結果を示す。各項目の回答数は基本的に表 2-1 の通りで、回答していない場合には有効回答を用い割合を算出した。

i. 中等教育の成績、経験

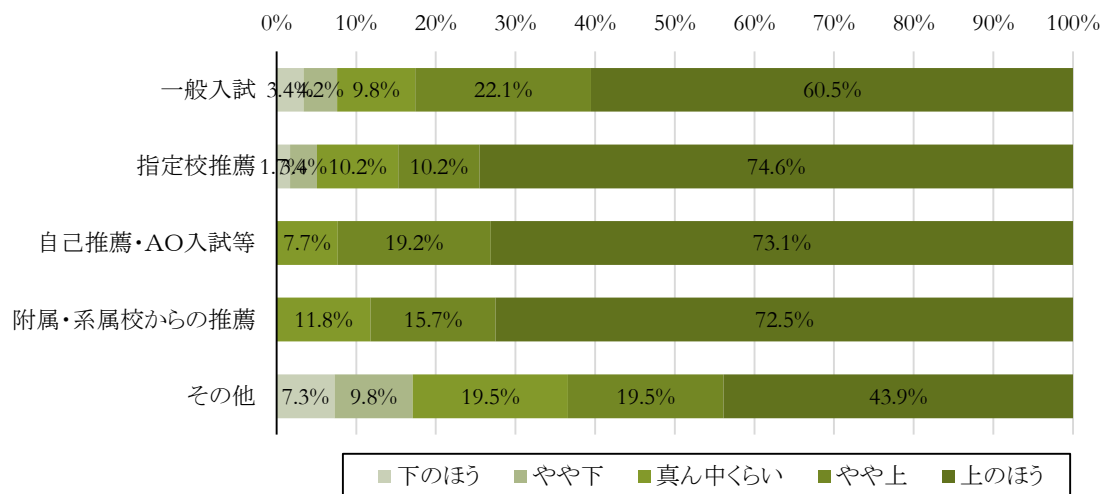


図 2-1 中学 3 年の成績

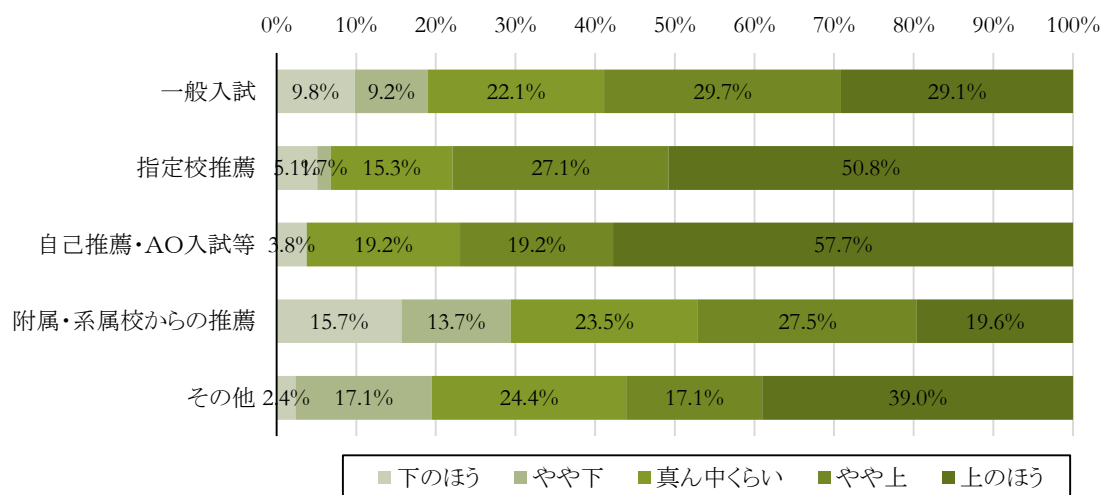


図 2-2 高校 3 年の成績

●少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した

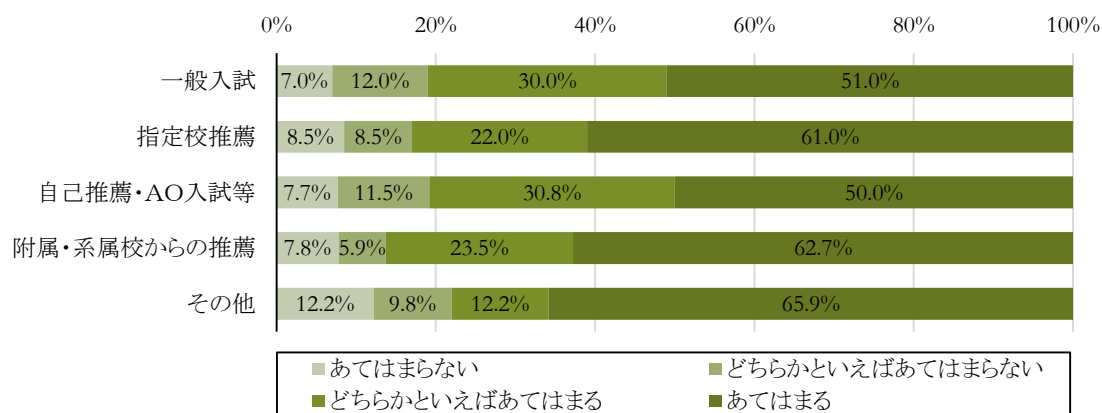


図 2-3 中学時の経験（1）勤勉性

●学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ

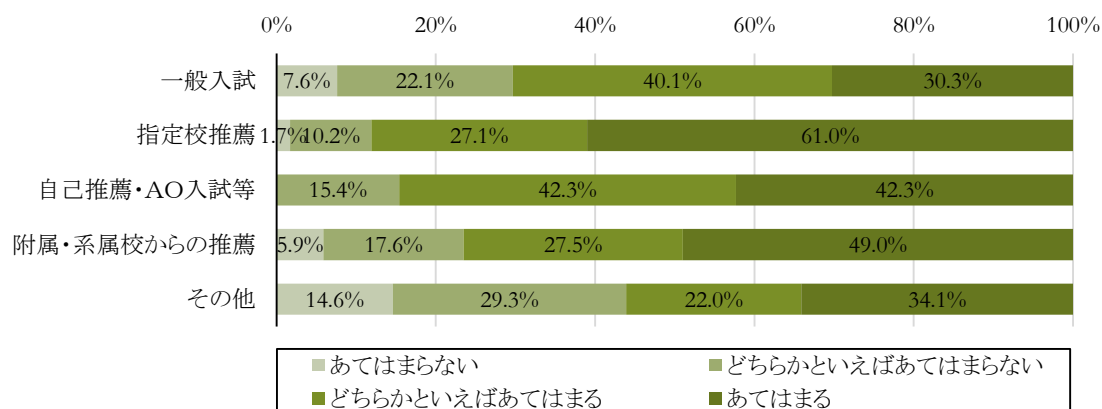


図 2-4 中学時の経験（2）まじめさ

●なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた

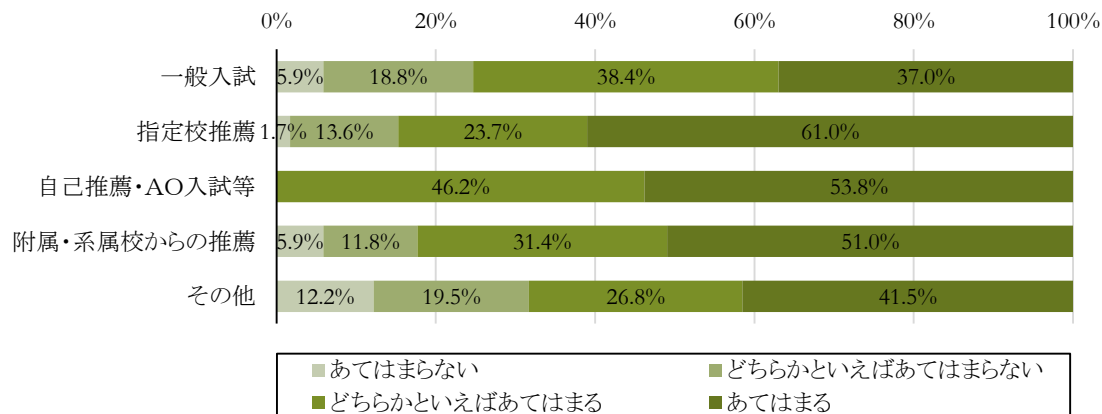


図 2-5 中学時の経験（3）忍耐力

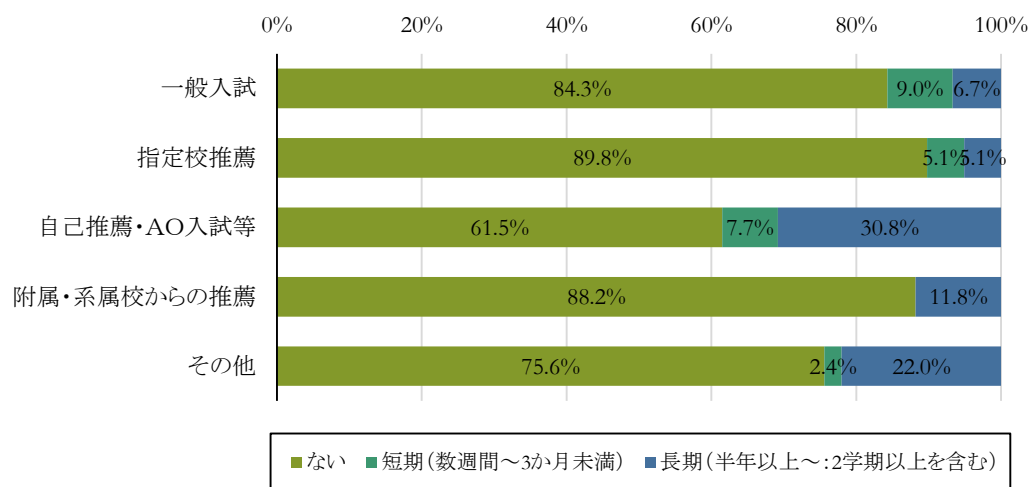


図 2 - 6 高校卒業までの海外滞在経験

ii. 志望度と入学理由

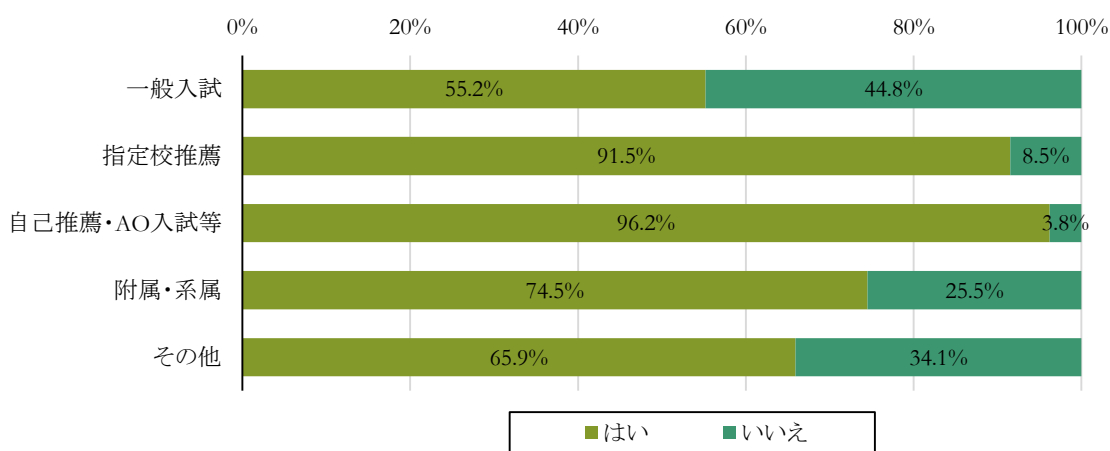


図 2-7 入学学部は第一志望か否か

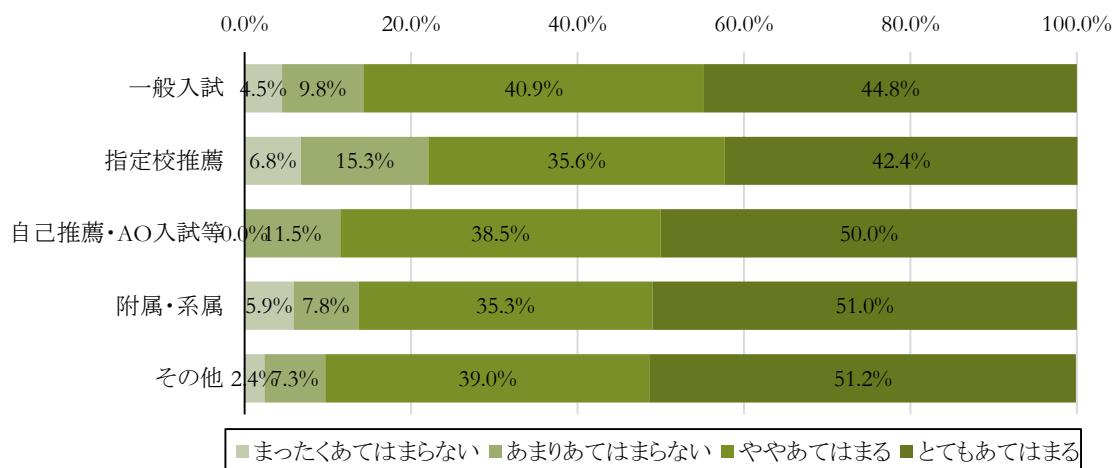


図 2-8 受験理由_勉強したい分野がその学部にあったから

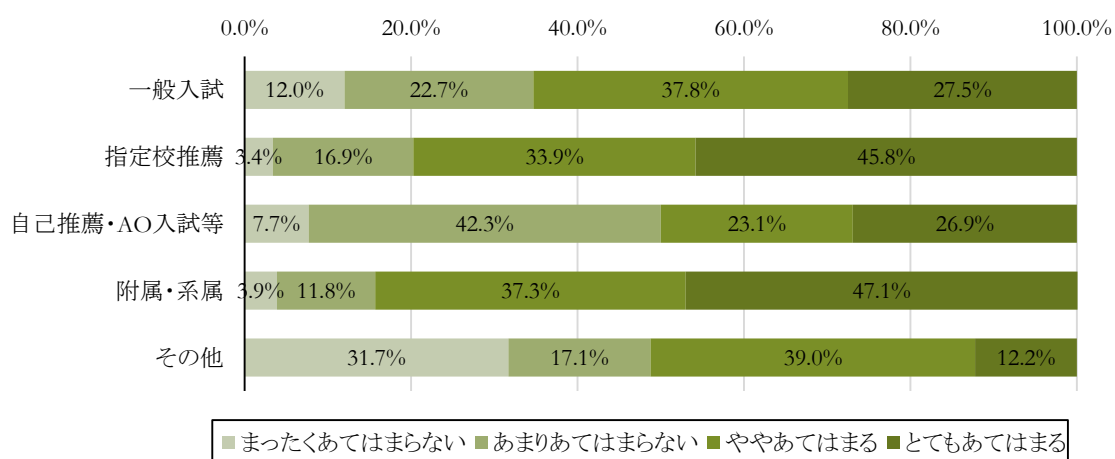


図 2-9 受験理由_勉強したい分野がその学部にあったから

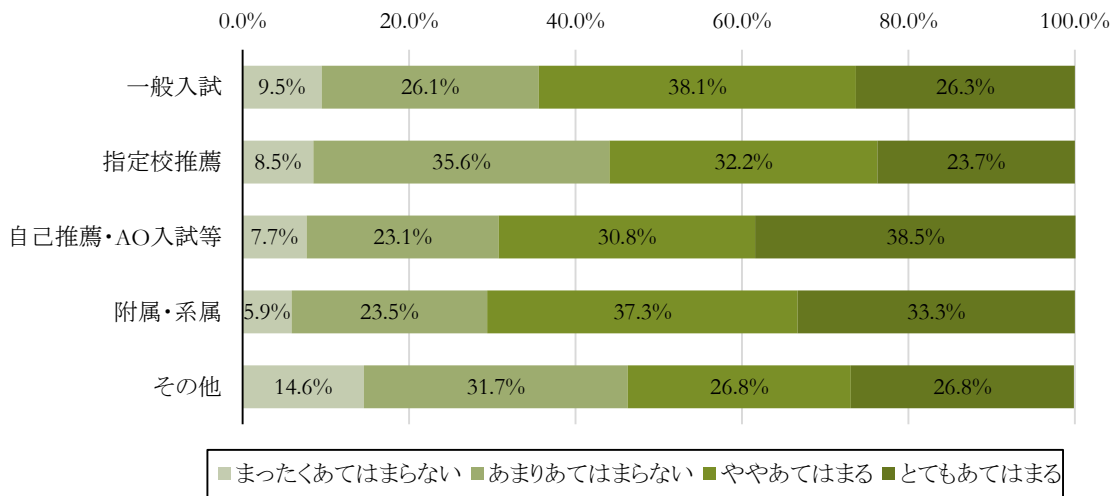


図2-10 受験理由_将来の希望する職業分野を勉強できるから

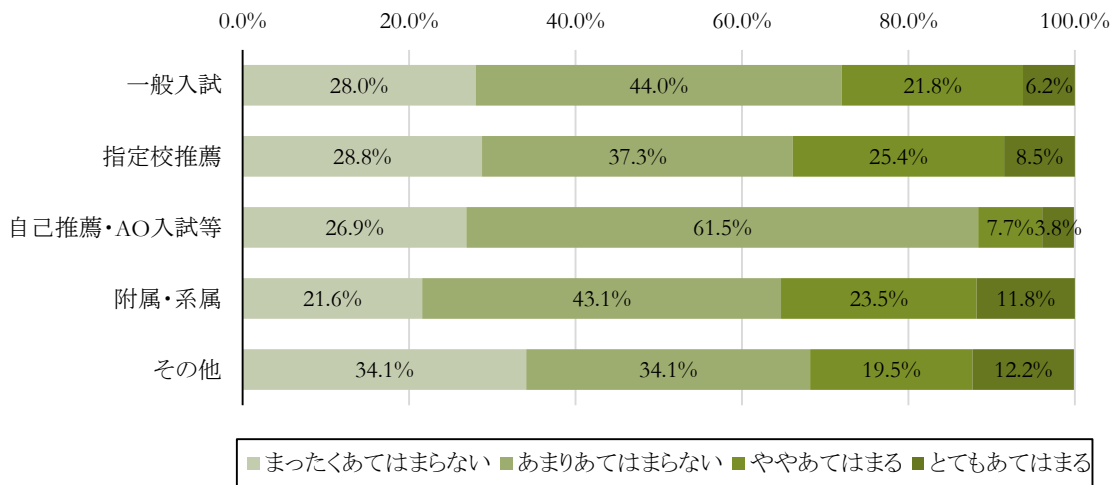


図2-11 受験理由_資格の取得が有利であるから

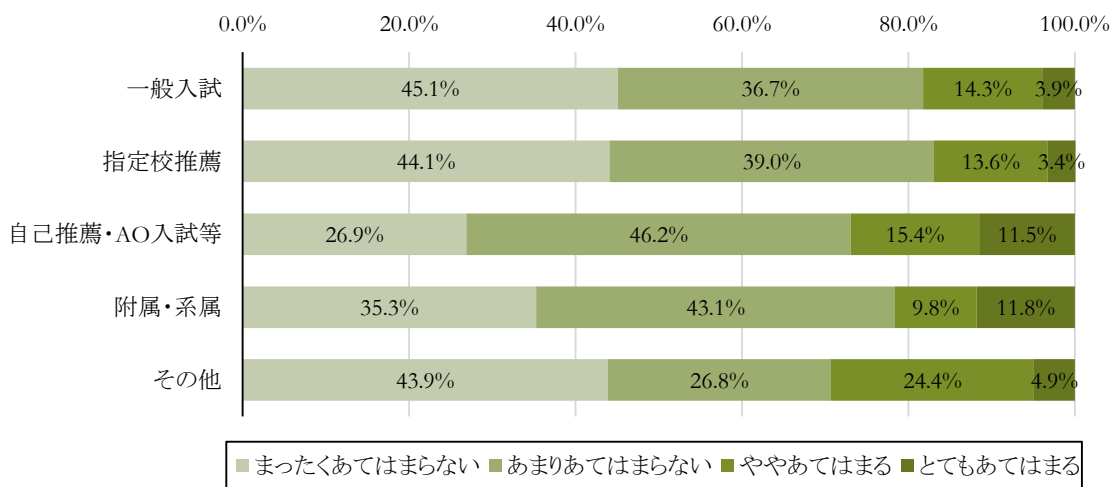


図2-12 受験理由_指導してほしい教員がその学部にいるから

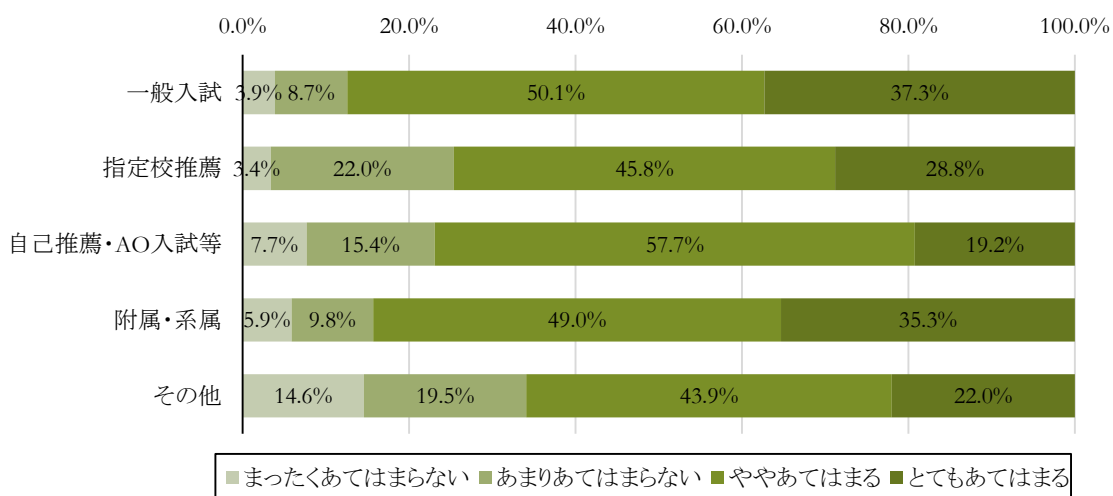


図 2-13 受験理由_学力(偏差値など)が適当であったから

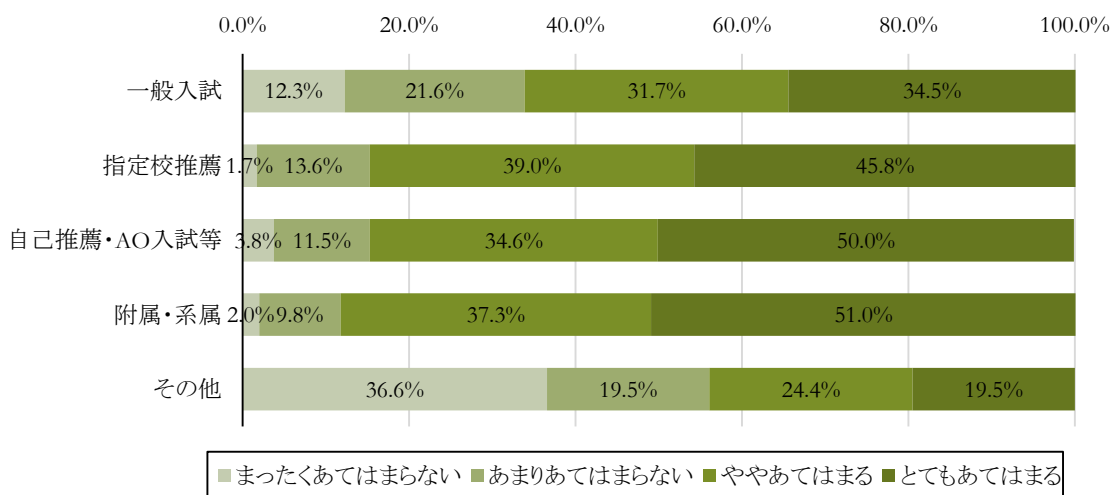


図 2-14 受験理由_進路選択の幅が広い学部を選択した

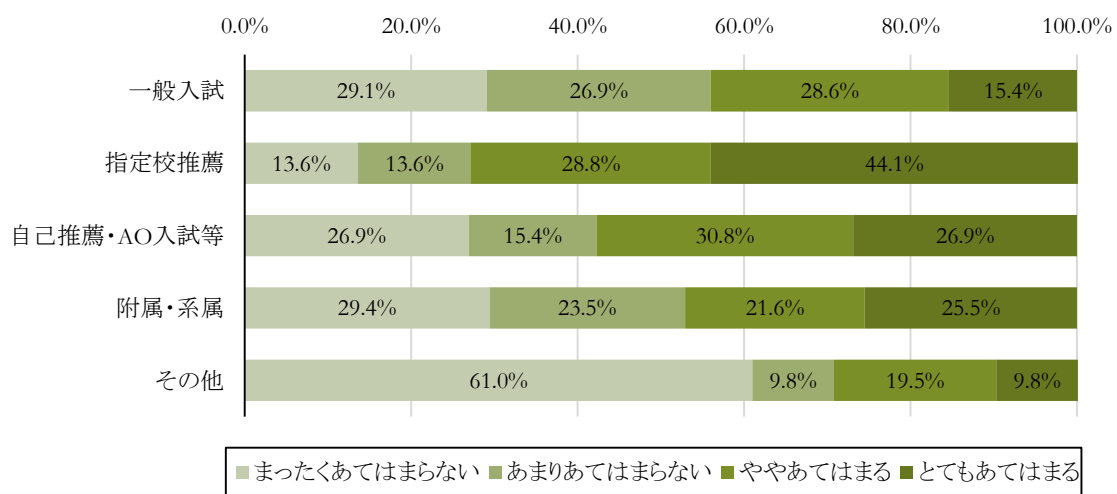


図 2-15 受験理由_高校の先生や家族または塾などで勧められたから

2. スループット

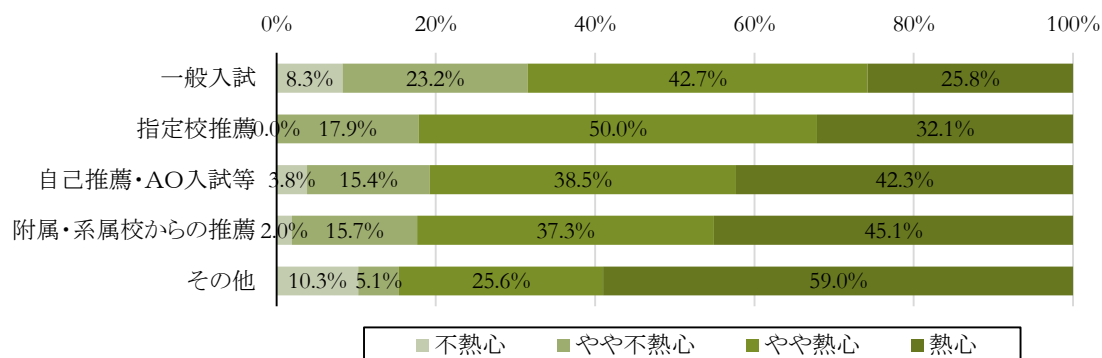


図 2-16 在学時の活動の熱心さ__専門科目

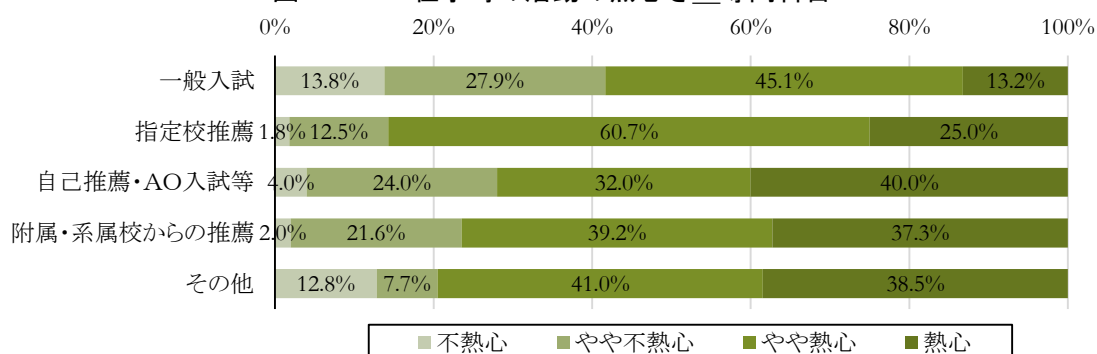


図 2-17 在学時の活動の熱心さ__一般教育科目

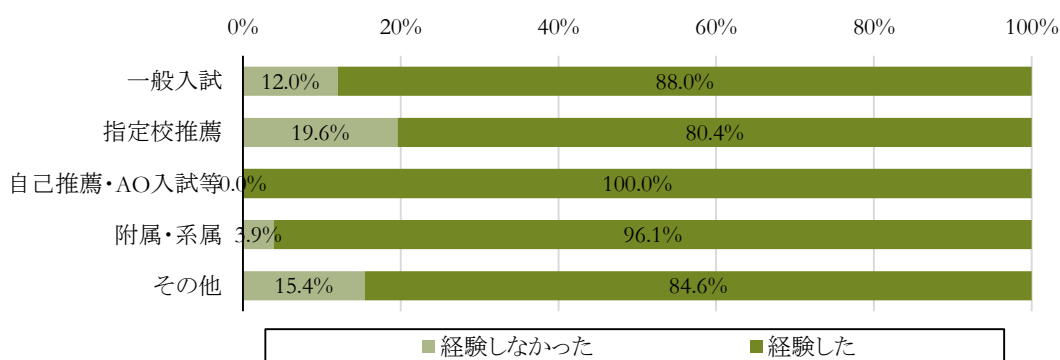


図 2-18 在学時の活動有無__ゼミ

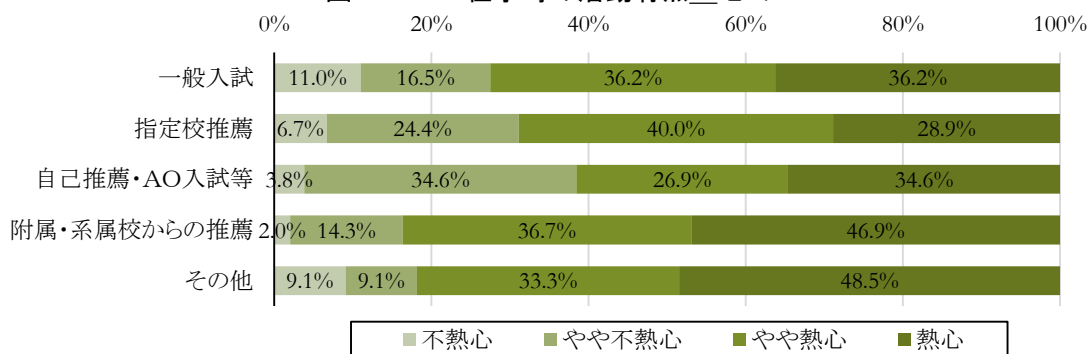


図 2-19 在学時の活動の熱心さ__ゼミ

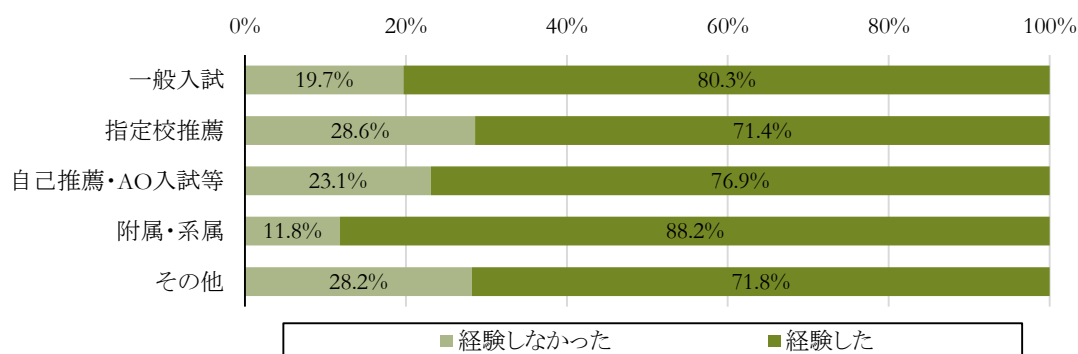


図 2-20 在学時の活動有無_卒業論文作成

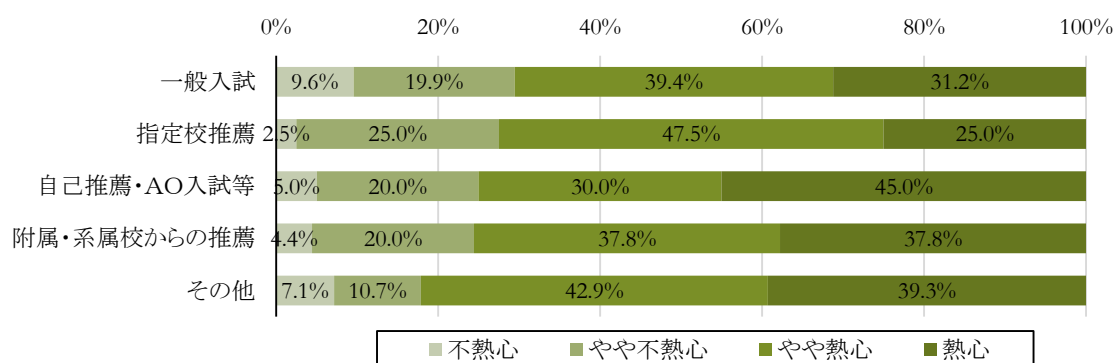


図 2-21 在学時の活動の熱心さ_卒業論文作成

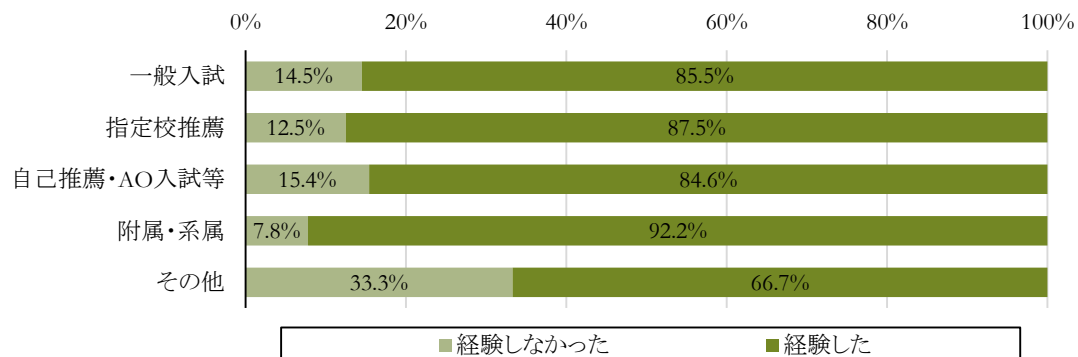


図 2-22 在学時の活動有無_部活動、サークル活動

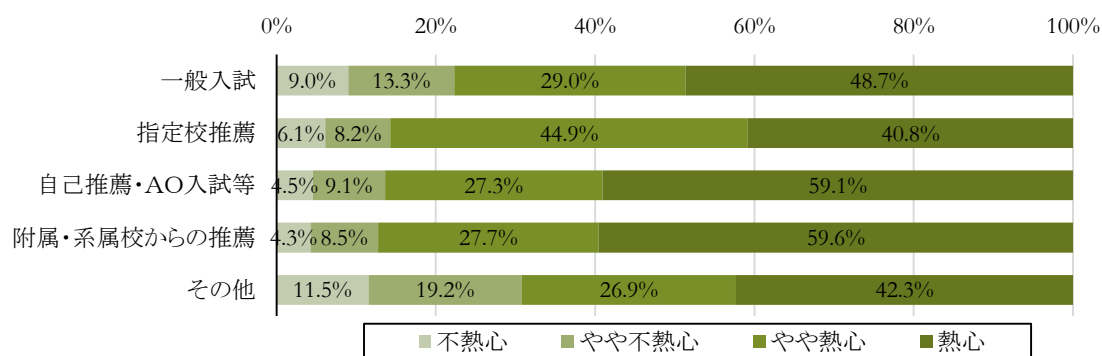


図 2-23 在学時の活動の熱心さ_部活動、サークル活動

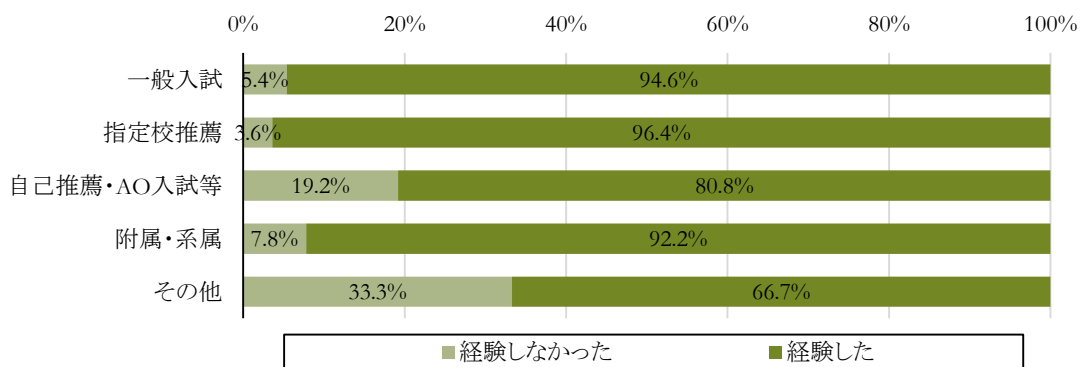


図 2-24 在学時の活動有無__アルバイト

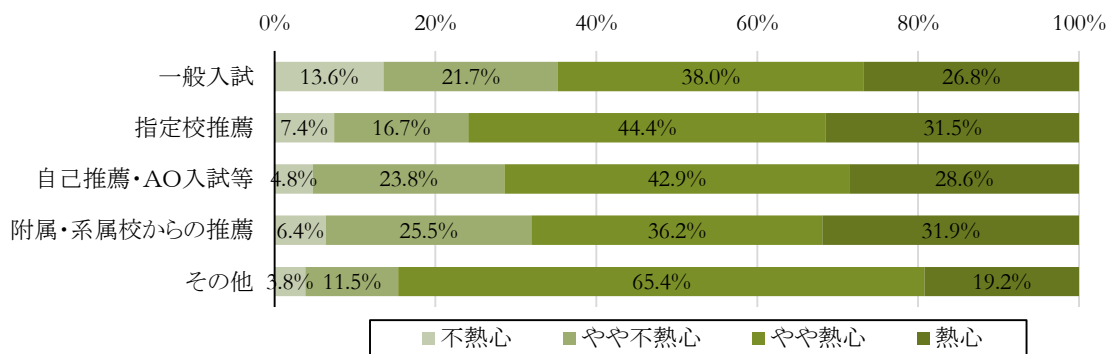


図 2-25 在学時の活動の熱心さ__アルバイト

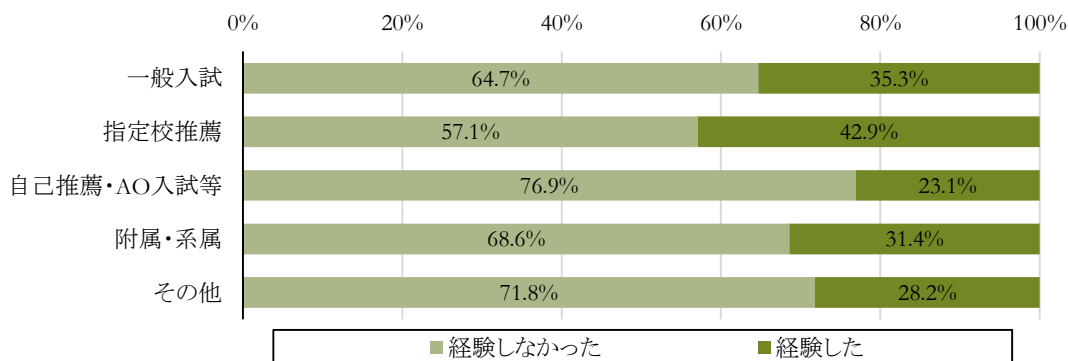


図 2-26 在学時の活動有無__ボランティア

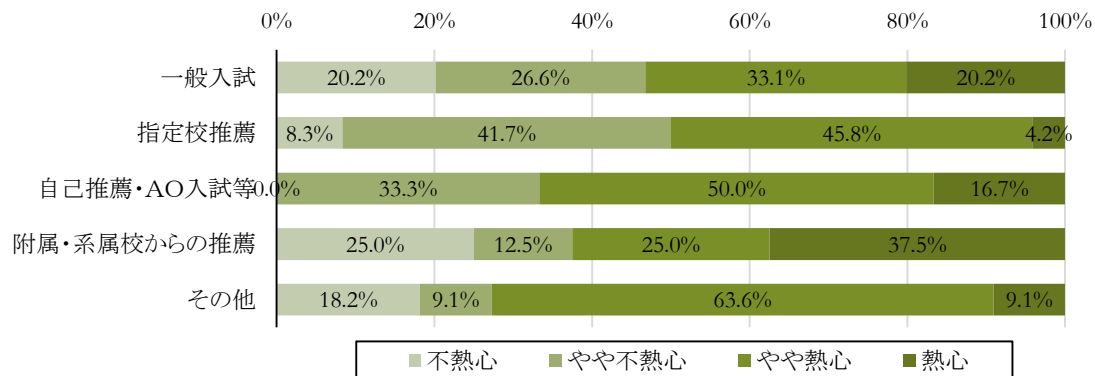


図 2-27 在学時の活動の熱心さ__ボランティア

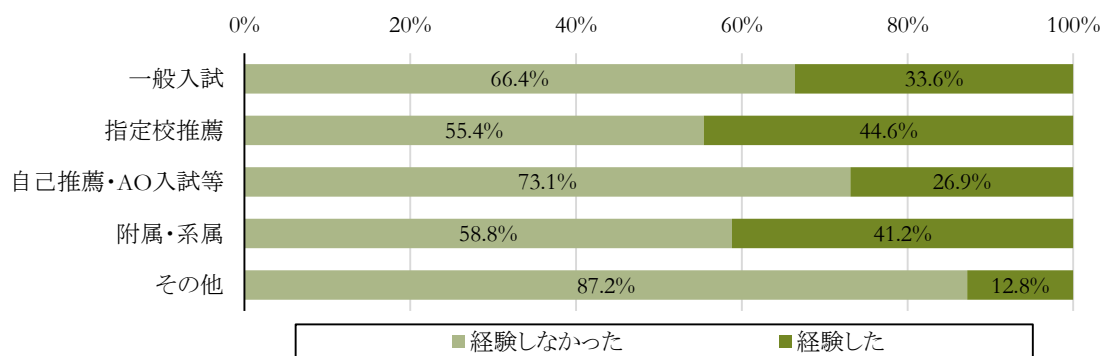


図 2-28 在学時の活動有無__インターンシップ

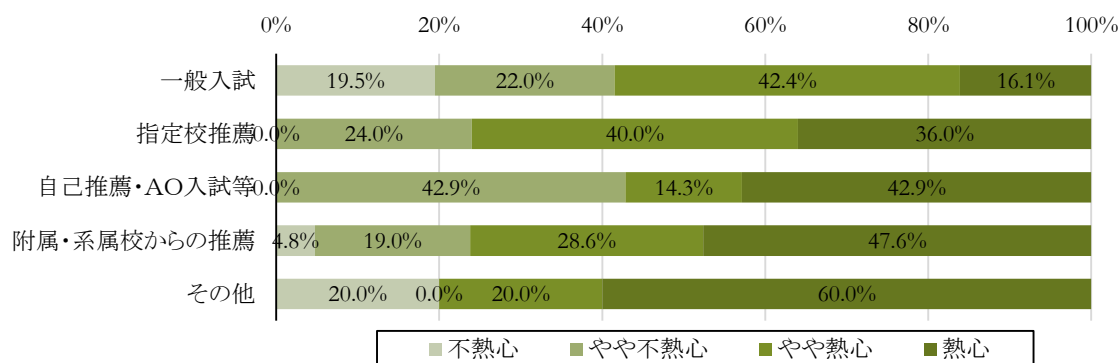


図 2-29 在学時の活動の熱心さ__インターンシップ

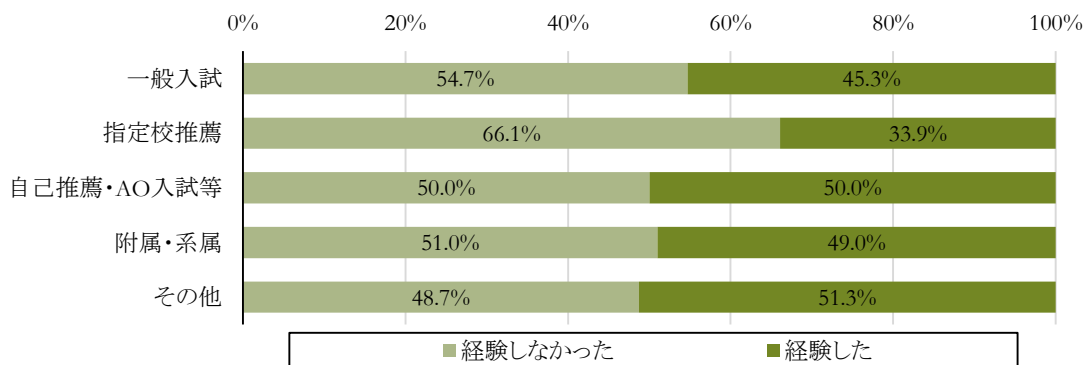


図 2-30 在学時の活動有無__早稲田大学以外での勉強

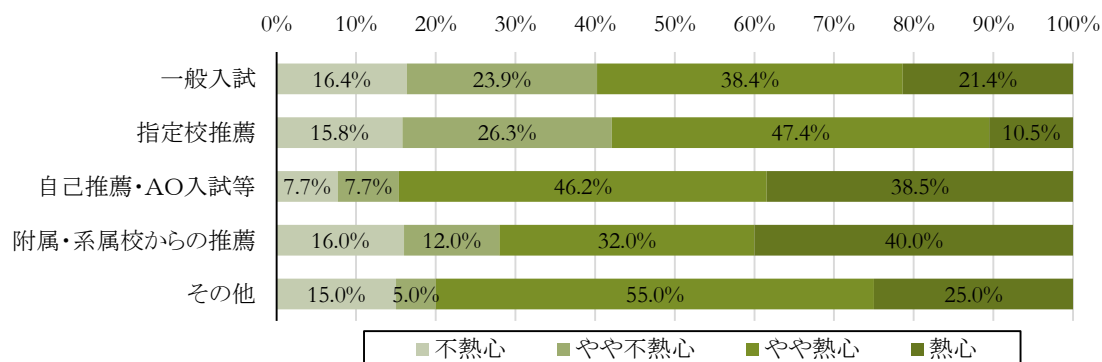


図 2-31 在学時の活動の熱心さ__早稲田大学以外での勉強

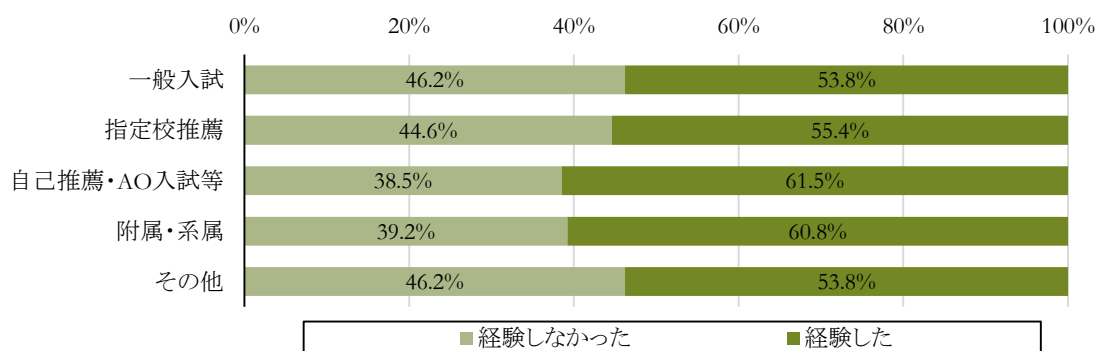


図 2-32 在学時の活動有無__資格取得や教職、国家試験勉強

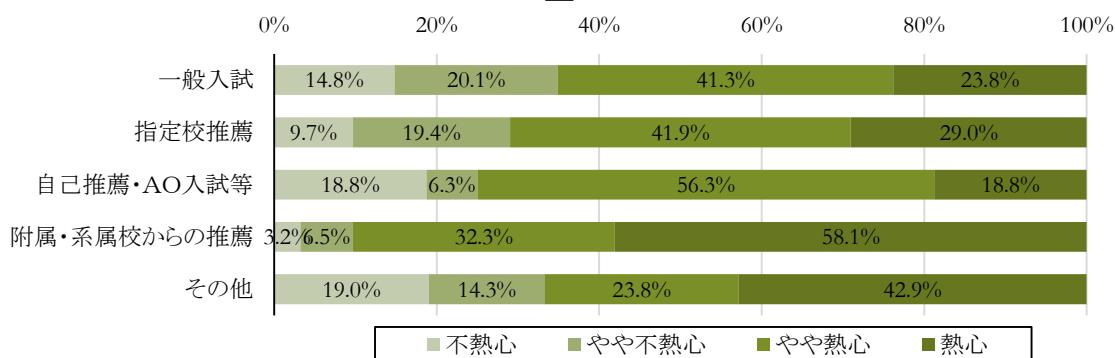


図 2-33 在学時の活動の熱心さ__資格取得や教職、国家試験勉強

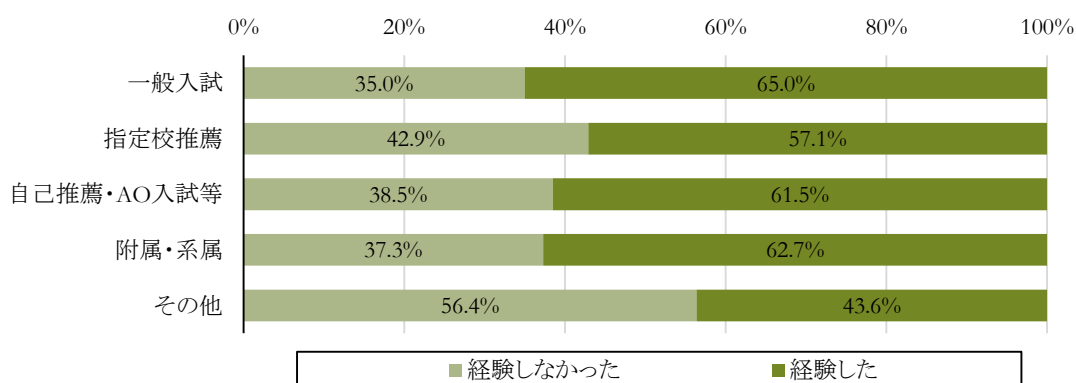


図 2-34 在学時の活動有無__大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）

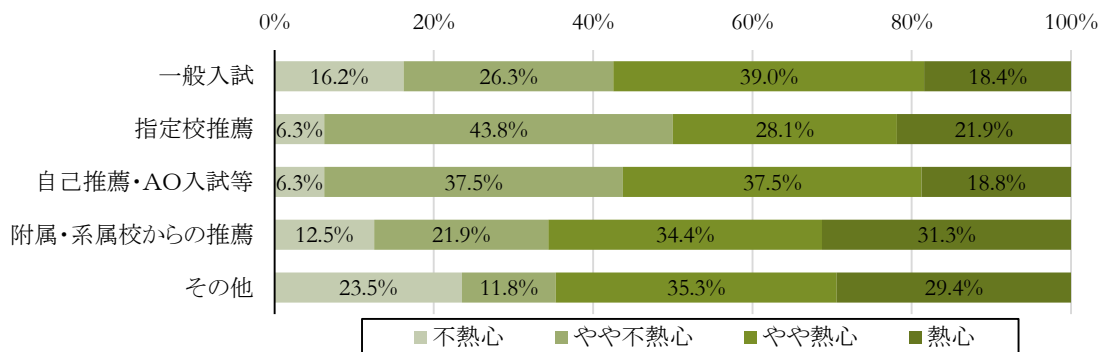


図 2-35 在学時の活動の熱心さ__大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）

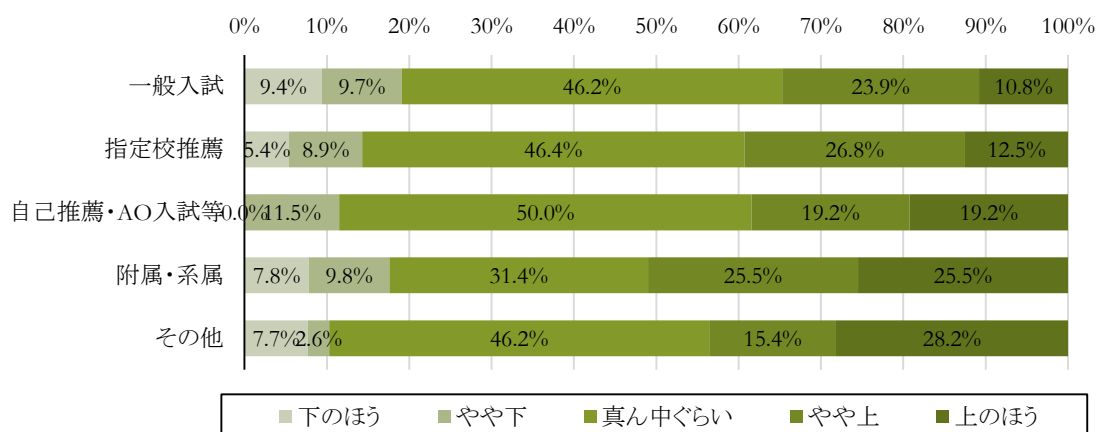


図 2-36 在学時の成績（1～2年）

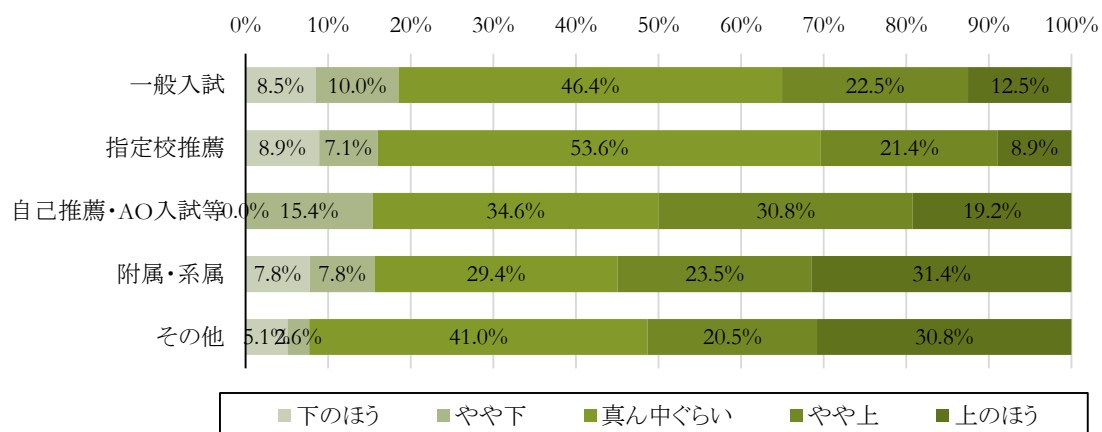


図 2-37 在学時の成績（3～4年）

3. アウトプット1

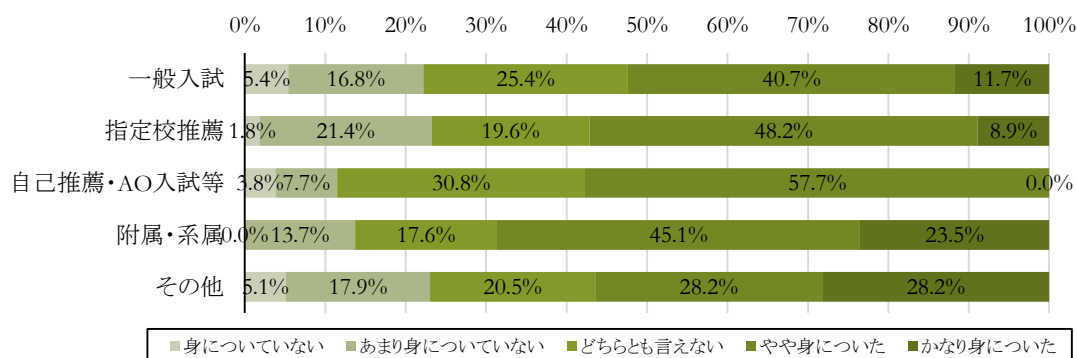


図 2-38 学部で身につけたもの_専門科目

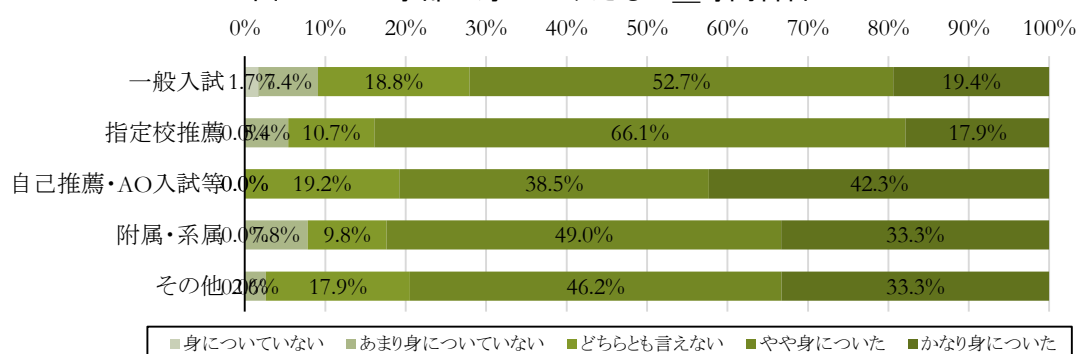


図 2-39 学部で身につけたもの_幅広い知識・教養

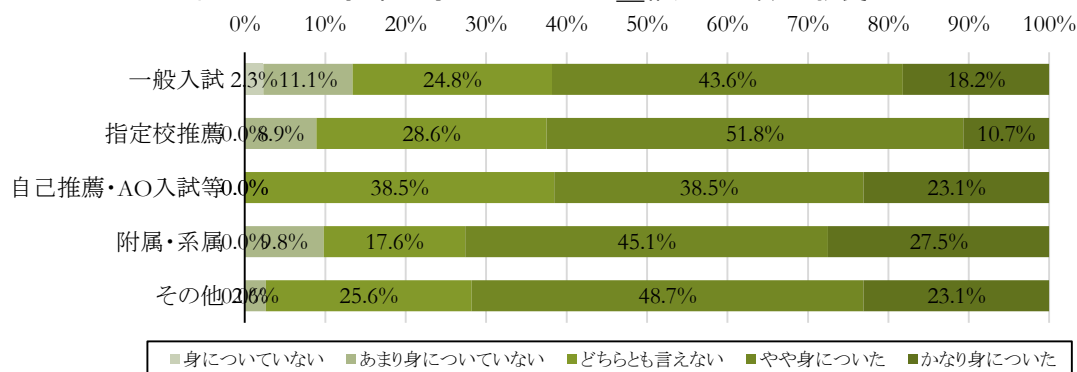


図 2-40 学部で身につけたもの_論理的思考能力

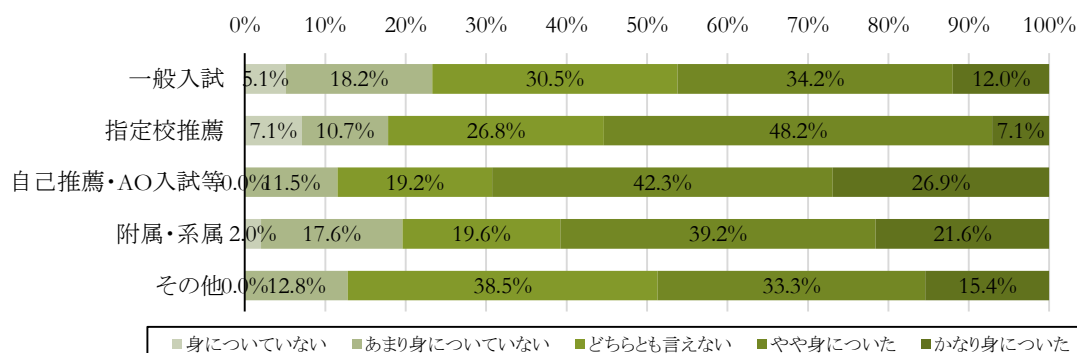


図 2-41 学部で身につけたもの_表現力・プレゼンテーション能力

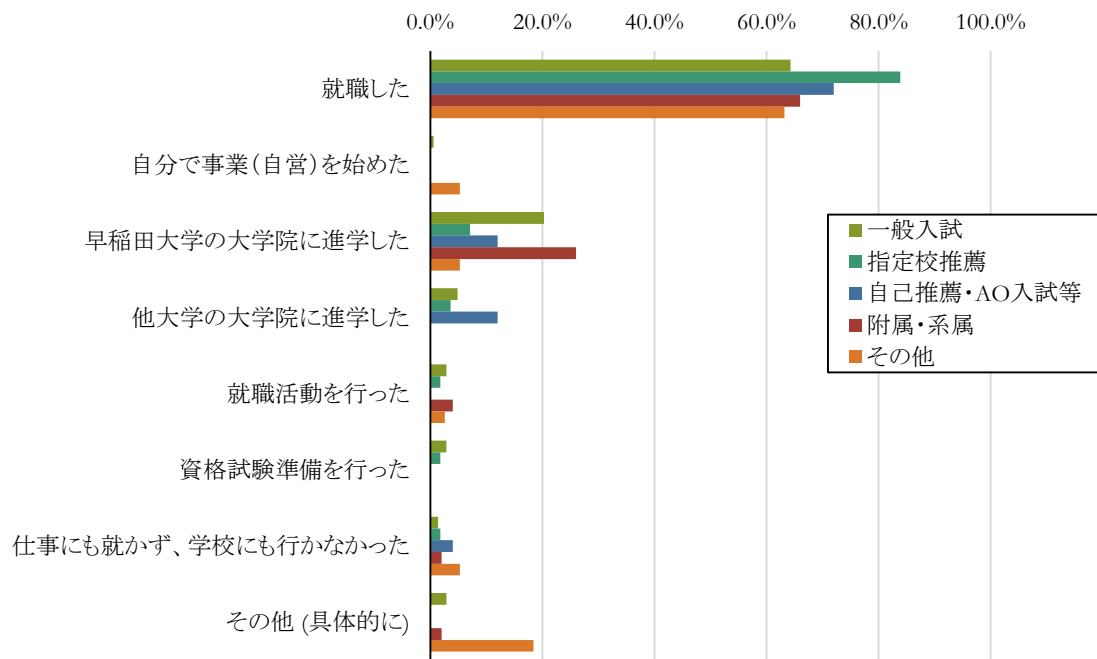


図 2-42 学部卒業時の進路

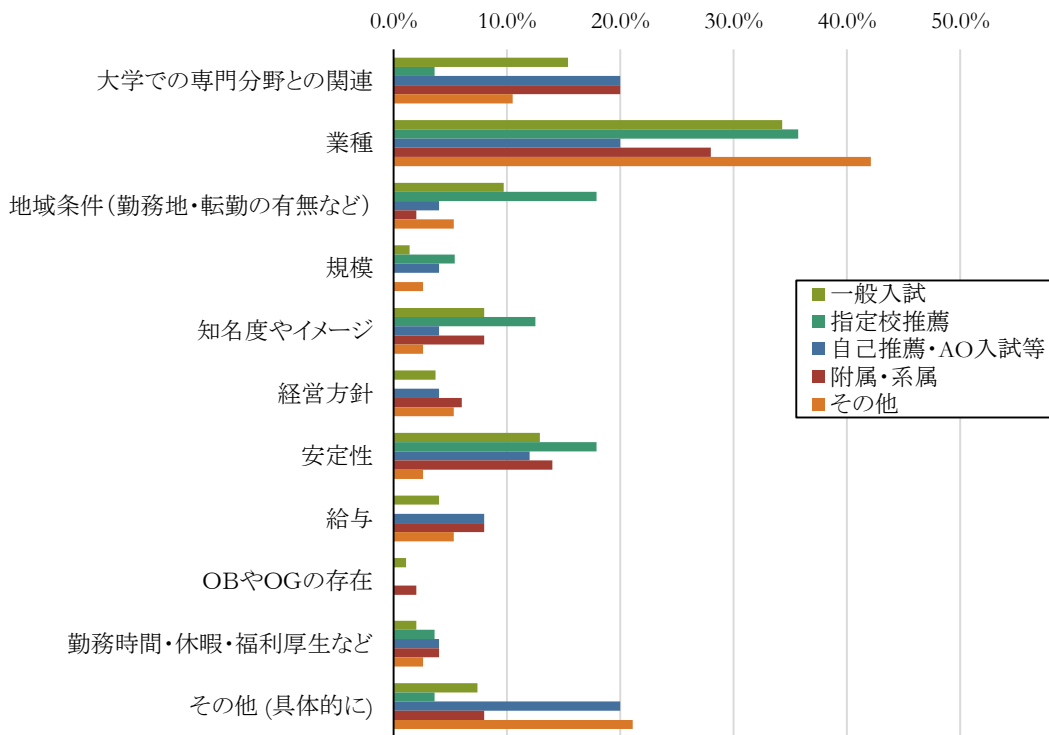


図 2-43 就職決定において最も重視したもの

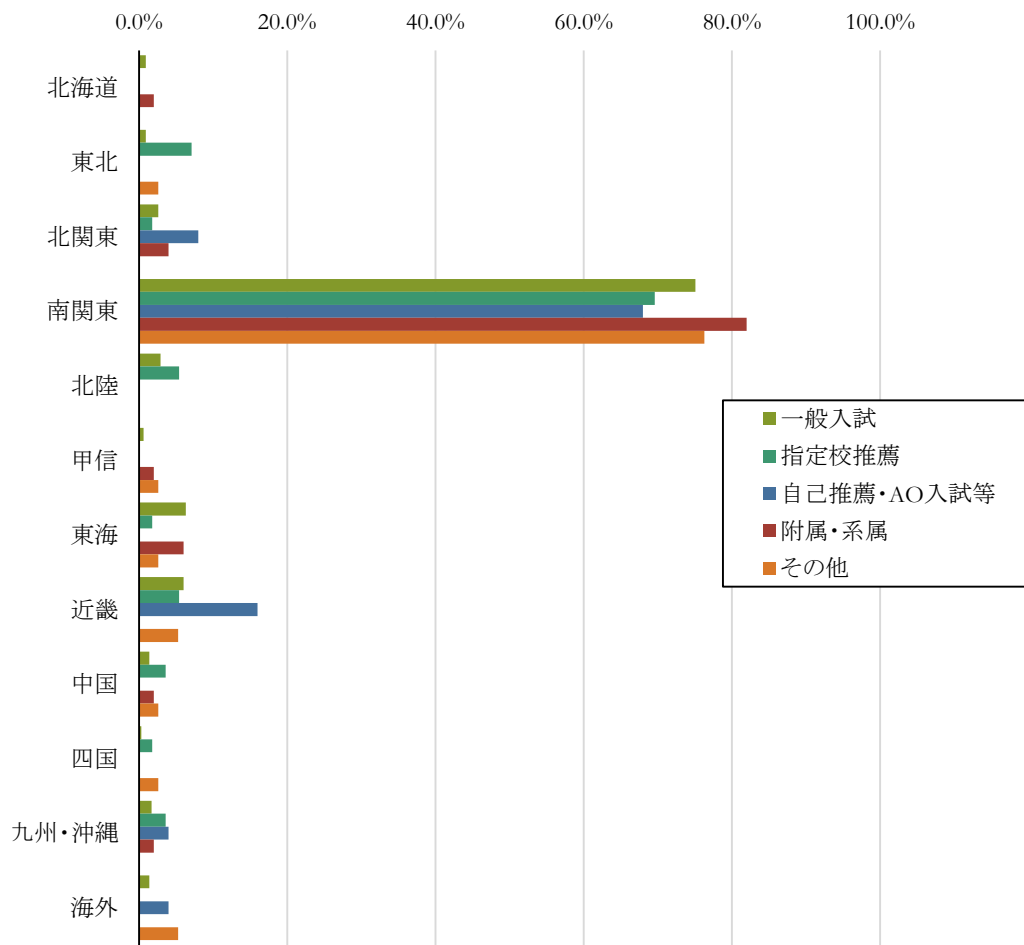


図 2 - 44 学部卒業後の居住地

4. アウトプット2

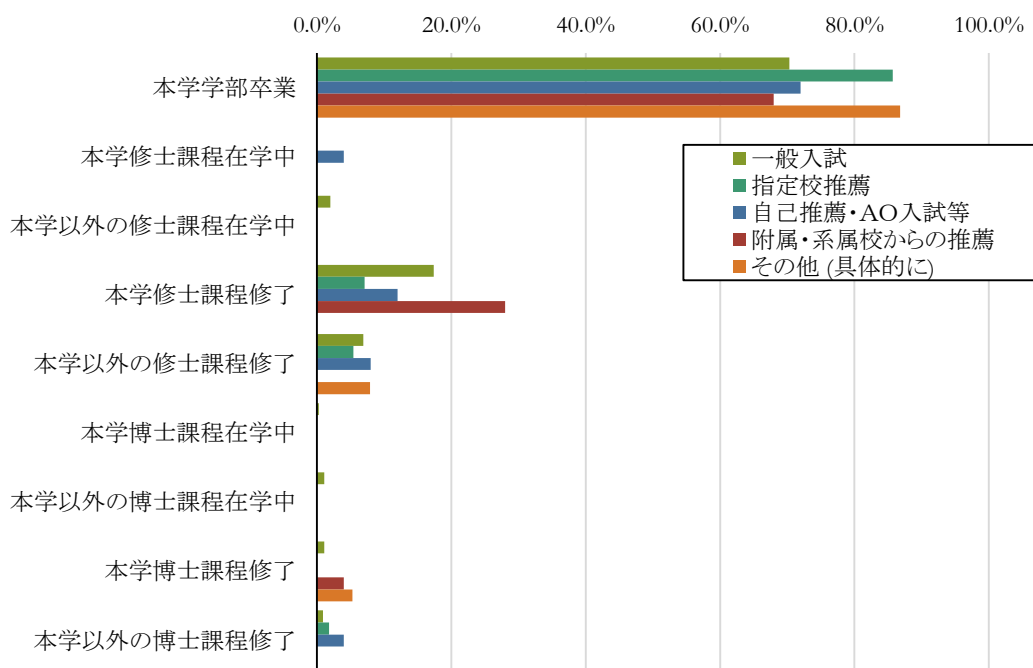


図 2-45 最終学歴

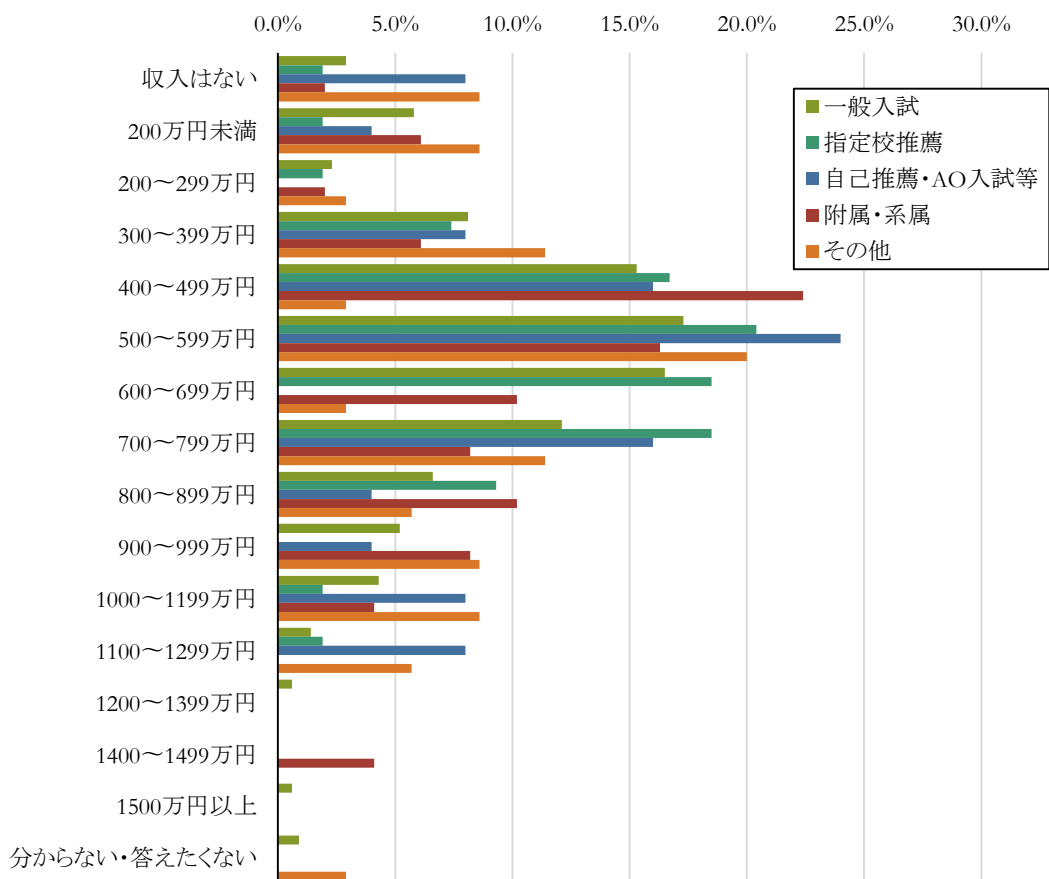


図 2-46 年収

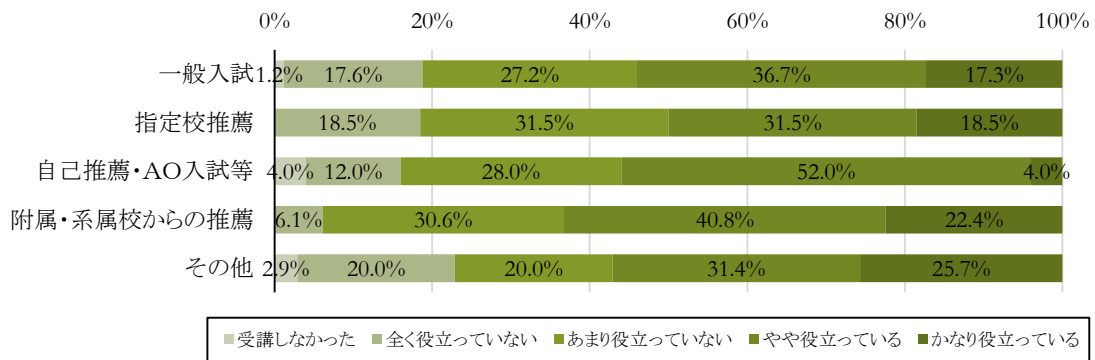


図 2-47 教育経験の役立ち度_専門科目

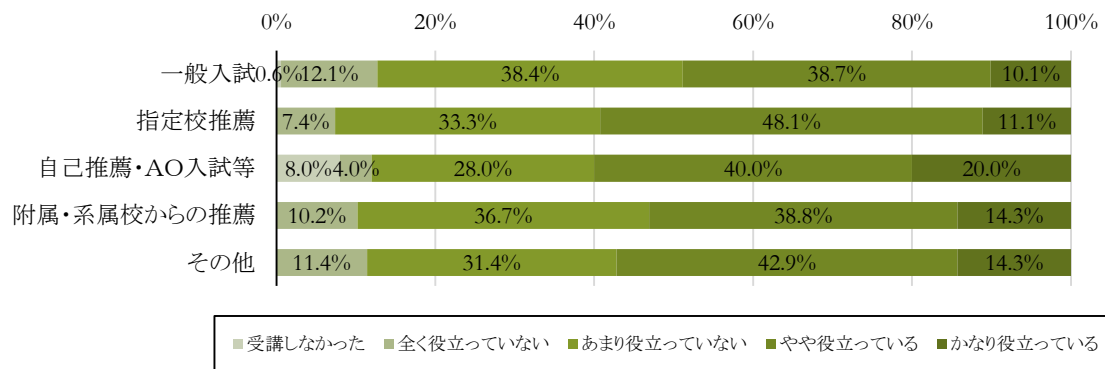


図 2-48 教育経験の役立ち度_一般教育科目

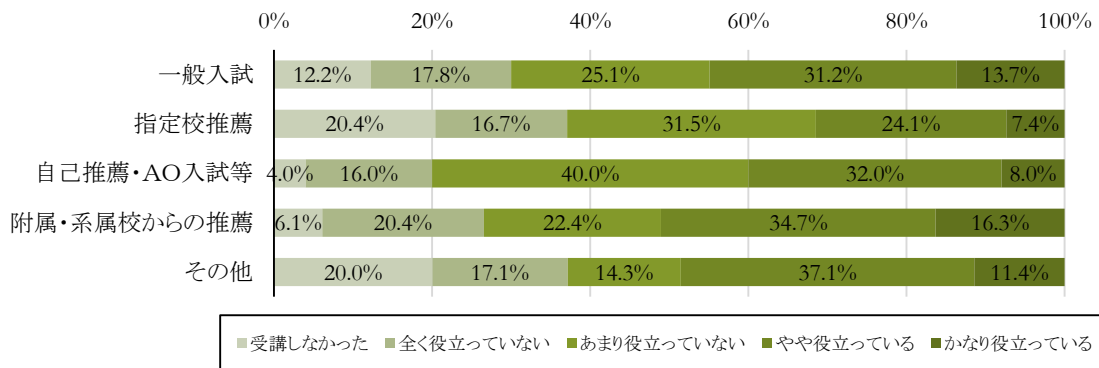


図 2-49 教育経験の役立ち度_ゼミ

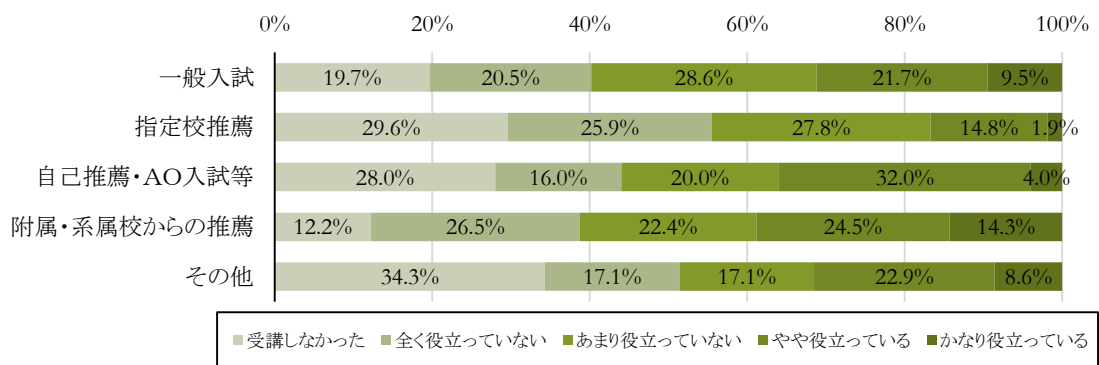


図 2-50 教育経験の役立ち度_卒業論文・卒業研究

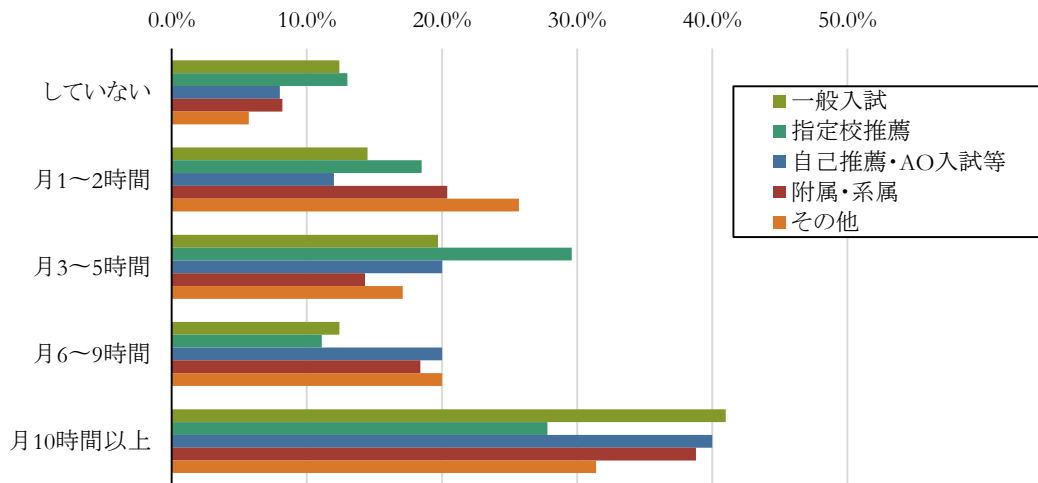


図2-51 現在読書に費やす月当たりの時間

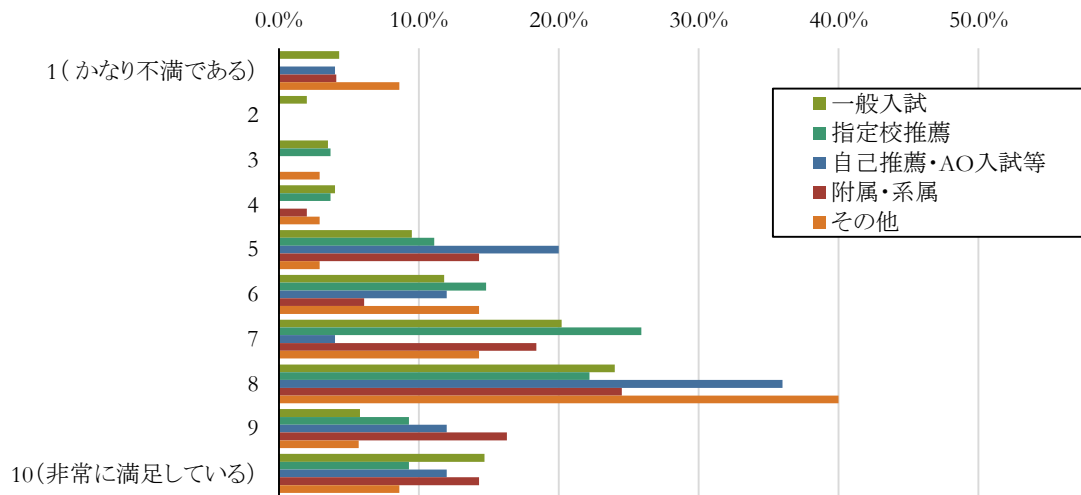


図2-52 現在の仕事上の満足度

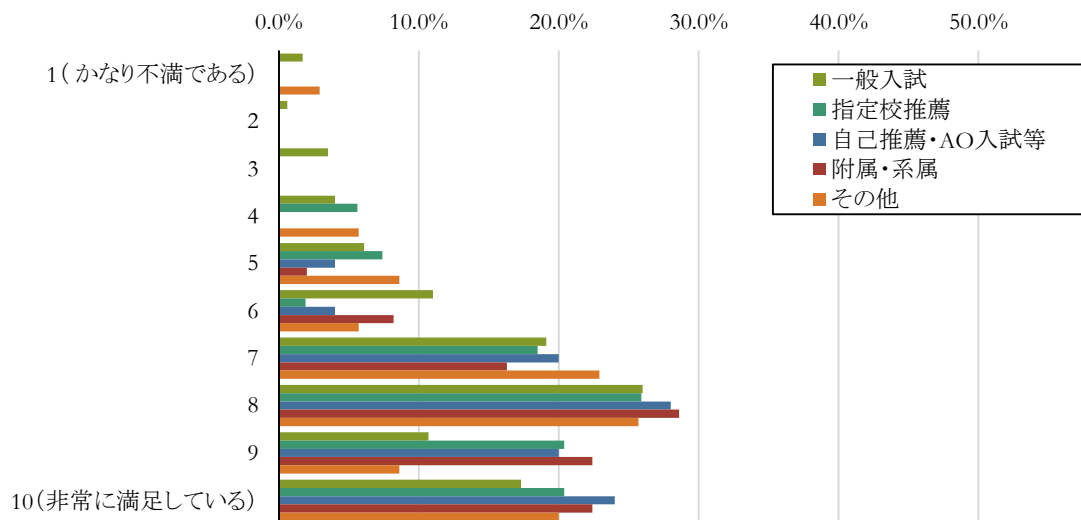


図2-53 現在の生活上の満足度

第3章 在学時の学びとアウトプットの関係⁸

本章では、これまで示してきた記述分析に加え、質問項目の構造でも示した(1)在学時の学びがアウトプットに繋がるのか、(2)そして繋がるとすれば、どのような学びがアウトプットに繋がるのかについて検証を行う。その際に、第1章で質問項目の構造を示したように(図1-3)、入学前のインプットの変数によって統制した結果を示す。

今回用いるスループットの変数がインプットの変数で統制したとしてもアウトプットと正の関係にあれば、能力獲得に当該活動の効果があると考ええる。

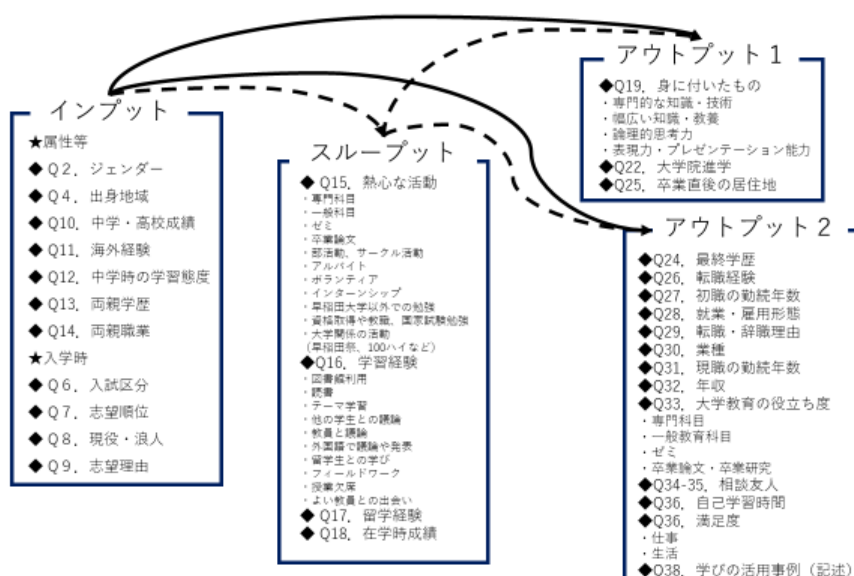


図1-3 質問項目の構造 (再掲)

今回の対象とするアウトプットとしては、学部で身につけた「専門的な知識・技術」、「幅広い知識・教養」、「論理的思考能力」、「表現力・プレゼンテーション」の4つ(「4つの能力」と呼ぶ)を取り上げる。

まず、これら4つの能力に1~2年、3~4年成績を加えた6つの相関関係を確認する。上述したとおり、現在、本学のIRでアウトプットとして用いられるのはGPAに限られており、卒業生調査で、成績以外の能力の獲得度がデータとして得られる点がこれまでの学内データにはかった特徴である。

この6つの相関関係をみると(表3-1)、成績と4つの能力間(色付き部分)には強い相関関係は認められず、最も高いもので「3~4年成績」と「専門的な知識・技術」の中程度の相関(.414)、最も低いもので「3~4年成績」と「表現力・プレゼンテーション」の弱相関(.268)を確認できる。

⁸ 分析に使用する変数の処理法については、本報告書「分析に使用した変数と分析結果の詳細について」(pp.48-54)を参照のこと。

表 3-1 成績と4つの能力の相関関係

| | 1~2年成績 | 3~4年成績 | 専門的な知識・技術 | 幅広い知識・教養 | 論理的思考能力 |
|-----------------|----------|----------|-----------|----------|----------|
| 3~4年成績 | .831 *** | — | — | — | — |
| 専門的な知識・技術 | .346 *** | .414 *** | — | — | — |
| 幅広い知識・教養 | .322 *** | .315 *** | .527 *** | — | — |
| 論理的思考能力 | .307 *** | .329 *** | .558 *** | .582 *** | — |
| 表現力・プレゼンテーション能力 | .279 *** | .268 *** | .432 *** | .403 *** | .602 *** |

** $p < .01$ 、*** $p < .001$ 。

1. 正課教育・課外活動とアウトプットの関係

次に、これら6つのアウトプットに対して、入学前の変数と受験理由を加え、そして在学時の経験を加えたモデルで検証を行った（表3-2）。なお、3つの中学時代の経験は主成分分析で得点化した値を用いた。検証の結果、明らかになったのはおもに3点である。

表 3-2 6つのアウトプットの規定要因（1）

| | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
|--------------------------|------------------------|-----------|----------|---------|-----------------|--------|--------|
| | | 専門的な知識・技術 | 幅広い知識・教養 | 論理的思考能力 | 表現力・プレゼンテーション能力 | 1~2年成績 | 3~4年成績 |
| 入学前 | 中学経験 | | | | | + | |
| | 高校3年の時 | | | | | + | + |
| 入学時 | 勉強したい分野がその学部にあったから | + | + | + | | | |
| | 就職に有利であると思ったから | — | | | | | |
| | 将来の希望する職業分野を勉強できるから | + | | | | | |
| | 資格の取得が有利であるから | + | | | | | |
| | 指導してほしい教員がその学部にいるから | + | | + | | | |
| | 学力（偏差値など）が適当であったから | + | | | | | |
| | 進路選択の幅が広い学部を選択した | | | | | | |
| | 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | | | | | | — |
| 在学時 | 専門科目 | + | | + | | + | + |
| | 一般教育科目 | | + | + | + | + | + |
| | ゼミ | + | | + | + | | |
| | 卒業論文作成 | + | + | | + | + | + |
| | 部活動、サークル活動 | | | | | — | — |
| | アルバイト | | | | | — | |
| | ボランティア | | | | | | |
| | インターンシップ | | | | | + | + |
| | 早稲田大学以外での勉強 | | | | | | |
| | 資格取得や教職、国家試験勉強 | | | | | | |
| 大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど） | | + | + | + | | | |
| n | 523 | 523 | 523 | 523 | 523 | 523 | |
| F値 | 17.956 | 11.192 | 8.636 | 7.634 | 14.671 | 15.449 | |
| 有意確率 | <.001 | <.001 | <.001 | <.001 | <.001 | <.001 | |
| Adj.R ² | .429 | .319 | .235 | .211 | .355 | .368 | |

第一に、入学前のインプットは成績と正の関係にある（⑤、⑥）。この結果は、統合 DWH を用いた分析において、インプット変数（高校ランク）と GPA 間に正の関係がみられたことと整合的である（大学総合研究センター 2019a）。さらに、成績については、課外活動の「部活動、サークル活動」や「アルバイト」に熱心なほど負に影響する。これらは、先行研

究（濱中 2016）の知見とも合致する。このように、アウトプットが成績の場合には、従来指摘されてきた結果と概ね合致する。

しかしながら、第二に、インプットと4つの能力との間には有意な関係は見いだせない（①～④）。今回用いた独立変数で、4つの能力といずれにも正の関係が確認できるものはないが、正課教育（専門教育、一般教育科目、ゼミ、卒業論文作成）が各アウトプットと正の関係にあり、「大学関係の活動」を除く課外活動はこれら4つの能力と有意な関係にはない。唯一、「大学関係の活動」に熱心であるほど、「幅広い知識・教養」、「論理的思考能力」、「表現力・プレゼンテーション」が高い。これは、これまで指摘されてこなかった知見である。

第三に、受験理由は専門的な知識・技術と正の関係にある。「専門的な知識・技術」（①）は、一部の項目を除き本学学部選定に強い動機があるほど、入学した学部の専門性の獲得に繋がっていると解釈できる。

ここまで能力の獲得という視点から大学教育の効果の検証を試みた。さらに踏み込んで、在学時の正課教育・課外活動がどのように能力獲得に繋がり、そして仕事や生活で活かされているのか、前回の報告書同様の分析モデルで検証する（大学総合研究センター 2019b）。分析モデルは、在学時の（1）教育活動と、（2）4つの能力の合計値（「能力合計」）の獲得、そして（3）4つの教育活動の役立ち度の合計値（「役立ち度合計」）間の関係を構造方程式モデルで検証するものである（表3-3）。

分析の結果、①～⑧まで前回と概ね同様の結果が得られ、能力をより獲得しているほど、より4つの教育活動は、役立っている傾向を確認できる（⑦）。

表3-3 役立ち度に関する構造方程式モデル

| | (1) | (2) | (3) | 推定値 (標準化) | 標準誤差 | 有意確率 |
|-----------|-----|------|-------------|--------------|------|------|
| ① 教員との出会い | --- | 能力合計 | | .267 | .112 | *** |
| ② 研究活動 | --- | 能力合計 | | .265 | .096 | *** |
| ③ 読書 | --- | 能力合計 | | .160 | .117 | *** |
| ④ 専門科目 | --- | 能力合計 | | .222 | .109 | *** |
| ⑤ 一般教育科目 | --- | 能力合計 | | .170 | .107 | *** |
| ⑥ ゼミ | --- | 能力合計 | | .122 | .075 | ** |
| ⑦ | | 能力合計 | ---> 役立ち度合計 | .413 | .044 | *** |
| ⑧ 卒業論文 | --- | --- | ---> 役立ち度合計 | .344 | .080 | *** |

** $p < .01$ 、*** $p < .001$ 。RMSEA (.248)

ただし、このモデルは、正課教育に限定されているため、課外活動も含め広く在学時の学びがどのように役立っているのか、具体的に自由記述からみてみたい。

i. 専門科目

専門科目については、資格取得と結び付くケースで役立ったとの記述がみられる。

| No. | 記述（一部抜粋：下線は筆者） |
|-----|--|
| 108 | 在学時は残念ながら希望のゼミに入れなかったが、専門科目だけでも知識・考え方を網羅的に深く掘り下げることができ、今でも自分の基盤となっている。 |
| 400 | 教育学部数学科の専門科目で学んだことは、 <u>アクチュアリー資格</u> に挑戦する上での土台になったと思います。 |
| 517 | 現在 <u>法曹</u> を目指して勉強しておりますので、学部時代の専門科目の勉強はかなり役立っています。 |

ii. 一般教育科目

一般教育科目は、視野や興味関心の広がり、さらには仕事上でも直接あるいは間接的に役に立ったとの記述が確認できる。

| No. | 記述（一部抜粋：下線は筆者） |
|-----|--|
| 119 | 仕事に直接役立ってはいないが、一般教養を身に付けることはできたと思う。また国内外問わず、政治・歴史・文化・宗教など幅広い分野に関心を持つことができ、 <u>視野が広がった</u> と感じます。 |
| 199 | 一般教養で <u>興味関心が広がり</u> 、現在の仕事に繋がった。 |
| 369 | マスコミで一般教養が必要とされるときに活用できるほか、刑事事件の取材などで法学部の専門教科の知識も役立つ |
| 439 | 一般教養の授業も多彩で大学時代に受けた漫画の授業など自分が授業をする上でネタとして使うこともある。多くのものを学んだことを糧にしている実感は少なからずある。 |

iii. ゼミ

ゼミについては、専門科目のように知識・技術が直接的に役立つ場面もあり（No.61、197、141、403、431）、その他に、プレゼンや討論会（No.12、92、432）、それらを準備する上でのスキル（No.360、415）、論理的あるいは複眼的思考力（No.92、234、255、433）、課題解決方法（No.500）などが養われ、仕事上で役立ったとの記述を確認できる。

| No. | 記述（一部抜粋：下線は筆者） |
|-----|---|
| 12 | ゼミでの <u>調査やプレゼン経験</u> は仕事でも活かしている |
| 61 | またゼミで先行したりハビリテーション医学の知識は仕事に直結し、PT や OT、看護師等との会話も比較的スムーズにできました。 |
| 92 | ゼミの <u>討論会や研究発表で学んだ、論理的思考や積極的姿勢、自分の個性を打ち出す意見出しなどを、会社での会議やディスカッションの場で、発揮できていること。</u> |
| 141 | 現在、学部時代のゼミで研究していた科目を担当する大学教員をしていることもあり、学部時代に学んだ <u>知識は直接的に生かされている。</u> |
| 160 | ジャーナリズムのゼミで得た多様な視点をもつてものごとを考えることが役立っています。 |
| 197 | 現在の仕事で英語を使う機会が多いが、ゼミで英語の文献を読んでいたのも、あまり抵抗感なく読める。 |
| 234 | 【仕事】講義やゼミ、課外活動を通じ、自分の仕事を俯瞰的・構造的にとらえる習慣が付き、日々自分の仕事の意義を感じながら働くことができている。 |

| | |
|-----|--|
| 255 | ゼミで得た論理的に考え、ロジカルにライティングする能力は仕事でも役立っています。 |
| 360 | ゼミ時の発表用に身に付けたパワポなどの Office ソフト使用経験が仕事し始めの時に役立った。 |
| 403 | 理工のゼミ中に身に着けた技術（機械設計、CNC 加工、プレゼンテーション、後輩への指導など）がそのまま仕事に生きている。 |
| 415 | ゼミでのディベートや、AIESEC でのマイクロソフトオフィスの多用は、社会人のベーススキルとして活かしています。 |
| 431 | 自然環境に関するゼミに所属していて、今もそれに関連する研究が仕事になっている。 |
| 432 | ゼミでの緊張感ある中でのプレゼン経験は、今の会社でのプレゼンや人前で話をするときに活かされていると思う。 |
| 433 | 経済、経営の基本知識、ゼミで学んだディスカッション力、ロジカルシンキング力は仕事に活かしていると思います。 |
| 500 | 政治哲学をゼミで学んだが、哲学の学問的な課題解決方法、思考方法が仕事上、答えの無いなか判断を行う必要がある場面で役に立っている。 |

iv. 卒業論文作成

卒業論文では、問題提起の方法や粘り強く対応する力が身についたと確認できる。

| No. | 記述（一部抜粋：下線は筆者） |
|-----|--|
| 301 | 研究室の活動や卒業論文の制作課程で粘り強く対応する力を身につけた。 |
| 128 | 卒論作成で学んだ論理的思考や、問題提議のやり方は、顧客への提案時の基礎となっている。 |

他方で、アルバイトは、1 件のみだが、肯定的な回答は確認できず、アルバイトに時間をかけるばかりに、真面目に学習できなかったことを後悔する回答があった。

| No. | 記述（一部抜粋：下線は筆者） |
|-----|--|
| 428 | 大学時代はアルバイトばかりしていて真面目に学ばなかったため(授業にはきちんと出席)、今とても後悔しています。 |

さらに、大学関係の活動という点では、「多様なタイプの学生とコミュニケーションをとりながら一つのことを成し遂げる」経験をし、それらが現在にも活かされている回答を確認できる。なお、No.54 の回答をみると、それらはゼミを通して養われたもので、類似した学びが得られるケースもあるのだろう。

| No. | 記述（一部抜粋：下線は筆者） |
|-----|--|
| 24 | 早稲田祭で密にコミュニケーションを取り合い、一つのことを進めた経験は、現在の業務にも生きている。コミュニケーションの重要性を学んだ。 |
| 54 | 多種多様なタイプの人とひとつのことを成し遂げることを早稲田祭実行委員やサークル活動、ゼミ活動から学び、今に活かしています。 |

部活動やサークル活動も類似した回答が見込まれるが、大括りな項目となっているために、今回の分類では、数量的にはその効果は表れないのかもしれない。

2. 正課教育とアウトプットの関係

次に、在学時の学びをより正課教育に限定して検証する（表3-4）。用いるモデルは、先ほどと同様にインプットの変数で統制し、在学時の正課教育のスループットの変数の効果を検証する。分析の結果、インプットの変数で統制したとしても、「自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした」や「授業内容について、他の学生と議論した」、「よい教員に巡り合えた」が3つないし4つのアウトプットと正の関係にある。ただし、「よい教員に巡り合えた」と成績は正の関係がみられない（⑪、⑫）。なお、「特別な理由なく授業を欠席し」ているほど、成績も含めたアウトプットと負の関係にある（⑦、⑧、⑪、⑫）。

表3-4 6つのアウトプットの規定要因（2）

| | | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ |
|------------------------|------------------------------|-----------|----------|---------|-----------------|--------|--------|
| | | 専門的な知識・技術 | 幅広い知識・教養 | 論理的思考能力 | 表現力・プレゼンテーション能力 | 1～2年成績 | 3～4年成績 |
| 入学前 | 中学経験 高校3年の時 | | | | | + | + |
| 入学時 | 勉強したい分野がその学部にあったから | + | | | | | |
| | 就職に有利であると思ったから | - | | | | | |
| | 将来の希望する職業分野を勉強できるから | + | | | | | |
| | 資格の取得が有利であるから | + | | | | | |
| | 指導してほしい教員がその学部にいるから | | | | | | |
| | 学力（偏差値など）が適当であったから | | | | | | |
| | 進路選択の幅が広い学部を選択した | | + | | | | |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | | | | | | - | |
| 在学時 | 図書館を利用した | | + | | | | |
| | 読書（漫画や雑誌を除く）をした | | + | + | | | |
| | 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした | + | | + | + | | + |
| | 授業内容について、他の学生と議論した | | + | + | + | + | + |
| | 授業内容について、教員と議論した | | | | | | |
| | 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした | | | | | | |
| | 留学生と一緒に学んだ | | | | | | |
| | 授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等） | | | | | | |
| | 特別な理由なく授業を欠席した | - | - | | | | - |
| | よい教員に巡り合えた | + | + | + | + | | |
| n | 523 | 523 | 523 | 523 | 523 | 523 | |
| F値 | 16.692 | 13.846 | 10.106 | 10.974 | 13.352 | 12.822 | |
| 有意確率 | <.001 | <.001 | <.001 | <.001 | <.001 | <.001 | |
| Adj.R ² | .375 | .330 | .259 | .276 | .321 | .312 | |

このモデルで用いた分析では、本学のディプロマ・ポリシーで設定する国際性がなく、「語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした」や、「留学生と一緒に学んだ」という項目がアウトプットに繋がっているのを見逃してしまう恐れがある。そこで、今一度、在学時の経験同様に、正課教育に関する自由記述からどのような能力を獲得したのか、示したい。

i. 図書館の利用

図書館を利用する経験は、根拠にあたる姿勢や情報収集において、それぞれの仕事にも活かされている。

| No. | 記述（一部抜粋：下線は筆者） |
|-----|--|
| 154 | 大きな図書館で自習できたことで <u>原典にあたることを怠らない勉強の仕方</u> を学び、現在の仕事でも <u>規程や根拠を理解しようとする姿勢が醸成された。</u> |
| 465 | 図書館を中心に、 <u>様々なものごとについて横断的に情報を収集したことが、業務においても役立つ</u> |

ii. 読書

読書経験は、仕事・プライベートでの人間関係を豊かにするという記述もある。

| No. | 記述（一部抜粋：下線は筆者） |
|-----|--|
| 324 | 仕事・プライベートを問わず、年齢差のある目上の方や海外の方など、バックグラウンドの異なる方と話す際に、教養やリベラルアーツの重要性を感じています。学部の一二年次に <u>学んだことやそれに触発された大学時代の読書</u> で培われたものがあってこそ、 <u>人間関係に深みを持たせられる</u> と思っています。 |

iii. 他の学生と議論する経験

課題発見・解決やプレゼンテーション、さらには合意形成の方法など仕事上におけるコミュニケーションに役立っている回答がみられる。

| No. | 記述（一部抜粋：下線は筆者） |
|-----|---|
| 359 | 演習の中で各自が色々なテーマに沿って、リサーチ・スタディを行い、それを発表して議論を行うという経験は、卒業後の実務においても <u>課題発見・解決やプレゼンテーションを行う際にとっても役立っています。</u> |
| 365 | 発表形式・討論形式の講義の経験がかなり活かされていると感じます。メーカー技術者として顧客への技術PR・共研提案を頻繁に行う立場にあり、「 <u>知識がない方にどのようなステップで理解してもらうか</u> 」「 <u>どのように合意形成を図るか</u> 」などを行う素養を大学で身に付けることができたと感じます。 |

iv. 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした

外国語で議論や発表をした経験は、直感的に予想される通りに、仕事で直接的に活かされたり、仕事上の機会もより多く得られているようだ。このように、国際性など今回用いた4つの能力以外も新たな項目として入れる余地はありそうだ。

| No. | 記述（一部抜粋：下線は筆者） |
|-----|---|
| 69 | 専門用語も含めて英語でのコミュニケーションが多いことから、国際教養学部での <u>授業で英語を使っていたことが大いに役立っている。</u> |
| 123 | 外国人相手でも <u>英語で討論できるスキルが仕事で活かしている</u> |
| 261 | アメリカに出張に行った際の <u>英語でのコミュニケーション</u> など学部で学んだことがいかされています。 |

| | |
|-----|---|
| 310 | 英語力:英語を使う仕事を担当する機会が多く得られている。 |
| 382 | 外資系企業がクライアントのほとんどを占めるため、英語が役に立っている。 |
| 421 | 授業中の発表や議論、留学の経験により、 <u>度胸がついた</u> 。海外旅行へ行った時に、英語を話せてちょっと良い顔をできる |
| 513 | 在学中はよく英語に触れていたので社会人になって <u>英語の文章や外人とのコミュニケーション</u> に変な苦手意識が無い。 |

3. 小括

本章は、在学時の学びとアウトプットについて、特に4つの能力に限定してその効果を分析した。明らかになったのは、以下の4点である。

第1に、成績（の自己認識）と知識も含めた資質・能力には強い相関は確認できない。

第2に、入学前のインプットの変数は、成績と正の関係があるものの、知識を含めた能力との間には有意な関係が見いだせず、在学時の学びに熱心あるいはよく経験するほど、4つの能力が高いことが示された。

第3に、今回用いた4つの能力については、正課の学びだけでなく、課外の大学関係の活動と正の関係にあった。

第4に、身に付いた能力は、自由回答の記述から仕事や生活において直接・間接的に、実際に活かされているケースも確認できた。

以上のような第3章の分析の含意は、第一に、成績以外の間接指標を用いたアウトプットの把握が必要であり、必ずしも成績に結びつかない要因を明らかできる点にある。たとえば、今回の分析では、(1)ゼミや(2)大学関係の活動、(3)よい教員との出会いは、成績に良い影響を与えてはいないが、能力の獲得に繋がっている（モデル①～④、⑦～⑩）。今後は自由回答の分析も含めて、具体的にどのような経験が能力獲得に繋がるのか、理論・実証面からのアプローチが望まれる。

そして、第二に、受験動機は専門性の獲得以外のアウトプットに繋がっていない点である。第2章で述べたとおり、入試区分別の分析においては、自己推薦・AO入試等が一般入試と比べ「表現力・プレゼンテーション能力」が高い。現状、大学が育成する学生像として、当該能力の優れた学生を想定する場合、求める学生像に合致する学生を一般入試とは別枠（自己推薦・AO入試等）で設定している。他方で、近年一般入試で、主体性評価も加えた選抜を実施する事例もあり（西郡 2019）、今後一般入試においても、多面的な評価・選抜の在り方が検討される余地はありそうだ。

補論一卒業生調査をどう活かすか

これまで、卒業生調査の入試区分別の記述的な分析結果（第2章）と、多変量解析による分析結果（第3章）を示してきた。これらのデータを今後どのように学内施策に活用できるのか、いくつか観点を提示したい。その際に、第1章でも示した吉本（2007）の目的の分類中の（4）教育改善（政策導入）について、たとえば2つの課題・可能性があげられる。

課題1. 大学のディプロマ・ポリシーに基づいた測定

課題2. プログラムレベルへのフィードバック

本報告書のなかで検討した4つの能力と成績の間には強い相関関係がみられないことから考えても、ディプロマ・ポリシーの達成度を測定するには、卒業後あるいは在学中にも成績以外に、別途検証する必要がある。

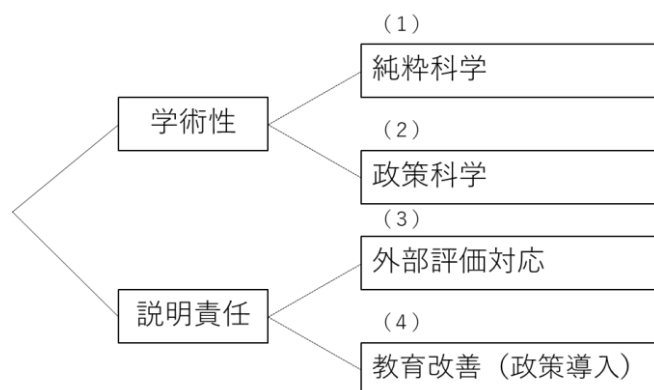
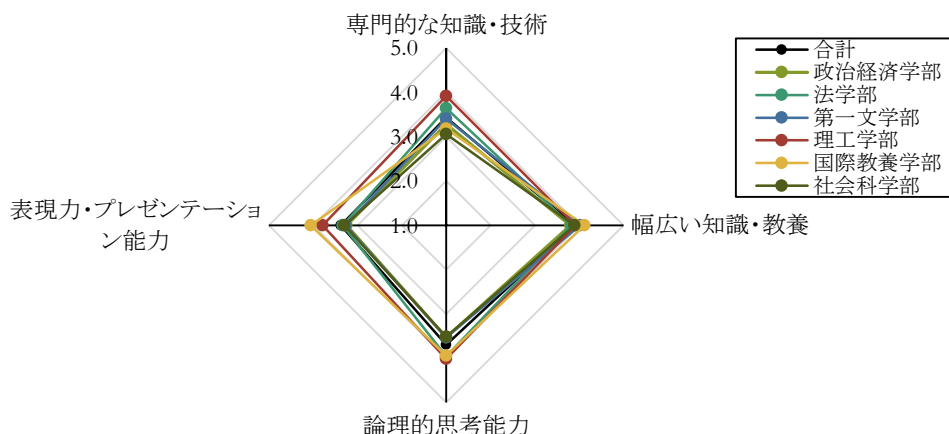


図1-2 卒業生調査を実施する目的の分類

そのような意味では、今回用いた「4つの能力」に追加あるいは代替して、現在公表されている以下の6つをどれだけ身に付けたのかについて尋ねるのが最も明快ではある。

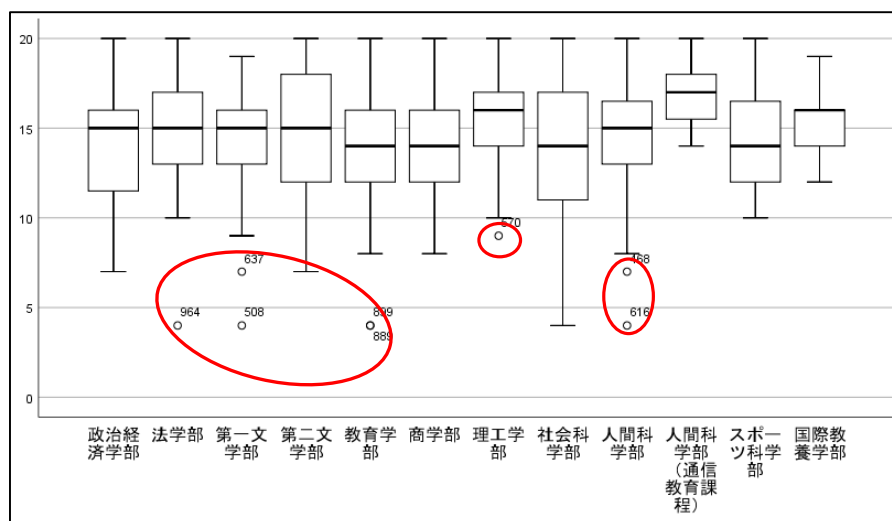
1. 構想・構築力：進取の精神を持って、伝統の殻を破る新しい概念を構築する力
2. 問題発見・解決力：新たな問題を言語化またはモデル化し、解を提案、論理的に説明する力
3. コミュニケーション力：能力や素養を活かすために、他者との相互理解を実現する力
4. 健全な批判精神：社会および自然界の事象を多面的に捉え、既存の問題設定や解を健全に批判し、建設的な提案を行う姿勢
5. 自律と寛容の精神：自主独立の精神を持って自他の個性を認め、公正な視点で多様性を受容する姿勢
6. 国際性：「たくましい知性」と「しなやかな感性」を持ち、多様な人々と協働して世界の様々な問題の解決に当たることができる姿勢

試みに、今回用いた「4つの能力」について、大学全体の平均値と各学部の平均値を示すと、各学部の特徴を可視化することができる。国際教養学部については、「表現力・プレゼンテーション能力」や「幅広い知識・教養」は全体と比べて高く、他方で「専門的な知識・技術」は全体と比べて低い。このように「全学と各学部の特徴を能力獲得の平均値で示し、カリキュラム改善のための参考資料として各学部へフィードバックする」方法は考えられる。



図補－1 「4つの能力」に関する大学全体と学部（一部）の平均値

さらに、これらは平均値であるので、外れ値（図補－2中赤枠）に着目して、外れ値がどのような特徴をもつ学生で、どのような施策によって能力獲得の改善の余地があるのかを検討することも考えられる。その際に、卒業生調査内のデータのみならず、統合DWHを用いた履修行動等に注目し、より深掘りした分析を行うことも考えられる⁹。

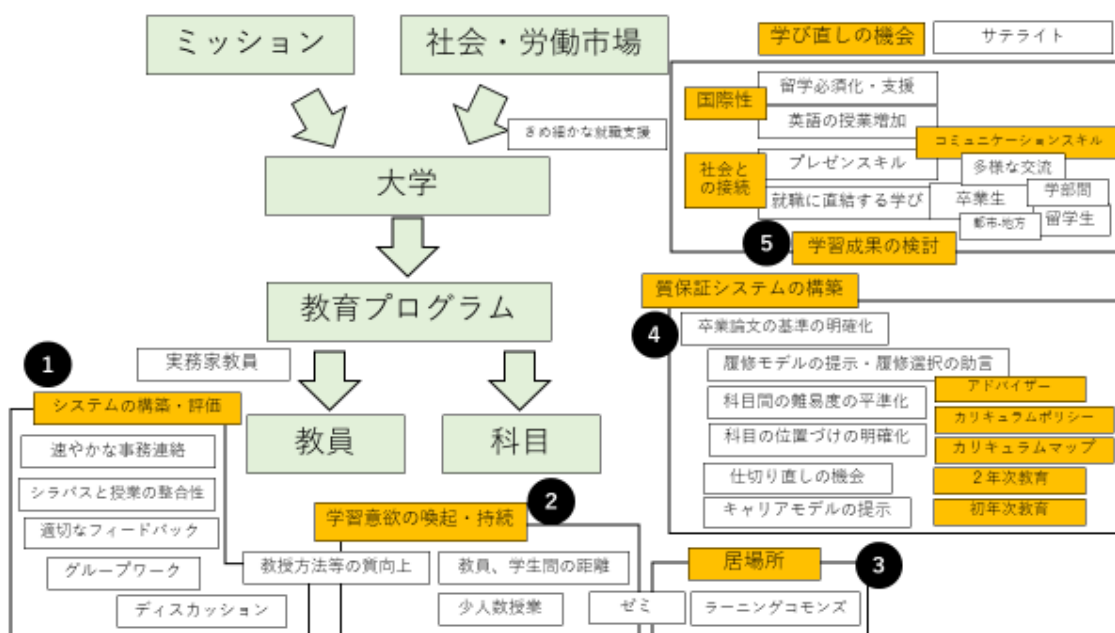


図補－2 学部別「4つの能力」合計値の箱ひげ図

⁹ 外れ値群の特徴を分析すると、第3章で扱った在学中の学びについてあまり積極的ではない、あるいは経験していない。そのため、在学時の将来展望について多面的に検証する必要がある。

このように、学内施策への活用を考えるのであれば、第3章の前提である問い「在学時の学びがアウトプットに繋がるのか、そして繋がるとすれば、どのような学びがアウトプットに繋がるのか」ではなく、「どのような学生が能力を獲得しないのか」を問いとして再分析することも考えられる。

最後に、教育改善に最も直接的に示唆があるのは、本報告書にも掲載している自由回答の記述である¹⁰ (pp.81-100)。それらを概念的に分類し、現在の各種施策と対応させ検討することも考えられる。図補-3は、社会・労働市場や大学、教育プログラム、教員・科目のレイヤーごとに、実際に社会・労働市場を経験している卒業生の声から、近い意見のカテゴリー化を試みたものである(図補-3)。白枠が実際の回答で、オレンジ枠がカテゴリーとなる。



図補-3 教育改善に関する自由回答記述の分類

図補-3中の①で言えば、LMSに該当するものである。今回対象とした卒業生の在学中(2006~2010年)は、表1-2(p.9)で示したように学内LMS(Course N@vi)が運用され始めた時期にあたるため、LMSの使用経験がそれほどなかったのかもしれない。また、⑤で言えば、卒業後の就労あるいは私生活の経験から在学中に身につけるべき能力やそれを養うための提案を直接的に示してくれる貴重なデータであり、ディプロマ・ポリシーやそれを達成するための各施策を継続して検討していく上での基礎資料となる可能性が高い。

¹⁰ 質問は以下の通り。「授業、カリキュラム、教員の指導など、本学が改善すべきであると思う点などについて、ご意見をお聞かせください。」。

以上、今後の卒業生調査の活用可能性について、(1) 大学のディプロマ・ポリシーに基づいた測定、(2) プログラムレベルへのフィードバックの観点から今回収集したデータをもとに案を提示した。これらを一案としつつ、引き続き検討したい。

参考文献

- Astin, A. W., 1993, *Assessment for Excellence: The Philosophy and Practice of Assessment and Evaluation in Higher Education*, Phenix: Arizona, ORYX Press.
- 大学基準協会（高等教育のあり方研究会・学習成果に関する調査研究部会），2018，『学習成果ハンドブック』。
- 大学総合研究センター，2019a，「DWH 分析サンプル」（センター内資料）。
- 大学総合研究センター（姉川恭子），2019b，「2018 年度卒業後 10 年調査報告書－大学時の学びは仕事に役立っている」（学内資料）。
- 濱中義隆，2016，「大学生の学習実態とその構造的特質」文部科学省中央教育審議会大学分科会資料 3
(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/10/28/1378453_04.pdf : 2020 年 3 月 6 日閲覧)。
- ，2017，「大学教育の成果をどう測るかー全国卒業生調査の国際的動向」国立教育政策研究所教育改革国際シンポジウム趣旨説明資料
(https://www.nier.go.jp/06_jigyousymposium/i_sympo29/pdf/01hamanaka_j.pdf : 2020 年 3 月 7 日閲覧)。
- HATO プロジェクト，2016，『平成 27 年度 HATO プロジェクト「教学 IR シンポジウム」－教学 IR の教員養成への応用可能性を探る』
(<http://www.u-gakugei.ac.jp/~tcenter/project/result/IR.pdf> : 2020 年 3 月 8 日閲覧)。
- 北海道大学高等教育推進機構編，2017，『IR ネットワーク 報告書 2016』
(<https://8gp.high.hokudai.ac.jp/data/report2016.pdf> : 2020 年 3 月 11 日閲覧)。
- 石田浩・有田伸・藤原翔・小川和孝，2016，「パネル調査から見る非認知的スキル、仕事の負担、結婚に影響する意識、資産の不平等－『働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査 (JLPS) 2015』の結果から」東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクトディスカッションペーパーシリーズ，94。
- 関西学院大学，n.d.，「【2019 年度】『関西学院大学 卒業生調査』の実施について」
(https://www.kwansei.ac.jp/highedu/news/detail/notice_20191210_023592.html : 2020 年 3 月 11 日)。
- 国立教育政策研究所，2017，『大学教育の成果をどう測るかー全国卒業生調査の国際的動向』平成 29 年度 教育改革国際シンポジウム報告書
(https://www.nier.go.jp/06_jigyousymposium/i_sympo29/pdf/99report.pdf : 2020 年 3 月 13 日閲覧)。
- 文部科学省，2015，「大学等における社会人の実践的・専門的な学び直しプログラムに関する検討会」資料 3
(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/065/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2015/04/13/1356047_3_2.pdf : 2020 年 3 月 11 日閲覧)。

- 日本医学教育学会コア・コンピテンス教育委員会, 2015, 「コア・コンピテンス教育に関する調査報告書」 (http://jsme.umin.ac.jp/com/eoc/CCE_Report2015.pdf : 2020年3月11日閲覧)。
- お茶の水女子大学, 2001, 「卒業生・修了生のライフコースと国立女子大学の将来像に関する調査結果報告書」 (http://www.ocha.ac.jp/archive/plaza/press/h13life_course.pdf : 2020年3月11日閲覧)。
- 西郡大, 2019, 「多面的・総合的評価がもたらす教育の質保証」 リクルート進学総研『カレッジマネジメント』214, pp.6-10.
- 白井克彦, 2010, 「式辞—社会を育てる力、世界を思う心」『早稲田学報』1181, p.44。
- 吉本圭一, 2007, 「卒業生を通じた『教育の成果』の点検・評価方法の研究」『大学評価・学位研究』5, pp.77-107.
- 早稲田大学 HP, n.d., 「WASEDA VISION 150 数値目標」 (<http://www.waseda.jp/keiei/vision150/target.html#05> : 2020年3月11日閲覧)。

付録

1. 分析に使用した変数と分析結果の詳細について

・分析に使用した変数

| 大項目 | 中項目 | 変数名 | 変数処理 | N | 平均値 | 最小値 | 最大値 |
|----------------------------|--------------------------|---|--|-------|------|-------|------|
| 入学前 | 中学経験 | 【勤勉性】少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した | 「あてはまらない」、「どちらかといえばあてはまらない」、「どちらかといえばあてはまる」、「あてはまる」にそれぞれ1～4を割当て。 | 534 | 3.28 | 1.00 | 4.00 |
| | | 【まじめさ】学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ | | 534 | 3.02 | 1.00 | 4.00 |
| | | 【忍耐力】なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた | | 534 | 3.14 | 1.00 | 4.00 |
| | | 【勤勉性】【まじめさ】【忍耐力】の主成分 | | 534 | 0.00 | -2.88 | 1.17 |
| | 高3成績 | 高校3年の成績 | 「下のほう」、「やや下」、「真ん中ぐらい」、「やや上」、「上のほう」にそれぞれ1～5を割当て。 | 534 | 3.66 | 1.00 | 5.00 |
| | 留学 | 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。 | 「ない」、「短期（数週間～3ヶ月未満）」、「中期（3ヶ月以上～約半年：1学期のみを含む）」、「長期（半年以上：2学期以上を含む）」にそれぞれ1～4を割当て。 | 534 | 1.35 | 1.00 | 4.00 |
| 入学時 | 受験理由 | 勉強したい分野がその学部にあったから | 「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」、「ややあてはまる」、「とてもあてはまる」にそれぞれ1～4を割当て。 | 534 | 3.27 | 1.00 | 4.00 |
| | | 就職に有利であると思ったから | | 534 | 2.85 | 1.00 | 4.00 |
| | | 将来の希望する職業分野を勉強できるから | | 534 | 2.81 | 1.00 | 4.00 |
| | | 資格の取得が有利であるから | | 534 | 2.08 | 1.00 | 4.00 |
| | | 指導してほしい教員がその学部にいるから | | 534 | 1.82 | 1.00 | 4.00 |
| | | 学力（偏差値など）が適当であったから | | 534 | 3.13 | 1.00 | 4.00 |
| | | 進路選択の幅が広い学部を選択した | | 534 | 2.95 | 1.00 | 4.00 |
| | | 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | | 534 | 2.37 | 1.00 | 4.00 |
| 在学時 | 成績 | 1～2年成績 | 「下のほう」、「やや下」、「真ん中ぐらい」、「やや上」、「上のほう」にそれぞれ1～5を割当て。 | 523 | 3.26 | 1.00 | 5.00 |
| | | 3～4年成績 | | 523 | 3.29 | 1.00 | 5.00 |
| | 在学時の活動① | 専門科目 | 「経験しなかった」、「不熱心」、「やや不熱心」、「やや熱心」、「熱心」にそれぞれ0～4を割当て。 | 523 | 2.97 | 0.00 | 4.00 |
| | | 一般教育科目 | | 523 | 2.72 | 0.00 | 4.00 |
| | | ゼミ | | 523 | 2.67 | 0.00 | 4.00 |
| | | 卒業論文作成 | | 523 | 2.36 | 0.00 | 4.00 |
| | | 部活動、サークル活動 | | 523 | 2.72 | 0.00 | 4.00 |
| | | アルバイト | | 523 | 2.61 | 0.00 | 4.00 |
| | | ボランティア | | 523 | 0.89 | 0.00 | 4.00 |
| | | インターンシップ | | 523 | 0.92 | 0.00 | 4.00 |
| | | 早稲田大学以外での勉強 | | 523 | 1.23 | 0.00 | 4.00 |
| | | 資格取得や教職、国家試験勉強 | | 523 | 1.57 | 0.00 | 4.00 |
| | 大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど） | 523 | 1.64 | 0.00 | 4.00 | | |
| | 在学時の活動② | 図書館を利用した | 「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」、「ややあてはまる」、「とてもあてはまる」にそれぞれ1～4を割当て。 | 523 | 3.43 | 1.00 | 4.00 |
| | | 読書（漫画や雑誌を除く）をした | | 523 | 3.11 | 1.00 | 4.00 |
| | | 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした | | 523 | 2.57 | 1.00 | 4.00 |
| | | 授業内容について、他の学生と議論した | | 523 | 2.62 | 1.00 | 4.00 |
| | | 授業内容について、教員と議論した | | 523 | 2.19 | 1.00 | 4.00 |
| | | 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした | | 523 | 1.59 | 1.00 | 4.00 |
| | | 留学生と一緒に学んだ | | 523 | 1.89 | 1.00 | 4.00 |
| 授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等） | | 523 | | 1.84 | 1.00 | 4.00 | |
| 卒業時/卒業後 | 能力の獲得度 | 特別な理由なく授業を欠席した | 「身についていない」、「あまり身についていない」、「どちらとも言えない」、「やや身についていた」、「かなり身についていた」の回答についてそれぞれ1～5を割当て。 | 523 | 2.40 | 1.00 | 4.00 |
| | | よい教員に巡り会えた | | 523 | 3.06 | 1.00 | 4.00 |
| | | 専門的な知識・技術 | | 523 | 3.43 | 1.00 | 5.00 |
| | | 幅広い知識・教養 | | 523 | 3.89 | 1.00 | 5.00 |
| | 役立ち度 | 論理的思考能力 | 「全く役立っていない」、「あまり役立っていない」、「やや役立っている」、「かなり役立っている」にそれぞれ1～5を割当て。 | 523 | 3.70 | 1.00 | 5.00 |
| | | 表現力・プレゼンテーション能力 | | 523 | 3.38 | 1.00 | 5.00 |
| | | 専門科目 | | 509 | 2.46 | 1.00 | 5.00 |
| | | 一般教育科目 | | 509 | 2.50 | 1.00 | 5.00 |
| | | ゼミ | | 506 | 2.86 | 1.00 | 5.00 |
| | | 卒業論文・卒業研究 | | 509 | 3.25 | 1.00 | 5.00 |
| 合計値 | 能力合計 | 4つの能力の獲得度の合計値 | 523 | 14.40 | 4.00 | 20.00 | |
| | 役立ち合計 | 4つの役立ち度の合計 | 506 | 11.06 | 4.00 | 20.00 | |

・分析結果の詳細について

●表3-2 6つのアウトプットの規定要因(1)の分析結果の詳細

・専門的な知識・技術

| | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|--------------------------|--------|------|-------|--------|------|
| | B | 標準誤差 | | | |
| (定数) | .225 | .261 | | .863 | .389 |
| 中学経験主成分 | -.049 | .038 | -.046 | -1.282 | .200 |
| 高校3年の成績 | .008 | .030 | .009 | .252 | .801 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .142 | .055 | .109 | 2.573 | .010 |
| 就職に有利であると思ったから | -.119 | .046 | -.111 | -2.556 | .011 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | .112 | .048 | .100 | 2.314 | .021 |
| 資格の取得が有利であるから | .103 | .048 | .087 | 2.144 | .033 |
| 指導してほしい教員がその学部にいるから | .123 | .047 | .101 | 2.638 | .009 |
| 学力(偏差値など)が適当であったから | .097 | .049 | .074 | 1.985 | .048 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | .045 | .042 | .043 | 1.082 | .280 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | .021 | .035 | .022 | .596 | .551 |
| 専門科目 | .424 | .058 | .365 | 7.251 | .000 |
| 一般教育科目 | .057 | .051 | .050 | 1.128 | .260 |
| ゼミ | .073 | .034 | .092 | 2.157 | .032 |
| 卒業論文作成 | .074 | .030 | .102 | 2.492 | .013 |
| 部活動、サークル活動 | -.012 | .027 | -.016 | -.428 | .669 |
| アルバイト | .013 | .031 | .015 | .414 | .679 |
| ボランティア | -.030 | .028 | -.039 | -1.093 | .275 |
| インターンシップ | .013 | .027 | .017 | .458 | .647 |
| 早稲田大学以外での勉強 | -.010 | .026 | -.015 | -.401 | .689 |
| 資格取得や教職、国家試験勉強 | .030 | .025 | .045 | 1.173 | .241 |
| 大学関係の活動(早稲田祭、100キロハイクなど) | .003 | .027 | .005 | .129 | .898 |
| n | | | | 523 | |
| 調整済みR ² | | | | .406 | |
| F値 | | | | 17.956 | |
| 有意確率 | | | | .000 | |

・幅広い知識・教養

| | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|--------------------------|--------|------|-------|--------|------|
| | B | 標準誤差 | | | |
| (定数) | 1.594 | .235 | | 6.781 | .000 |
| 中学経験主成分 | -.008 | .034 | -.009 | -.228 | .820 |
| 高校3年の成績 | -.042 | .027 | -.061 | -1.549 | .122 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .091 | .050 | .085 | 1.828 | .068 |
| 就職に有利であると思ったから | .008 | .042 | .010 | .203 | .840 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | .019 | .043 | .021 | .440 | .660 |
| 資格の取得が有利であるから | .016 | .043 | .016 | .361 | .718 |
| 指導してほしい教員がその学部にいるから | .068 | .042 | .068 | 1.614 | .107 |
| 学力(偏差値など)が適当であったから | .061 | .044 | .056 | 1.394 | .164 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | .066 | .038 | .077 | 1.764 | .078 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | .025 | .032 | .032 | .777 | .437 |
| 専門科目 | .097 | .053 | .102 | 1.854 | .064 |
| 一般教育科目 | .318 | .046 | .340 | 6.952 | .000 |
| ゼミ | -.006 | .030 | -.008 | -.181 | .857 |
| 卒業論文作成 | .057 | .027 | .096 | 2.139 | .033 |
| 部活動、サークル活動 | -.014 | .025 | -.024 | -.588 | .557 |
| アルバイト | .014 | .028 | .020 | .508 | .612 |
| ボランティア | .001 | .025 | .001 | .028 | .978 |
| インターンシップ | -.006 | .025 | -.009 | -.225 | .822 |
| 早稲田大学以外での勉強 | .043 | .024 | .075 | 1.840 | .066 |
| 資格取得や教職、国家試験勉強 | .003 | .023 | .006 | .140 | .889 |
| 大学関係の活動(早稲田祭、100キロハイクなど) | .091 | .024 | .157 | 3.780 | .000 |
| n | | | | 523 | |
| 調整済みR ² | | | | .291 | |
| F値 | | | | 11.192 | |
| 有意確率 | | | | .000 | |

・論理的思考能力

| | 非標準化係数 B | 標準化係数 標準誤差 | ベータ | t 値 | 有意確率 |
|--------------------------|-------------|---------------|-----|--------|------|
| (定数) | 1.692 | .263 | | 6.426 | .000 |
| 中学経験主成分 | -.039 | .038 | | -1.021 | .308 |
| 高校3年の成績 | -.030 | .030 | | -.984 | .325 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .058 | .056 | | 1.038 | .300 |
| 就職に有利であると思ったから | .000 | .047 | | -.009 | .993 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | .060 | .049 | | 1.227 | .220 |
| 資格の取得が有利であるから | .002 | .048 | | .051 | .960 |
| 指導してほしい教員がその学部にいるから | .099 | .047 | | 2.099 | .036 |
| 学力（偏差値など）が適当であったから | .056 | .049 | | 1.139 | .255 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | .023 | .042 | | .536 | .592 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | -.011 | .036 | | -.305 | .760 |
| 専門科目 | .233 | .059 | | 3.950 | .000 |
| 一般教育科目 | .112 | .051 | | 2.184 | .029 |
| ゼミ | .123 | .034 | | 3.616 | .000 |
| 卒業論文作成 | .013 | .030 | | .443 | .658 |
| 部活動、サークル活動 | -.035 | .027 | | -1.274 | .203 |
| アルバイト | -.024 | .031 | | -.786 | .433 |
| ボランティア | -.014 | .028 | | -.502 | .616 |
| インターンシップ | .022 | .028 | | .806 | .421 |
| 早稲田大学以外での勉強 | .037 | .026 | | 1.424 | .155 |
| 資格取得や教職、国家試験勉強 | -.020 | .026 | | -.787 | .432 |
| 大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど） | .086 | .027 | | 3.194 | .001 |
| n | | | | 523 | |
| 調整済みR ² | | | | .235 | |
| F値 | | | | 8.636 | |
| 有意確率 | | | | .000 | |

・表現力・プレゼンテーション能力

| | B | 標準誤差 | ベータ | t 値 | 有意確率 |
|--------------------------|-------|------|-----|--------|------|
| (定数) | 1.464 | .300 | | 4.875 | .000 |
| 中学経験主成分 | -.058 | .044 | | -1.334 | .183 |
| 高校3年の成績 | .023 | .035 | | .671 | .503 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .018 | .063 | | .289 | .773 |
| 就職に有利であると思ったから | -.022 | .053 | | -.420 | .675 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | .092 | .056 | | 1.652 | .099 |
| 資格の取得が有利であるから | -.016 | .055 | | -.294 | .769 |
| 指導してほしい教員がその学部にいるから | .086 | .054 | | 1.605 | .109 |
| 学力（偏差値など）が適当であったから | -.019 | .056 | | -.340 | .734 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | .024 | .048 | | .494 | .622 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | .014 | .041 | | .338 | .735 |
| 専門科目 | .122 | .067 | | 1.821 | .069 |
| 一般教育科目 | .130 | .058 | | 2.235 | .026 |
| ゼミ | .126 | .039 | | 3.238 | .001 |
| 卒業論文作成 | .105 | .034 | | 3.067 | .002 |
| 部活動、サークル活動 | .010 | .031 | | .331 | .741 |
| アルバイト | -.055 | .036 | | -1.549 | .122 |
| ボランティア | .024 | .032 | | .740 | .460 |
| インターンシップ | .039 | .031 | | 1.235 | .217 |
| 早稲田大学以外での勉強 | .044 | .030 | | 1.459 | .145 |
| 資格取得や教職、国家試験勉強 | -.025 | .029 | | -.843 | .400 |
| 大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど） | .092 | .031 | | 2.981 | .003 |
| n | | | | 523 | |
| 調整済みR ² | | | | .211 | |
| F値 | | | | 7.634 | |
| 有意確率 | | | | .000 | |

・ 1～2年成績

| | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|---------------------------|--------|------|-------|--------|------|
| | B | 標準誤差 | ベータ | | |
| (定数) | 1.509 | .278 | | 5.425 | .000 |
| 中学経験主成分 | .084 | .040 | .078 | 2.070 | .039 |
| 高校3年の成績 | .118 | .032 | .139 | 3.678 | .000 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .035 | .059 | .026 | .594 | .553 |
| 就職に有利であると思ったから | .011 | .049 | .010 | .227 | .820 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | -.060 | .051 | -.053 | -1.173 | .241 |
| 資格の取得が有利であるから | -.065 | .051 | -.053 | -1.266 | .206 |
| 指導してほしい教員がその学部から | .049 | .050 | .039 | .978 | .328 |
| 学力（偏差値など）が適当であったから | -.033 | .052 | -.024 | -.629 | .530 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | -.027 | .044 | -.025 | -.597 | .551 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | -.042 | .038 | -.043 | -1.115 | .265 |
| 専門科目 | .365 | .062 | .307 | 5.863 | .000 |
| 一般教育科目 | .214 | .054 | .185 | 3.960 | .000 |
| ゼミ | -.019 | .036 | -.023 | -.523 | .601 |
| 卒業論文作成 | .094 | .032 | .128 | 2.987 | .003 |
| 部活動、サークル活動 | -.063 | .029 | -.085 | -2.182 | .030 |
| アルバイト | -.069 | .033 | -.077 | -2.097 | .036 |
| ボランティア | .006 | .030 | .008 | .216 | .829 |
| インターンシップ | .113 | .029 | .149 | 3.882 | .000 |
| 早稲田大学以外での勉強 | .005 | .028 | .007 | .180 | .858 |
| 資格取得や教職、国家試験勉強 | .028 | .027 | .042 | 1.049 | .295 |
| 大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイイクなど） | .014 | .029 | .020 | .504 | .615 |
| n | | | | 523 | |
| 調整済みR ² | | | | .355 | |
| F値 | | | | 14.671 | |
| 有意確率 | | | | .000 | |

・ 3～4年成績

| | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|---------------------------|--------|------|-------|--------|------|
| | B | 標準誤差 | ベータ | | |
| (定数) | 1.381 | .278 | | 4.969 | .000 |
| 中学経験主成分 | .002 | .040 | .002 | .055 | .956 |
| 高校3年の成績 | .132 | .032 | .154 | 4.135 | .000 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .018 | .059 | .013 | .305 | .761 |
| 就職に有利であると思ったから | .028 | .049 | .026 | .576 | .565 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | -.048 | .051 | -.042 | -.942 | .347 |
| 資格の取得が有利であるから | -.036 | .051 | -.029 | -.704 | .482 |
| 指導してほしい教員がその学部から | .001 | .050 | .001 | .024 | .981 |
| 学力（偏差値など）が適当であったから | -.018 | .052 | -.013 | -.352 | .725 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | .002 | .044 | .002 | .047 | .962 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | -.085 | .038 | -.087 | -2.270 | .024 |
| 専門科目 | .451 | .062 | .376 | 7.251 | .000 |
| 一般教育科目 | .149 | .054 | .127 | 2.751 | .006 |
| ゼミ | .024 | .036 | .029 | .667 | .505 |
| 卒業論文作成 | .069 | .032 | .092 | 2.184 | .029 |
| 部活動、サークル活動 | -.082 | .029 | -.109 | -2.824 | .005 |
| アルバイト | -.053 | .033 | -.059 | -1.617 | .106 |
| ボランティア | -.005 | .030 | -.006 | -.175 | .861 |
| インターンシップ | .111 | .029 | .145 | 3.813 | .000 |
| 早稲田大学以外での勉強 | .011 | .028 | .016 | .403 | .687 |
| 資格取得や教職、国家試験勉強 | .040 | .027 | .059 | 1.483 | .139 |
| 大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイイクなど） | -.020 | .029 | -.028 | -.716 | .475 |
| n | | | | 523 | |
| 調整済みR ² | | | | .368 | |
| F値 | | | | 15.449 | |
| 有意確率 | | | | .000 | |

●表3-4 6つのアウトプットの規定要因(2)の分析結果の詳細

・専門的な知識・技術

| | 非標準化係数 B | 標準化係数 標準誤差 | ベータ | t 値 | 有意確率 | |
|------------------------------|-------------|---------------|-----|--------|--------|------|
| (定数) | .602 | .312 | | 1.930 | .054 | |
| 中学経験主成分 | -.024 | .038 | | -.023 | -.630 | .529 |
| 高校3年の成績 | .031 | .030 | | .037 | 1.019 | .309 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .200 | .056 | | .154 | 3.600 | .000 |
| 就職に有利であると思ったから | -.101 | .047 | | -.094 | -2.164 | .031 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | .103 | .049 | | .092 | 2.078 | .038 |
| 資格の取得が有利であるから | .156 | .047 | | .131 | 3.311 | .001 |
| 指導してほしい教員がその学部にいるから | .052 | .048 | | .043 | 1.078 | .282 |
| 学力(偏差値など)が適当であったから | .085 | .051 | | .065 | 1.678 | .094 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | .034 | .042 | | .033 | .825 | .410 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | .026 | .036 | | .027 | .723 | .470 |
| 図書館を利用した | .069 | .060 | | .047 | 1.134 | .258 |
| 読書(漫画や雑誌を除く)をした | -.002 | .052 | | -.001 | -.031 | .975 |
| 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした | .220 | .046 | | .215 | 4.730 | .000 |
| 授業内容について、他の学生と議論した | .065 | .059 | | .058 | 1.117 | .264 |
| 授業内容について、教員と議論した | .054 | .056 | | .048 | .966 | .335 |
| 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした | -.044 | .046 | | -.038 | -.969 | .333 |
| 留学生と一緒に学んだ | -.003 | .042 | | -.003 | -.075 | .940 |
| 授業の一環として大学外で学んだ(フィールドワーク等) | -.053 | .041 | | -.051 | -1.298 | .195 |
| 特別な理由なく授業を欠席した | -.167 | .038 | | -.164 | -4.405 | .000 |
| よい教員に巡り合えた | .228 | .049 | | .191 | 4.695 | .000 |
| n | | | | 523 | | |
| 調整済みR ² | | | | .375 | | |
| F値 | | | | 16.692 | | |
| 有意確率 | | | | .000 | | |

・幅広い知識・教養

| | 非標準化係数 B | 標準化係数 標準誤差 | ベータ | t 値 | 有意確率 | |
|------------------------------|-------------|---------------|-----|--------|--------|------|
| (定数) | 1.154 | .266 | | 4.338 | .000 | |
| 中学経験主成分 | -.004 | .033 | | -.004 | -.108 | .914 |
| 高校3年の成績 | -.035 | .026 | | -.051 | -1.359 | .175 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .054 | .047 | | .051 | 1.140 | .255 |
| 就職に有利であると思ったから | .017 | .040 | | .020 | .436 | .663 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | -.006 | .042 | | -.006 | -.134 | .894 |
| 資格の取得が有利であるから | .062 | .040 | | .064 | 1.550 | .122 |
| 指導してほしい教員がその学部にいるから | .035 | .041 | | .035 | .840 | .402 |
| 学力(偏差値など)が適当であったから | .015 | .043 | | .014 | .347 | .729 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | .114 | .036 | | .133 | 3.211 | .001 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | .023 | .031 | | .029 | .752 | .452 |
| 図書館を利用した | .134 | .052 | | .110 | 2.591 | .010 |
| 読書(漫画や雑誌を除く)をした | .165 | .045 | | .161 | 3.704 | .000 |
| 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした | .065 | .040 | | .078 | 1.647 | .100 |
| 授業内容について、他の学生と議論した | .132 | .050 | | .142 | 2.654 | .008 |
| 授業内容について、教員と議論した | .053 | .048 | | .057 | 1.102 | .271 |
| 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした | .010 | .039 | | .011 | .264 | .792 |
| 留学生と一緒に学んだ | .035 | .036 | | .041 | .981 | .327 |
| 授業の一環として大学外で学んだ(フィールドワーク等) | -.026 | .035 | | -.030 | -.737 | .462 |
| 特別な理由なく授業を欠席した | -.083 | .032 | | -.099 | -2.551 | .011 |
| よい教員に巡り合えた | .191 | .041 | | .194 | 4.615 | .000 |
| n | | | | 523 | | |
| 調整済みR ² | | | | .330 | | |
| F値 | | | | 13.846 | | |
| 有意確率 | | | | .000 | | |

・論理的思考能力

| | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|------------------------------|--------|------|-------|--------|------|
| | B | 標準誤差 | ベータ | | |
| (定数) | 1.250 | .302 | | 4.143 | .000 |
| 中学経験主成分 | -.036 | .037 | -.038 | -.959 | .338 |
| 高校3年の成績 | -.016 | .029 | -.022 | -.553 | .580 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .054 | .054 | .047 | 1.010 | .313 |
| 就職に有利であると思ったから | .026 | .045 | .027 | .579 | .563 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | .035 | .048 | .035 | .723 | .470 |
| 資格の取得が有利であるから | .041 | .046 | .039 | .895 | .371 |
| 指導してほしい教員がその学部にあったから | .038 | .047 | .036 | .820 | .413 |
| 学力（偏差値など）が適当であったから | .030 | .049 | .026 | .621 | .535 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | .050 | .040 | .054 | 1.239 | .216 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | -.017 | .035 | -.020 | -.482 | .630 |
| 図書館を利用した | .015 | .058 | .011 | .255 | .799 |
| 読書（漫画や雑誌を除く）をした | .160 | .050 | .145 | 3.164 | .002 |
| 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした | .092 | .045 | .102 | 2.049 | .041 |
| 授業内容について、他の学生と議論した | .163 | .057 | .162 | 2.883 | .004 |
| 授業内容について、教員と議論した | .091 | .054 | .091 | 1.671 | .095 |
| 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした | -.012 | .044 | -.011 | -.264 | .792 |
| 留学生と一緒に学んだ | .025 | .040 | .028 | .626 | .532 |
| 授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等） | -.046 | .040 | -.050 | -1.172 | .242 |
| 特別な理由なく授業を欠席した | -.051 | .037 | -.057 | -1.395 | .164 |
| よい教員に巡り合えた | .186 | .047 | .175 | 3.956 | .000 |
| n | | | | 523 | |
| 調整済みR ² | | | | .259 | |
| F値 | | | | 10.106 | |
| 有意確率 | | | | .000 | |

・表現力・プレゼンテーション

| | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|------------------------------|--------|------|-------|--------|------|
| | B | 標準誤差 | ベータ | | |
| (定数) | 1.160 | .335 | | 3.467 | .001 |
| 中学経験主成分 | -.057 | .041 | -.054 | -1.376 | .170 |
| 高校3年の成績 | .021 | .033 | .026 | .655 | .512 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .007 | .060 | .006 | .124 | .902 |
| 就職に有利であると思ったから | .004 | .050 | .004 | .088 | .930 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | .074 | .053 | .067 | 1.401 | .162 |
| 資格の取得が有利であるから | .027 | .051 | .022 | .524 | .601 |
| 指導してほしい教員がその学部にあったから | .011 | .052 | .009 | .211 | .833 |
| 学力（偏差値など）が適当であったから | -.014 | .054 | -.011 | -.261 | .794 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | .050 | .045 | .048 | 1.116 | .265 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | .010 | .039 | .010 | .249 | .804 |
| 図書館を利用した | -.099 | .065 | -.068 | -1.532 | .126 |
| 読書（漫画や雑誌を除く）をした | .097 | .056 | .079 | 1.738 | .083 |
| 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした | .312 | .050 | .307 | 6.255 | .000 |
| 授業内容について、他の学生と議論した | .136 | .063 | .120 | 2.168 | .031 |
| 授業内容について、教員と議論した | .046 | .060 | .041 | .763 | .446 |
| 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした | .091 | .049 | .079 | 1.854 | .064 |
| 留学生と一緒に学んだ | -.030 | .045 | -.029 | -.679 | .498 |
| 授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等） | -.011 | .044 | -.010 | -.245 | .807 |
| 特別な理由なく授業を欠席した | -.042 | .041 | -.041 | -1.031 | .303 |
| よい教員に巡り合えた | .164 | .052 | .138 | 3.155 | .002 |
| n | | | | 523 | |
| 調整済みR ² | | | | .276 | |
| F値 | | | | 10.974 | |
| 有意確率 | | | | .000 | |

・ 1～2年成績

| | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|------------------------------|--------|------|-------|--------|------|
| | B | 標準誤差 | ベータ | | |
| (定数) | 2.708 | .332 | | 8.156 | .000 |
| 中学経験主成分 | .085 | .041 | .079 | 2.077 | .038 |
| 高校3年の成績 | .161 | .032 | .189 | 4.978 | .000 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .041 | .059 | .031 | .695 | .488 |
| 就職に有利であると思ったから | .034 | .050 | .031 | .685 | .494 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | -.052 | .053 | -.046 | -.988 | .324 |
| 資格の取得が有利であるから | -.044 | .050 | -.036 | -.873 | .383 |
| 指導してほしい教員がその学部にいるから | .031 | .052 | .025 | .605 | .545 |
| 学力（偏差値など）が適当であったから | -.013 | .054 | -.010 | -.238 | .812 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | -.036 | .045 | -.034 | -.810 | .418 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | -.040 | .038 | -.041 | -1.038 | .300 |
| 図書館を利用した | .031 | .064 | .021 | .486 | .627 |
| 読書（漫画や雑誌を除く）をした | .038 | .056 | .030 | .688 | .491 |
| 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした | .040 | .049 | .038 | .801 | .424 |
| 授業内容について、他の学生と議論した | .198 | .062 | .171 | 3.178 | .002 |
| 授業内容について、教員と議論した | .022 | .060 | .019 | .359 | .720 |
| 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした | -.003 | .049 | -.003 | -.064 | .949 |
| 留学生と一緒に学んだ | .004 | .044 | .003 | .080 | .936 |
| 授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等） | .067 | .044 | .062 | 1.538 | .125 |
| 特別な理由なく授業を欠席した | -.385 | .040 | -.371 | -9.525 | .000 |
| よい教員に巡り会えた | .019 | .052 | .016 | .368 | .713 |
| n | | | | 523 | |
| 調整済みR ² | | | | .321 | |
| F値 | | | | 13.352 | |
| 有意確率 | | | | .000 | |

・ 3～4年成績

| | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
|------------------------------|--------|------|-------|--------|------|
| | B | 標準誤差 | ベータ | | |
| (定数) | 2.283 | .367 | | 6.219 | .000 |
| 中学経験主成分 | .175 | .033 | .204 | 5.313 | .000 |
| 高校3年の成績 | -.022 | .062 | -.018 | -.357 | .721 |
| 勉強したい分野がその学部にあったから | .044 | .060 | .032 | .722 | .471 |
| 就職に有利であると思ったから | .050 | .051 | .045 | .994 | .321 |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | -.043 | .053 | -.037 | -.804 | .422 |
| 資格の取得が有利であるから | .005 | .051 | .004 | .101 | .919 |
| 指導してほしい教員がその学部にいるから | -.042 | .053 | -.033 | -.794 | .428 |
| 学力（偏差値など）が適当であったから | .001 | .055 | .001 | .019 | .985 |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | -.019 | .045 | -.018 | -.425 | .671 |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | -.078 | .039 | -.079 | -1.993 | .047 |
| 図書館を利用した | .041 | .066 | .027 | .632 | .528 |
| 読書（漫画や雑誌を除く）をした | .065 | .057 | .051 | 1.150 | .251 |
| 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした | .111 | .050 | .106 | 2.205 | .028 |
| 授業内容について、他の学生と議論した | .127 | .063 | .108 | 1.998 | .046 |
| 授業内容について、教員と議論した | .055 | .062 | .047 | .889 | .374 |
| 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした | .030 | .050 | .025 | .609 | .543 |
| 留学生と一緒に学んだ | .006 | .045 | .006 | .140 | .889 |
| 授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等） | .022 | .044 | .020 | .498 | .619 |
| 特別な理由なく授業を欠席した | -.374 | .041 | -.357 | -9.084 | .000 |
| よい教員に巡り会えた | .057 | .053 | .046 | 1.075 | .283 |
| n | | | | 523 | |
| 調整済みR ² | | | | .312 | |
| F値 | | | | 12.822 | |
| 有意確率 | | | | .000 | |

2. 全体の集計データ

Q1. あなたの年齢（2019/2018年1月1日現在）を記入してください。

| | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | その他 |
|------|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 2019 | 26.9% | 46.6% | 15.5% | 2.8% | 0.9% | 1.1% | 0.6% | 0.4% | 0.4% | 0.2% | 4.8% |
| 2018 | 53.0% | 27.8% | 8.1% | 2.6% | 0.7% | 0.2% | 0.2% | 0.0% | 0.0% | 0.5% | 6.9% |

Q2. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。

| | 2019 | 2018 |
|-----|-------|-------|
| 男 | 59.5% | 64.1% |
| 女 | 40.3% | 35.4% |
| その他 | 0.2% | 0.5% |

Q3. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。

| | 政治経済学部 | 法学部 | 第一文学部 | 第二文学部 | 教育学部 | 商学部 |
|------|--------|------|-------|-------|-------|-------|
| 2019 | 11.2% | 8.8% | 11.0% | 7.0% | 15.3% | 11.4% |
| 2018 | 12.3% | 7.6% | 12.5% | 6.3% | 12.7% | 10.4% |

| | 理工学部 | 社会科学部 | 人間科学部 | 人間科学部 (通信) | スポーツ 科学部 | 国際教養学部 |
|------|-------|-------|-------|---------------|-------------|--------|
| 2019 | 11.0% | 7.2% | 7.9% | 1.7% | 4.2% | 3.1% |
| 2018 | 12.5% | 7.4% | 5.3% | 1.9% | 3.9% | 7.2% |

Q4. あなたの高校卒業時及び現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

| | 高校卒業時 2019 | 高校卒業時 2018 | 現在 2019 | 現在 2018 | | 高校卒業時 2019 | 高校卒業時 2018 | 現在 2019 | 現在 2018 |
|------|---------------|---------------|------------|------------|------|---------------|---------------|------------|------------|
| 北海道 | 1.3% | 1.4% | 0.7% | 0.7% | 滋賀県 | 0.2% | 0.20% | 0.2% | 0.00% |
| 青森県 | 0.4% | 0.5% | 0.2% | 0.2% | 京都府 | 0.9% | 1.20% | 0.6% | 0.90% |
| 岩手県 | 0.9% | 0.9% | 0.2% | 0.9% | 大阪府 | 2.4% | 2.10% | 1.8% | 1.90% |
| 宮城県 | 0.9% | 1.6% | 0.7% | 0.2% | 兵庫県 | 2.9% | 1.40% | 2.0% | 1.60% |
| 秋田県 | 0.0% | 0.2% | 0.0% | 0.0% | 奈良県 | 0.4% | 0.50% | 0.2% | 0.50% |
| 山形県 | 0.2% | 0.5% | 0.6% | 0.5% | 和歌山県 | 0.6% | 0.50% | 0.4% | 0.20% |
| 福島県 | 0.6% | 1.2% | 0.2% | 0.2% | 鳥取県 | 0.2% | 0.20% | 0.2% | 0.00% |
| 茨城県 | 1.8% | 2.6% | 0.7% | 1.2% | 島根県 | 0.0% | 0.20% | 0.2% | 0.50% |
| 栃木県 | 1.1% | 0.9% | 0.4% | 0.0% | 岡山県 | 0.7% | 1.90% | 0.0% | 0.50% |
| 群馬県 | 2.4% | 1.4% | 1.3% | 0.9% | 広島県 | 1.8% | 1.40% | 1.1% | 0.70% |
| 埼玉県 | 12.9% | 15.7% | 8.7% | 8.8% | 山口県 | 0.2% | 0.50% | 0.0% | 0.50% |
| 千葉県 | 9.9% | 9.0% | 7.0% | 6.5% | 徳島県 | 0.4% | 0.70% | 0.0% | 0.20% |
| 東京都 | 26.3% | 20.8% | 48.3% | 48.8% | 香川県 | 0.9% | 0.50% | 0.6% | 0.20% |
| 神奈川県 | 10.9% | 14.8% | 10.3% | 13.0% | 愛媛県 | 0.6% | 0.50% | 0.4% | 0.00% |
| 新潟県 | 1.1% | 0.7% | 0.9% | 1.4% | 高知県 | 0.2% | 0.50% | 0.2% | 0.00% |
| 富山県 | 0.6% | 0.2% | 0.6% | 0.2% | 福岡県 | 2.0% | 1.60% | 1.7% | 1.20% |
| 石川県 | 0.6% | 0.2% | 0.9% | 0.5% | 佐賀県 | 0.4% | 0.20% | 0.0% | 0.00% |
| 福井県 | 0.7% | 0.2% | 0.2% | 0.2% | 長崎県 | 0.2% | 0.00% | 0.2% | 0.20% |
| 山梨県 | 0.7% | 0.5% | 0.6% | 0.5% | 熊本県 | 0.0% | 1.20% | 0.0% | 0.00% |
| 長野県 | 0.9% | 1.2% | 0.4% | 0.2% | 大分県 | 0.4% | 0.90% | 0.2% | 0.20% |
| 岐阜県 | 0.7% | 0.5% | 0.6% | 0.0% | 宮崎県 | 1.1% | 0.50% | 0.7% | 0.00% |
| 静岡県 | 1.7% | 1.4% | 1.7% | 0.7% | 鹿児島県 | 0.2% | 0.50% | 0.0% | 0.00% |
| 愛知県 | 4.6% | 2.3% | 3.1% | 3.0% | 沖縄県 | 0.4% | 0.20% | 0.2% | 0.20% |
| 三重県 | 0.2% | 2.1% | 0.4% | 0.7% | 海外 | 1.7% | 2.10% | 0.9% | 1.20% |

Q5. あなたが早稲田大学を卒業した年（西暦）・月を記入してください。

| | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 |
|------|------|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|
| 2019 | 1.7% | 2.9% | 79.4% | 10.9% | 3.9% | 0.6% | 0.2% | 0.2% | 0.4% |
| 2018 | 5.8% | 77.3% | 10.2% | 4.9% | 0.5% | 0.5% | 0.5% | 0.2% | 0.2% |

月

| | 3月 | 9月 |
|------|-------|------|
| 2019 | 97.2% | 2.8% |
| 2018 | 96.1% | 3.9% |

Q6. あなたが大学に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。

| | 一般入試 | 指定校推薦 | 自己推薦・ AO入試等 | 附属・系属校 からの推薦 | その他 (具体的に) |
|------|-------|-------|----------------|-----------------|---------------|
| 2019 | 66.9% | 11.0% | 4.9% | 9.6% | 7.7% |
| 2018 | 67.5% | 11.3% | 5.9% | 11.5% | 3.8% |

Q7. 入学した学部は第一志望でしたか。

| | はい | いいえ |
|------|-------|-------|
| 2019 | 63.9% | 36.1% |
| 2018 | 72.5% | 27.5% |

Q8. あなたは現役で入学しましたか。あてはまるものを一つだけお選びください。

| | 現役 | 浪人 | その他 (社会人入学や編入学) |
|------|-------|-------|--------------------|
| 2019 | 65.4% | 29.4% | 5.2% |
| 2018 | 60.9% | 33.4% | 5.6% |

Q9. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。

| | | まったくあてはまらない | あまりあてはまらない | ややあてはまる | とてもあてはまる |
|-----------------------|------|-------------|------------|---------|----------|
| 勉強したい分野がその学部にあったから | 2019 | 4.5% | 10.1% | 39.5% | 45.9% |
| | 2018 | 1.4% | 10.1% | 39.8% | 48.7% |
| 就職に有利であると思ったから | 2019 | 11.6% | 21.5% | 36.7% | 30.1% |
| | 2018 | 14.8% | 20.7% | 37.9% | 26.6% |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | 2019 | 9.4% | 27.2% | 36.1% | 27.3% |
| | 2018 | 8.2% | 26.6% | 40.2% | 24.9% |
| 資格の取得が有利であるから | 2019 | 27.9% | 43.3% | 21.5% | 7.3% |
| | 2018 | 30.8% | 40.2% | 18.8% | 10.1% |
| 指導してほしい教員がその学部にいるから | 2019 | 43.1% | 37.3% | 14.6% | 5.1% |
| | 2018 | 40.5% | 36.7% | 16.9% | 5.9% |
| 学力（偏差値など）が適当であったから | 2019 | 5.1% | 11.4% | 49.4% | 34.1% |
| | 2018 | 6.1% | 13.9% | 45.7% | 34.4% |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | 2019 | 11.6% | 18.9% | 32.6% | 36.9% |
| | 2018 | 13.9% | 22.8% | 31.8% | 31.5% |
| 校の先生や家族または塾などで勧められたから | 2019 | 29.8% | 23.2% | 27.3% | 19.7% |
| | 2018 | 33.2% | 27.1% | 23.3% | 16.5% |

Q10. 高校3年の時と中学3年の時の成績は、あなたの通っていた学校のなかでどのあたりでしたか。

| | | 下のほう | やや下 | 真ん中くらい | やや上 | 上のほう |
|--------|------|------|------|--------|-------|-------|
| 中学3年の時 | 2019 | 3.0% | 3.9% | 10.7% | 19.9% | 62.5% |
| | 2018 | 2.6% | 3.3% | 10.1% | 20.5% | 63.5% |
| 高校3年の時 | 2019 | 9.0% | 9.0% | 21.5% | 27.7% | 32.8% |
| | 2018 | 7.3% | 9.7% | 20.2% | 27.8% | 35.1% |

Q11. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。

| | ない | 短期（数週間～3か月未満） | 中期（3か月以上～約半年：1学期のみを含む） | 長期（半年以上～：2学期以上を含む） |
|------|-------|---------------|------------------------|--------------------|
| 2019 | 83.5% | 7.1% | 0.0% | 9.4% |
| 2018 | 80.9% | 8.0% | 0.5% | 10.6% |

Q12. あなたが中学生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。

| | | あてはまらない | どちらかといえばあてはまらない | どちらかといえばあてはまる | あてはまる |
|--|------|---------|-----------------|---------------|-------|
| 少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した | 2019 | 7.7% | 10.9% | 27.2% | 54.3% |
| | 2018 | 9.2% | 8.5% | 21.4% | 60.9% |
| 学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ | 2019 | 6.9% | 20.6% | 36.1% | 36.3% |
| | 2018 | 8.9% | 20.0% | 36.7% | 34.4% |
| なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた | 2019 | 5.6% | 16.7% | 35.6% | 42.1% |
| | 2018 | 6.4% | 16.7% | 38.8% | 38.1% |

Q13. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。

| | | 中学校卒 | 高校卒 | 高等専門学校卒 | 専門・各種学校卒 | 短期大学卒 | 大学卒 | 大学院卒 |
|----|------|------|-------|---------|----------|-------|-------|-------|
| 父親 | 2019 | 1.5% | 15.8% | 2.3% | 3.4% | 1.3% | 65.3% | 10.4% |
| | 2018 | 2.6% | 18.0% | 2.1% | 2.4% | 1.2% | 64.3% | 9.5% |
| 母親 | 2019 | 2.1% | 23.4% | 0.8% | 8.5% | 27.2% | 35.8% | 2.3% |
| | 2018 | 0.9% | 28.5% | 0.5% | 7.8% | 25.2% | 36.5% | 0.7% |

Q14. 入学時のあなたのご両親の主な働き方についてあてはまるものをお選びください。

| | 父親 | | 母親 | |
|----------------------|-------|-------|-------|-------|
| | 2019 | 2018 | 2019 | 2018 |
| 経営者、役員 | 9.3% | 9.5% | 1.1% | 0.7% |
| 管理職 | 27.8% | 29.4% | 1.5% | 1.0% |
| 専門職 | 5.9% | 4.0% | 3.6% | 1.9% |
| 自営業、家業、自由業（在宅ワークを含む） | 11.9% | 10.7% | 8.2% | 10.2% |
| 正社員・正規職員 | 38.3% | 39.1% | 15.0% | 14.5% |
| 非正規職員 | 1.1% | 0.2% | 25.3% | 25.6% |
| その他の働き方 | 0.6% | 0.5% | 6.5% | 4.3% |
| 働いていない | 2.5% | 2.6% | 37.9% | 41.0% |
| わからない・いない | 2.7% | 4.0% | 0.8% | 1.0% |

Q15. あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

| | | 経験 しなかった | 不熱心 | やや不熱心 | やや熱心 | 熱心 |
|-------------------------------|------|-------------|-------|-------|-------|-------|
| 専門科目 | 2019 | 0.4% | 6.7% | 20.1% | 41.3% | 31.5% |
| | 2018 | 0.2% | 6.0% | 14.3% | 45.7% | 33.8% |
| 一般教育科目 | 2019 | 0.8% | 10.7% | 23.7% | 44.9% | 19.9% |
| | 2018 | 1.2% | 7.1% | 21.7% | 47.1% | 22.9% |
| ゼミ | 2019 | 11.7% | 8.0% | 15.5% | 31.7% | 33.1% |
| | 2018 | 10.0% | 6.0% | 15.0% | 32.6% | 36.4% |
| 卒業論文作成 | 2019 | 20.7% | 6.3% | 15.7% | 31.5% | 25.8% |
| | 2018 | 15.2% | 5.7% | 14.5% | 34.8% | 29.8% |
| 部活動、サークル活動 | 2019 | 15.1% | 6.9% | 10.5% | 25.8% | 41.7% |
| | 2018 | 17.4% | 9.8% | 11.7% | 21.9% | 39.3% |
| アルバイト | 2019 | 8.2% | 10.3% | 19.3% | 36.9% | 25.2% |
| | 2018 | 6.4% | 8.6% | 19.1% | 36.4% | 29.5% |
| ボランティア | 2019 | 65.4% | 6.3% | 9.2% | 12.6% | 6.5% |
| | 2018 | 69.1% | 5.2% | 8.1% | 11.7% | 6.0% |
| インターンシップ | 2019 | 66.3% | 4.8% | 7.5% | 13.0% | 8.4% |
| | 2018 | 66.7% | 4.3% | 7.6% | 12.1% | 9.3% |
| 早稲田大学以外での勉強 | 2019 | 54.9% | 7.1% | 9.2% | 18.2% | 10.7% |
| | 2018 | 55.7% | 5.2% | 8.3% | 18.6% | 12.1% |
| 資格取得や教職、 国家試験勉強 | 2019 | 44.9% | 7.5% | 9.6% | 22.0% | 16.1% |
| | 2018 | 50.5% | 8.6% | 8.6% | 21.7% | 10.7% |
| 大学関係の活動 (早稲田祭、100キロハイイクなど) | 2019 | 37.9% | 9.2% | 17.0% | 23.1% | 12.8% |
| | 2018 | 41.9% | 12.9% | 14.8% | 21.2% | 9.3% |

Q16. 学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きます。

| | | まったくあてはまらない | あまりあてはまらない | ややあてはまる | とてもあてはまる |
|------------------------------|------|-------------|------------|---------|----------|
| 図書館を利用した | 2019 | 1.7% | 8.2% | 35.8% | 54.3% |
| | 2018 | 2.4% | 7.6% | 38.8% | 51.2% |
| 読書（漫画や雑誌を除く）をした | 2019 | 3.4% | 20.5% | 37.5% | 38.6% |
| | 2018 | 3.3% | 15.7% | 41.7% | 39.3% |
| 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした | 2019 | 18.2% | 29.3% | 29.8% | 22.8% |
| | 2018 | 15.5% | 31.4% | 33.3% | 19.8% |
| 授業内容について、他の学生と議論した | 2019 | 12.6% | 31.5% | 37.3% | 18.5% |
| | 2018 | 9.8% | 36.9% | 38.8% | 14.5% |
| 授業内容について、教員と議論した | 2019 | 25.6% | 39.8% | 24.3% | 10.3% |
| | 2018 | 26.0% | 40.5% | 25.0% | 8.6% |
| 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした | 2019 | 62.9% | 21.8% | 8.4% | 6.9% |
| | 2018 | 61.9% | 19.3% | 9.8% | 9.1% |
| 留学生と一緒に学んだ | 2019 | 49.7% | 20.7% | 21.0% | 8.6% |
| | 2018 | 54.5% | 18.1% | 17.6% | 9.8% |
| 授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等） | 2019 | 51.2% | 22.0% | 18.5% | 8.2% |
| | 2018 | 46.2% | 23.3% | 19.1% | 11.4% |
| 特別な理由なく授業を欠席した | 2019 | 23.9% | 30.0% | 28.5% | 17.6% |
| | 2018 | 27.9% | 30.7% | 26.7% | 14.8% |
| よい教員に巡り合えた | 2019 | 5.4% | 19.7% | 38.2% | 36.7% |
| | 2018 | 6.7% | 14.5% | 41.0% | 37.9% |

Q17. 大学（学部）在学中に留学をしたことはありますか。

| | ない | 短期（数週間～3か月未満） | 中期（3か月以上～約半年：1学期のみを含む） | 長期（半年以上～：2学期以上を含む） |
|------|-------|---------------|------------------------|--------------------|
| 2019 | 82.6% | 10.1% | 1.0% | 6.3% |
| 2018 | 82.9% | 8.1% | 0.5% | 8.6% |

Q18. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。

| | | 下のほう | やや下 | 真ん中ぐらい | やや上 | 上のほう |
|------|------|------|------|--------|-------|-------|
| 1～2年 | 2019 | 8.2% | 9.2% | 44.9% | 23.5% | 14.1% |
| | 2018 | 6.9% | 9.1% | 40.7% | 27.9% | 15.5% |
| 3～4年 | 2019 | 7.8% | 9.2% | 44.6% | 22.8% | 15.7% |
| | 2018 | 6.0% | 9.5% | 42.9% | 26.7% | 15.0% |

Q19. 早稲田大学の学部で次のものをどの程度身につけましたか。

| | | 身につけていない | あまり身につけていない | どちらとも言えない | やや身についた | かなり身についた |
|---------------------|------|----------|-------------|-----------|---------|----------|
| 専門的な知識・ 技術 | 2019 | 4.4% | 16.6% | 23.9% | 41.9% | 13.2% |
| | 2018 | 4.8% | 13.3% | 26.2% | 41.7% | 14.1% |
| 幅広い知識・教養 | 2019 | 1.1% | 6.5% | 17.0% | 52.6% | 22.8% |
| | 2018 | 1.4% | 5.2% | 13.3% | 53.3% | 26.7% |
| 論理的思考能力 | 2019 | 1.5% | 9.6% | 25.2% | 44.7% | 18.9% |
| | 2018 | 2.1% | 8.1% | 26.4% | 44.1% | 19.3% |
| 表現力・プレゼン テーション能力 | 2019 | 4.4% | 16.6% | 29.1% | 36.5% | 13.4% |
| | 2018 | 5.5% | 15.5% | 27.1% | 37.9% | 14.1% |

Q20. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。

| | はい | いいえ |
|------|-------|-------|
| 2019 | 82.7% | 17.3% |
| 2018 | 87.4% | 12.7% |

Q21. 学部在学中にもっと熱心に取り組めばよかったと思うものを、上位3つあげてください。

※割合は、各順位の総件数で除した値。

| | | 1位 | 2位 | 3位 |
|------------------------------|------|-------|-------|-------|
| 専門科目 | 2019 | 34.1% | 14.9% | 14.1% |
| | 2018 | 31.3% | 15.7% | 13.6% |
| 一般教育科目 | 2019 | 6.8% | 14.5% | 13.1% |
| | 2018 | 6.5% | 14.0% | 10.5% |
| ゼミ | 2019 | 11.2% | 16.6% | 7.5% |
| | 2018 | 13.6% | 14.5% | 11.2% |
| 卒業論文作成 | 2019 | 3.7% | 9.0% | 7.9% |
| | 2018 | 5.7% | 7.0% | 8.0% |
| 部活動、サークル活動 | 2019 | 17.1% | 7.6% | 9.5% |
| | 2018 | 15.1% | 8.2% | 10.2% |
| アルバイト | 2019 | 3.5% | 6.7% | 4.6% |
| | 2018 | 2.9% | 6.5% | 6.6% |
| ボランティア | 2019 | 2.5% | 3.9% | 6.2% |
| | 2018 | 2.9% | 3.6% | 6.6% |
| インターンシップ | 2019 | 4.1% | 5.7% | 6.2% |
| | 2018 | 2.2% | 7.0% | 6.3% |
| 早稲田大学以外での勉強 | 2019 | 4.1% | 7.6% | 8.7% |
| | 2018 | 5.3% | 7.7% | 6.3% |
| 資格取得や教職、国家試験勉強 | 2019 | 9.3% | 8.4% | 10.9% |
| | 2018 | 12.4% | 8.9% | 11.7% |
| 大学関係の活動 (早稲田祭、100キロハイクなど) | 2019 | 3.7% | 5.1% | 11.3% |
| | 2018 | 2.2% | 7.0% | 9.0% |

Q22. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。該当するものを一つだけお選びください。

| | 2019 | 2018 |
|--------------------|-------|-------|
| 就職した | 66.9% | 68.7% |
| 自分で事業（自営）を始めた | 0.8% | 0.7% |
| 早稲田大学の大学院に進学した | 17.9% | 16.0% |
| 他大学の大学院に進学した | 4.2% | 3.8% |
| 就職活動を行った | 2.7% | 2.4% |
| 資格試験準備を行った | 2.1% | 1.2% |
| 仕事にも就かず、学校にも行かなかった | 1.9% | 1.7% |
| その他（具体的に） | 3.5% | 5.5% |

Q23. 就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。該当するものを一つだけお選びください。

| | 2019 | 2018 |
|-------------------|-------|-------|
| 大学での専門分野との関連 | 14.5% | 13.1% |
| 業種 | 33.7% | 37.0% |
| 地域条件（勤務地・転勤の有無など） | 9.2% | 9.8% |
| 規模 | 1.9% | 1.2% |
| 知名度やイメージ | 7.9% | 8.1% |
| 経営方針 | 3.7% | 3.3% |
| 安定性 | 12.7% | 9.6% |
| 給与 | 4.2% | 4.1% |
| OBやOGの存在 | 1.0% | 0.7% |
| 勤務時間・休暇・福利厚生など | 2.5% | 3.8% |
| その他（具体的に） | 8.7% | 9.3% |

Q24. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。

| | 2019 | 2018 |
|--------------|-------|-------|
| 本学学部卒業 | 73.0% | 75.2% |
| 本学修士課程在学中 | 0.2% | 0.5% |
| 本学以外の修士課程在学中 | 1.3% | 0.5% |
| 本学修士課程修了 | 15.8% | 12.2% |
| 本学以外の修士課程修了 | 6.2% | 6.7% |
| 本学博士課程在学中 | 0.2% | 0.5% |
| 本学以外の博士課程在学中 | 0.8% | 0.2% |
| 本学博士課程修了 | 1.5% | 3.1% |
| 本学以外の博士課程修了 | 1.0% | 1.2% |

Q25. あなたの学部卒業直後の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

| | 2019 | 2018 | | 2019 | 2018 |
|------|-------|-------|------|------|------|
| 北海道 | 0.8% | 0.7% | 滋賀県 | 0.2% | 0.5% |
| 青森県 | 0.2% | 0.0% | 京都府 | 0.8% | 1.2% |
| 岩手県 | 0.2% | 0.2% | 大阪府 | 2.7% | 2.2% |
| 宮城県 | 0.6% | 0.7% | 兵庫県 | 1.3% | 1.4% |
| 秋田県 | 0.0% | 0.2% | 奈良県 | 0.4% | 0.0% |
| 山形県 | 0.2% | 0.0% | 和歌山県 | 0.4% | 0.2% |
| 福島県 | 0.4% | 0.2% | 鳥取県 | 0.2% | 0.2% |
| 茨城県 | 1.3% | 1.0% | 島根県 | 0.0% | 0.0% |
| 栃木県 | 0.2% | 0.7% | 岡山県 | 0.2% | 0.0% |
| 群馬県 | 1.2% | 1.0% | 広島県 | 1.3% | 0.2% |
| 埼玉県 | 10.4% | 11.9% | 山口県 | 0.0% | 0.0% |
| 千葉県 | 9.8% | 9.1% | 徳島県 | 0.0% | 1.2% |
| 東京都 | 44.9% | 47.7% | 香川県 | 0.0% | 0.0% |
| 神奈川県 | 9.8% | 10.5% | 愛媛県 | 0.6% | 0.2% |
| 新潟県 | 0.8% | 0.5% | 高知県 | 0.0% | 0.0% |
| 富山県 | 0.4% | 0.0% | 福岡県 | 0.8% | 0.7% |
| 石川県 | 1.2% | 0.0% | 佐賀県 | 0.2% | 0.0% |
| 福井県 | 0.2% | 0.2% | 長崎県 | 0.0% | 0.0% |
| 山梨県 | 0.4% | 0.0% | 熊本県 | 0.2% | 0.5% |
| 長野県 | 0.4% | 0.5% | 大分県 | 0.0% | 0.7% |
| 岐阜県 | 0.6% | 0.0% | 宮崎県 | 0.4% | 0.0% |
| 静岡県 | 1.0% | 2.2% | 鹿児島県 | 0.2% | 0.5% |
| 愛知県 | 3.1% | 1.7% | 沖縄県 | 0.2% | 0.5% |
| 三重県 | 0.6% | 0.7% | 海外 | 1.5% | 0.0% |

Q26. 卒業後最初についてのお仕事は、現在も継続されていますか。出向や転勤などで異動している場合は、同じ会社・団体・組織としてください。

| | はい | いいえ |
|------|-------|-------|
| 2019 | 57.6% | 42.4% |
| 2018 | 59.2% | 40.8% |

Q27. 学部卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。(前頁の問 26 で「いいえ」とご回答した方のみお答えください)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | その他 (具体的に) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|-------|---------------|
| 2019 | 15.4% | 11.2% | 12.5% | 6.7% | 7.1% | 6.4% | 7.7% | 8.7% | 7.7% | 15.7% | 1.0% |
| 2018 | 10.4% | 11.6% | 15.4% | 10.8% | 10.0% | 4.2% | 6.6% | 9.5% | 7.5% | 12.9% | 1.2% |

Q28. あなたは現在働いていますか。該当するものを一つだけお選びください。(前頁の問 26 で「いいえ」とご回答した方のみお答えください)

| | 2019 | 2018 |
|-----------------------------------|-------|-------|
| 働いている（企業・団体等で正規社員・職員として） | 79.8% | 78.1% |
| 働いている（企業・団体等でパート・アルバイト・派遣社員などとして） | 6.7% | 6.1% |
| 働いている（自営） | 7.3% | 4.3% |
| 働いている（家業の手伝い） | 0.6% | 1.1% |
| 働いていない（専業主婦・主夫） | 3.4% | 6.5% |
| 働いていない（学生） | 0.8% | 1.4% |
| 働いていない（上記以外で無職） | 1.4% | 2.5% |

Q29. 最初に就いたお仕事から転職または辞職された理由は何ですか。最も大きい理由を一つだけお選びください。(前頁の問 26 で「いいえ」とご回答した方のみお答えください)

| | 2019 | 2018 |
|-----------------|-------|-------|
| 新たなステップアップを図るため | 49.1% | 43.4% |
| キャリアを買われたから | 1.8% | 2.3% |
| より大学の専門性に近かったから | 1.8% | 1.7% |
| 収入面での不満 | 6.7% | 4.1% |
| 労働時間面での不満 | 6.7% | 9.3% |
| 職場の人間関係 | 3.6% | 4.6% |
| 自分の関心に合わなかった | 10.7% | 9.3% |
| 能力不足 | 1.8% | 2.3% |
| 解雇や倒産など | 1.3% | 2.3% |
| 結婚 | 4.0% | 8.7% |
| 出産・育児 | 2.2% | 1.2% |
| その他(具体的に) | 10.3% | 11.0% |

Q30. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。

| | 農林水産業 | エネルギー | 不動産・建設 | メーカー | マスコミ | 商業 | 金融 | 専門サービス | 旅行・運輸 | 情報通信 | 教育 | 非営利 | 公務員 | その他(具体的に) |
|------|-------|-------|--------|-------|------|------|-------|--------|-------|-------|-------|------|-------|-----------|
| 2019 | 0.2% | 2.8% | 4.3% | 14.9% | 4.5% | 2.4% | 13.6% | 7.9% | 2.8% | 11.2% | 13.0% | 2.2% | 9.8% | 10.6% |
| 2018 | 0.2% | 1.7% | 2.9% | 16.9% | 7.0% | 2.4% | 10.1% | 8.0% | 3.1% | 9.6% | 9.2% | 1.0% | 13.0% | 14.9% |

Q31. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | その他 |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|
| 2019 | 12.2% | 7.3% | 6.7% | 3.7% | 4.1% | 4.3% | 6.5% | 11.2% | 13.4% | 26.9% | 3.7% |
| 2018 | 12.1% | 4.3% | 6.0% | 6.5% | 6.0% | 5.3% | 7.7% | 9.2% | 17.4% | 20.0% | 5.5% |

Q32. あなたの現在の年収（税込）について、該当するものを一つだけお選びください。

| | 2019 | 2018 |
|--------------|-------|-------|
| 収入はない | 3.3% | 5.3% |
| 200万円未満 | 4.9% | 5.1% |
| 200～299万円 | 2.6% | 2.9% |
| 300～399万円 | 7.7% | 8.9% |
| 400～499万円 | 13.8% | 13.5% |
| 500～599万円 | 18.7% | 19.3% |
| 600～699万円 | 14.9% | 15.9% |
| 700～799万円 | 12.8% | 8.7% |
| 800～899万円 | 6.9% | 8.9% |
| 900～999万円 | 5.3% | 3.6% |
| 1000～1199万円 | 4.9% | 4.3% |
| 1100～1299万円 | 2.4% | 0.5% |
| 1200～1399万円 | 0.4% | 0.7% |
| 1400～1499万円 | 0.4% | 0.2% |
| 1500万円以上 | 0.4% | 0.5% |
| 分からない・答えたくない | 0.8% | 1.7% |

Q33. あなたが早稲田大学の学部時代に受講した科目は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。該当するものをお選びください。

| | | 受講しなかった | 全く役立っていない | あまり役立っていない | やや役立っている | かなり役立っている |
|--------|------|---------|-----------|------------|----------|-----------|
| 専門科目 | 2019 | 1.2% | 16.5% | 27.5% | 36.9% | 17.9% |
| | 2018 | 0.0% | 16.9% | 27.2% | 37.6% | 18.3% |
| 一般教育科目 | 2019 | 0.8% | 11.0% | 36.7% | 40.1% | 11.4% |
| | 2018 | 0.2% | 10.4% | 35.4% | 42.7% | 11.2% |
| ゼミ | 2019 | 12.6% | 17.8% | 25.5% | 31.2% | 12.8% |
| | 2018 | 10.4% | 17.8% | 26.5% | 30.1% | 15.2% |
| 卒業論文作成 | 2019 | 21.4% | 21.2% | 26.7% | 21.8% | 8.8% |
| | 2018 | 14.0% | 25.4% | 29.1% | 20.8% | 10.7% |

Q34. あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。該当するもの一つだけお選びください。

| | 特にいない | 1～2人 | 3～5人 | 6人以上 |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 2019 | 9.8% | 45.0% | 34.6% | 10.6% |
| 2018 | 9.2% | 45.8% | 33.7% | 11.3% |

Q35. その友人は、どのような関係にある方ですか。

※2018年は単一選択、2019年は複数選択のため、2019のみ示す。割合は回答件数で除した値。

| | |
|------------------------------|-------|
| 職場で知り合った友人 | 38.3% |
| 大学在学中からの友人 | 30.3% |
| 大学卒業後に知り合った友人（職場で知り合った友人を除く） | 6.7% |
| 中学・高校時代からの友人 | 16.1% |
| その他（具体的に） | 8.6% |

Q36. あなたは、現在次の活動に1ヶ月あたりどれくらいの時間を費やしていますか。

| | | 月10時間以上 | 月6～9時間 | 月3～5時間 | 月1～2時間 | していない |
|-------------|------|---------|--------|--------|--------|-------|
| 自己学習（読書を含む） | 2019 | 38.7% | 13.8% | 20.0% | 16.1% | 11.4% |
| | 2018 | 40.5% | 11.6% | 19.5% | 15.4% | 13.0% |

Q37. あなたの（A）現在の仕事及び（B）生活（仕事を除く）の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。なお、現在、仕事に就いていない方は（B）のみお答えください。

| | （A）現在の仕事 | | （B）生活（仕事を除く） | |
|---------------|----------|-------|--------------|-------|
| | 2019 | 2018 | 2019 | 2018 |
| 1（かなり不満である） | 4.1% | 2.2% | 1.4% | 1.5% |
| 2 | 1.4% | 0.7% | 0.4% | 1.7% |
| 3 | 2.9% | 4.6% | 2.4% | 1.9% |
| 4 | 3.5% | 3.1% | 3.7% | 2.4% |
| 5 | 10.2% | 9.2% | 5.9% | 7.7% |
| 6 | 11.8% | 9.2% | 9.0% | 7.7% |
| 7 | 19.4% | 22.7% | 19.1% | 15.4% |
| 8 | 25.5% | 25.8% | 26.3% | 29.2% |
| 9 | 7.5% | 8.9% | 13.2% | 13.7% |
| 10（非常に満足している） | 13.6% | 13.7% | 18.7% | 18.8% |

Q38. あなたが本学での学びから得た知識やスキル・経験は、卒業後どのような形で活かされていますか。仕事、私生活、いずれでも結構です。具体的に教えてください。

| No. | 回答 |
|-----|--|
| 2 | 日本全国と海外から集まる日本人の他、外国人も在籍した学部であったことで、様々な考え方に触れた4年間であった。その結果、進学先において柔軟なものの捉え方ができるようになった。 |
| 4 | 社会へ出る前の段階で、これほどまで多種多様な人と関わりを持った学生の頃の経験が、社会人となった今、綺麗なことから泥臭いことまであらゆる場面において太刀打ちする力の一助となっている。 |
| 5 | 自分の考えを持ち、それを他者に伝える能力とその能力をどのように伸ばしていけばいいかを学んだ。これができればどんな職種にも対応できる。 |

| | |
|----|---|
| 7 | 特にありません。 |
| 9 | 分野が全く同じなので、知識をそのまま使います。加えて在学中に購入した書籍を今でも見返します。 |
| 10 | 考え方、調べ方、まとめ方など |
| 12 | ゼミでの調査やプレゼン経験は仕事でも活かしている |
| 17 | 時間管理及び優先順位の判断が役立っている。 |
| 18 | 専門分野の知識の収集がしやすい点で生かされています。 |
| 19 | 個人が活かす知識やスキルが、いかに実践的で即効性が高いかが重視されがちな世の中ですが、長いスパンをかけて人間の心の奥底を探究し、研究内容を醸成・表現していくことの大切さを文学部で学びました。現在は仕事に就いておらず専業主婦ですが、子育てで我が子という一人の人間と対峙する上で、上記の体験はかけがえのないものとして今も生きています。 |
| 22 | 高校の公民科の教員をしています。勤務先の授業では、社会科学部の講義で学習した政治や生命倫理関係の内容などを一部で取り入れ、生徒の深い学びにつなげています。また、部活動(応援部吹奏楽団)で精神力や事務処理能力が養われたことで、授業以外の様々な業務に適応しやすくなっていると感じています。 |
| 24 | 早稲田祭で密にコミュニケーションを取り合い、一つのことを進めた経験は、現在の業務にも生きています。コミュニケーションの重要性を学んだ。 |
| 25 | 考え方 |
| 27 | 特に思い浮かばない。私生活では、大学で学んだことを話すこともある。 |
| 28 | 高等学校の教員をしているが、授業や生徒指導に限らずあらゆる業務において役立っている。特にコンピュータに関する知識とプレゼンテーションのスキルが役に立っている。 |
| 30 | 専門分野を今でも活かし、スポーツトレーナーとして従事して。また様々な意見価値観があることを学び、お客様、同僚、取引先などとのコミュニケーションに活かされている。 |
| 31 | 仕事上、中小企業診断士の資格を取得する際、学部で学んだ経済学やオープン科目で受講した民法の知識が役に立った。 |
| 33 | 対人スキル |
| 35 | 地元では決して得られなかった広い視野を持った友人との出会いが、自身の意識を変え、その後の生き方全般に大きな影響を与えている。 |
| 37 | 社会人として最低限必要となる法律の基礎知識。 |
| 38 | 仕事:幅広い視野でものごとを考えるクセがついたため、問題に直面しても様々な観点から解決法を出そうと努力できる。 私生活:学部の垣根を越えてさまざまな友人と出会えたことは宝物。それぞれ全く違う分野で活躍しているが、今でも付き合いがあり、お互いに良い刺激となっている。 |
| 39 | 今の仕事で学部、大学院時代に読んだ教科書(理工書)やノートの知識がそのまま役に立っています。いまま日々読み返しています。 |
| 40 | 仕事面では、法務関係の組織で役立ち、現在は、人事関係で人脈も役立っている。 |
| 41 | 高校までが女子校で狭い世界にいたので、いろいろな家族関係、経済事情の人がいるのだと知れたことは人間としての私の幅を広げてくれた。 |

| | |
|----|---|
| 42 | レポート作成 |
| 43 | 一生の友人を多く得ることができた。文章を書く力、自分の頭で考える力が身についた。 |
| 45 | 早稲田出身の職場の上司らとのコミュニケーションの円滑さにつながっている。 |
| 46 | 今後起こりうるであろう様々なパターンを予測しながら物事を進めたり、相手にプレゼンする力は大学で身につけたと思います |
| 47 | 会計士の予備校に通っていたため、大学の学部で専門知識が学べたとは思っていない。早稲田大学を卒業したということは就職等で役立っている |
| 48 | 多様な価値観に触れたことで、経営者とのやり取りを柔軟に行うことが出来ている。 学生のときに会計学や経営分析の手法を学んだことが会計に関するコンサルティングの仕事に大いに役立っている。 |
| 50 | 法律や経済等の基礎知識を広く得たことで、さまざまな情報の理解力がついた |
| 52 | 論理的思考 |
| 53 | 仕事でも私生活でもそれなりに。 |
| 54 | 多種多様なタイプの人とひとつのことを成し遂げることを早稲田祭実行委員やサークル活動、ゼミ活動から学び、今に活かしています。 |
| 55 | 論理的に考えること |
| 57 | 基礎的な PC スキル |
| 59 | 他人と比べて法務知識やリーガルマインドがアドバンテージになっている |
| 61 | 在学中に所属していたボランティアサークルでの活動で障害児者の方と多く関わり、生や障害、多様性等について考えると共に知識を得ました。その知識や考えは仕事や育児をする上で基盤とすることが多いです。 またゼミで先行したリハビリテーション医学の知識は仕事に直結し、PT や OT、看護師等との会話も比較的スムーズにできました。 |
| 62 | 人脈 |
| 63 | 興味があるものは自分から調べる姿勢がついた |
| 64 | 顧客との交渉時等における論理的思考の組み立て、ビジネス文書の作成 |
| 65 | 接客業をしているが、幅広く学んだことで会話がすすむ |
| 66 | 実務能力の乏しさを実感しているのですが、早稲田を卒業した、という経験(?)は就職試験で有利なのを幾度となく感じました。 |
| 67 | 研究活動で自分が計画し実行して得た成果から計画を修正する PDCA サイクルは仕事、私生活で使える力になっている。 |
| 68 | コミュニケーション能力 |
| 69 | 専門用語も含めて英語でのコミュニケーションが多いことから、国際教養学部での授業で英語を使っていたことが大いに役立っている。 |
| 71 | 仕事上の問題の考察や問題解決における段取り、作業効率を上げるための起案等は、在学中に行った討論や学習での経験が物事を考える力になっていると感じます。 |

| | |
|----|---|
| 72 | ・知り合いのつては大事だと学びました。(自分の経験からしても、先輩方を見ても)これは出身者の多い早稲田大学のメリットだと思います。・美術史学専攻や学芸員資格取得時に学んだ資料の見方や展示の構成の考え方は、専門分野の職に就けなかったので仕事には活かされてはいませんが、今も美術展を見に行く時に意識します。・早稲田大学に入ってからというより、入るまでに英語をマイペースに、しかししっかりと学んだ経験があるので、今の仕事で英語の文書の翻訳を任されています。 |
| 74 | 物の捉え方、足の使い方、あらゆる分野の学問や業務知識向上のための勉強の手法、引き出しの拡大などに役立っている。仕事に関しては特にアイスブレイク等コミュニケーションの円滑化と信頼性の担保に役立っている。私生活を含め、自身のアイデンティティの確立や自信の根拠、社外活動の拡大など多くの面で利をもたらしている。 |
| 75 | 論理的な思考力、アカデミアとの関わり方、人間関係の構築力 |
| 77 | 大学は職業訓練の場ではないと思っているのですが、仕事する上での教養を身につけることができたのではないかと考えています。 |
| 79 | 必要なことは自分で学んだ |
| 84 | 物事を判断する際に情報を無批判に受け入れることが少なくなかった。 |
| 85 | 正直、勉強した専門知識(法律)も身につけた能力も活かせていない仕事をしていますが、早稲田出身ということで信頼してもらえたり、専門ゼミの同期とは今でも定期的集まっていますので人脈には恵まれたと思います。 |
| 87 | サークル活動に熱心であったため、一生の友達を作ることができた点については、私生活において充実をもたらしている。また早稲田 OB のつながりを社会でも感じることができ、人脈形成などに役立っている。 |
| 88 | 論理的思考と学際的に人間を考えること。 |
| 89 | ない |
| 90 | 現在 2 人の子どもを子育てしている中、教育学部で学んだ学校教育の在り方は参考になります。 |
| 91 | 現在、三菱 UFJ 銀行で数学のスペシャリストであるクオンツとして働いており、銀行のリスク管理に係る分析を行っております。リスク管理では非常に難しい数学を扱うのですが、本学で学んだ数学の知識がベースとなり、さらなる知見の向上に役立ちました。 |
| 92 | ゼミの討論会や研究発表で学んだ、論理的思考や積極的姿勢、自分の個性を打ち出す意見出しなどを、会社での会議やディスカッションの場で、発揮できていること。初見の方ともきちんと交流出来るコミュニケーション能力も大学で得たと思います。 |
| 93 | 学歴の面での劣等感が少ない |
| 94 | 色んな価値観や経験、バックグラウンドを持つ友人に出会えた。今でも連絡を取り合い、刺激を受けている。 |
| 95 | メディアで記者(ペン)として勤務しています。具体的な知識は仕事をしながら覚えましたが、早稲田出身の人が周りに多いので、そういった意味では懐に入りやすく、仕事を進めやすい状況です。 |
| 97 | 大学では自分であることを自分で考えて実行することを学んだので、全てにおいて生かされている。 |
| 98 | 目の前の事象を当然のこととして鵜呑みにするのではなく、なぜそうなのかを常に自身の中で問う習慣が身に付いています。 |
| 99 | 自分で考え抜く力はトラブル対応に生かされている |

| | |
|-----|---|
| 101 | エジプトに関する知識が思考の役に立ったり、死生観と向き合うことができ、現在の自己構成に役立っている。怪物論やアメリカ論も、思考の役に立っている。アラビア語の知識が時折役立つ。 |
| 104 | 生きることに。 |
| 105 | 仕事の人間関係をうまく保つ事に役立っています。 |
| 108 | ・仕事の面白み、使命の醸成 →マーケティングの概念に触れ、職業選びの軸となった(実際に入社2年目から現在まで、組織の中心として携わることができている)。在学時は残念ながら希望のゼミに入れなかったが、専門科目だけでも知識・考え方を網羅的に深く掘り下げることができ、今でも自分の基盤となっている。また、もうすぐ世界を代表するブランディング会社に転職することになっている。確実にキャリアを積み上げられているのも、大学から培ってきた好奇心の賜物と考える。 ・刺激をもらえる人間関係 →サークルで出逢った友人は、私の人生の財産となった。高い能力・才能をそれぞれの場で発揮している姿を知るたびに、自分自身が鼓舞される。世の中に対して柔軟な考え方を持っている人が多いため救われることも多い。これから先も楽しみである。 ・幅広い関心から広がる世界 →オープン科目が豊富にあったため、関心がある授業に積極的に参加していた。トップスポーツの最前線(毎回のゲストが超一流)、ラテンアメリカ研究、生命科学(土曜日2限!）、文化人類学、東アジア研究、ヨット実習...。知識として役立つことはもちろん、東アジア研究でアジアの5大学の学生がワークショップで早稲田に集まる機会があり、そこで知り合った中国人の友人とは卒業後も2回上海で旅行をしている。 |
| 109 | 人生を楽しむスキルや、肩の力を抜いて生きていく力、幅広い世代の人とも話せるコミュニケーション能力は学生時代に勉強だけでなく思い切り遊んだことで身についたように思う。勉強では、論理的思考やプレゼンテーション能力、文章作成能力が身についた。どちらのスキルも、公私どちらの場面でも活かすことができている。 |
| 110 | ロジカルライティング |
| 111 | 塾を経営する上で役立っています |
| 112 | 様々な人とのコミュニケーション力。現在、外資コンサル勤務だが、仕事において、関係者との折衝や調整が重要なことが多い。理論だけでは現実的にクライアントの理解を得られない。関係者との関係作りについては、唯一、東大に勝る部分かと思う。 |
| 113 | 対人関係でいろんな思考の人がいるのでいろんな立場で物事を考えられるようになった |
| 114 | 多様性を否定せず傾聴する姿勢は普段から意識できるやうになりました。 |
| 115 | 貴学での授業や人間関係を通して幅広い視野を持って、キャリア選択や対人感覚で役に立っていると感じる。 |
| 117 | 組織経営やマーケティングについての知識はビジネスマンとしての教養・勤所として役に立っています。 |
| 119 | 仕事に直接役立ってはいないが、一般教養を身に付けることはできたと思う。また国内外問わず、政治・歴史・文化・宗教など幅広い分野に関心を持つことができ、視野が広がったと感じます。 |
| 120 | 早稲田卒というプライドをもって、恥ずかしくないように行動するようになった。 |
| 122 | 自分の意志でやることを決めること。自分の人生設計においても、仕事をやっていく上でも自分で考えて選択する、というマインドはとても今の自分の人生で大切な指針になっています。 |
| 123 | 外国人相手でも英語で討論できるスキルが仕事で活かしている |
| 124 | 直接的に仕事の役に立つことはないが、大学で培った語彙、表現力、作文スキルが間接的に役に立っている。 |

| | |
|-----|---|
| 125 | 仕事で役にたったと思うことはなかったが、自分が興味のある部分の知識が深められ、私生活の趣味を充実させることができて良かった。 |
| 126 | 図書の紹介、資料の活用法、資料の作成方法など指導する際に役立ってます。 |
| 127 | 残念ながらこれといって思い浮かびません。 |
| 128 | 卒論作成で学んだ論理的思考や、問題提議のやり方は、顧客への提案時の基礎となっている。 |
| 129 | 文章作成能力、プレゼンテーション能力 |
| 130 | 金融スキームの構築、契約交渉の場面で法的な知識が役立っている。ロジカルシンキングがビジネス全般で役立っている。 |
| 131 | 広範な知識と論理的思考により、新規事業への柔軟な取り組み姿勢が活かしている。 |
| 132 | 多様な考えを受け入れることができる。 |
| 133 | 文章を書く機会が多かったので、会社での資料作成に役立っています。 |
| 134 | 芸術について学んだことが、子供たちと美術館に行ったとき役立っています。質問に答えることができるからです。 |
| 136 | 論理的な思考ができるようになった。人をまとめるリーダーシップを発揮できるようになった。 |
| 137 | 国際教養学部で培った国際感覚は、卒業後海外で勤務するにあたりあらゆる面でベースとなっていると感じる。 |
| 138 | 知り合いの幅広さ、部活動で行っていた剣道を継続しており知り合いが増やせている |
| 139 | 英語を日常生活で使うようにしている |
| 140 | ゼミで知り合った友人や先輩後輩は非常に優秀で、多岐に渡る相談に乗ってくれる。 |
| 141 | 現在、学部時代のゼミで研究していた科目を担当する大学教員をしていることもあり、学部時代に学んだ知識は直接的に生かされている。 |
| 142 | 何を学ぶかではなく、誰とどんな環境で学ぶかの方が遥かに重要であるということ。 |
| 143 | 現在大学で教職・研究職についていますが、早稲田での勉強や交友関係がその基盤となっていると思います。 |
| 144 | 読解力・日本語力を文書作成などに生かしている |
| 145 | 多面的に考えようとする形で活かされている。裏どりをきちんと取ろうとする。 |
| 147 | 専門職についているため、大学時代に学んだ知識が業務に直接的に役立っている。 |
| 148 | サークルなどの課外活動で培ったコミュニケーション力とリーダーシップは現在の職場でも役立っている。 |
| 151 | 教師をしていますが、数学の知識や剣道の技術など両方とも現在の指導に生かされています。 |
| 152 | 大学で学んだ専門分野に関する仕事に就いているため、大変役立っている |
| 154 | プレゼンテーションの経験は、コミュニケーションや後輩を指導する際に大いに役立っていると感じる。大きな図書館で自習できたことで原典にあたることを怠らない勉強の仕方を学び、現在の仕事でも規程や根拠を理解しようとする姿勢が醸成された。また、学生の自主性を尊重するような校風は、多種多様な人・考え方を受け入れる柔軟性を育ててくれたと思う。 |
| 155 | 早稲田卒であるという事による社会的信頼が得られた。早稲田OB会などでの人脈が広がった。 |
| 157 | 法律の趣旨について考えることを在学中に学べたため、物事について趣旨を考える癖がつき、理解力が身についているように思う。 |

| | |
|-----|---|
| 158 | 野球部で培った忍耐力やチームワークまた仲間との繋がり。一方で野球にほぼ全ての時間を費やしたため、その他の仲間や学業にも時間を充てられたら良かった。 |
| 159 | 法学部で自然と身につく論理的思考 |
| 160 | ジャーナリズムのゼミで得た多様な視点をもつてものごとを考えることが役だっています。 |
| 161 | 専門性を活かして資格取得し、更に現在は専門職として大学で専門的知識を活かして研究者、教育者として働いています、 |
| 162 | レポート等を通じて、文章力は身についたと思われる。 |
| 163 | 大学で学んだ心理学は、仕事(相談業務等)で活かしています。また、大学時代の友人とは今でも繋がっており、良い付き合いができているため、私生活もより充実できています。 |
| 165 | 文学部を出てライターとしての仕事をしている |
| 166 | 大学の友人の活躍が刺激になっています。 |
| 167 | 世の中一般の法律行為の基本的な考え方について |
| 170 | 人脈形成術 |
| 171 | 公民科の教員として、専門的な知識や生徒に対する話の中で役立っている。 |
| 172 | 夜間学部だったので、交友・交際はないものの多様な人々と一緒に学べた。社会に出た後も年齢や外見でカテゴライズすることなく人と向き合うことが出来ていると思う。 |
| 174 | 大学時代に購入した教科書を、今でも見返します。 |
| 175 | 嫌な仕事をしなくてはならないときも、諦めずにコツコツとやり遂げること。 |
| 176 | 効率の良い学び方を身に付けたことで、忙しい中でも勉強を続けられ、新しい知識の収集や既知の知識のアップデートをすることができている。 |
| 177 | 仕事での専門的な関わりにおいて |
| 179 | 考える力 |
| 180 | 自由な校風だったので自分の好きなことを自分の考えでできたと思います。今でもやりたいことに挑戦することができるのは早稲田の経験からだと思います。 |
| 181 | アジアの経済発展論に関連する授業ならびに北京大学への留学プログラムで得た理論と実践が、現在の業務(海外子会社の経営管理)を支える基礎となっています。 |
| 184 | 在学中の部活動の仲間とのつながり、 困難な状況でも諦めない精神等 |
| 185 | 物事を論理的に考えて発言すること。 |
| 187 | 仕事への向き合い方、プレゼンスキル |
| 189 | 論理的思考力や文章力を学びました。 |
| 190 | 仕事の管理 |
| 191 | 商学部だったこともあり、専門基礎科目が仕事におけるベース知識としていきている。 |
| 192 | エクステンションセンターで申し込み 3 週間のイギリス留学を経験したが、非常に良い経験だった。また、教員養成系のカリキュラムも、内容に濃いものいくつかあり、社会人になっても役立つことがあると感じる。 |
| 195 | 古文書解読 |

| | |
|-----|--|
| 197 | 現在の仕事で英語を使う機会が多いが、ゼミで英語の文献を読んでいたのも、あまり抵抗感なく読める。スキルや知識とは異なるが、在学中、卒業後に得られた早稲田大学の人脈が公私共に1番役に立っている。私含め愛校心が強い人が多く、早稲田というつながりだけですぐに打ち解けられる。 |
| 199 | 一般教養で興味関心が広がり、現在の仕事に繋がった。 |
| 201 | 業務企画 |
| 203 | 在学中に学んだ専門と同一の業種に就職し、業務と研究に役立っている。異分野の専門家と学際的な業務・研究を行うこともあり、専攻で学んだこと以外も学び直しを行ううえでの取っ掛かりとして非常に役立っている。 |
| 204 | プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が高校教員の仕事に役立っていると思います。 |
| 205 | 仕事は就職後でスキルを磨けばいいだけなので、学生時代に身につけなくても支障はないが、本学で文学や自然科学を通じて生きていく拠り所や指針、考え方となる哲学の部分が学べた。また、学問の深さなどは生き方や考え方に影響を与えている。 |
| 208 | 理論的な考え方 |
| 210 | 大学で得た幅広い基礎知識のおかげで何事にも取り組みやすい |
| 211 | 様々な意見をもった人たちとの出会いが最高の財産になりました。 |
| 212 | 粘り強く考える。他人と協働する。 |
| 213 | 現在もお俳優として舞台で活動していくための素地を、大学内の施設で行った舞台経験によって得ていると思っています。 |
| 216 | 大学時代のつながりがあります。結婚式などが定期的であり、仲間と会う機会も年に何度かはあります。お互い頑張っている仲間を見ると、自分も頑張ろうと思える存在です。 |
| 217 | ・専門知識の深さが仕事の質に直結。 ・サークル活動で得た友人と趣味は継続しており、仕事+αの生活が出来ている。 |
| 219 | 本が幼い頃から好きで、文章に関わる仕事がしたくて一文に進学した。英文学専修で学んだが、文章の書き方はもちろん、小説をどう読み解き、どう向かい合うか、という文学者としての基本姿勢を良質な作品を読む中で自然と学べた。また、副専攻でジャーナリズムを学んだり、サークルやバイトで色々な人と出会ったり、多様な人間関係の中でたくさんの学びがあった。新卒で学術系の出版社に就職して、新人賞の投稿を始めて、運良くデビューでき、小説家の仕事をもらったのも、一文に進学したおかげだと思う。 |
| 220 | 仕事 |
| 221 | 臨機応変に考え対応する応用力がついた |
| 225 | 特に生かされていない |
| 226 | 学部で学んだ学問分野で博士課程まで進学し、学位を頂いた。その後、他大学の専任教員となったので、非常に役立っている。 |
| 228 | 機械科だったため学んだ専門知識は就職後の業務に直接役立っている |
| 229 | 今振り返ると科目に関わらず、論理的思考能力を潜在能力が高い友人と高め合うことができていた。特に基礎的な経済政策やマーケティング、経営学、会計学は現在仕事で企業と接する際に不可欠な土台となっている。 |

| | |
|-----|---|
| 230 | 私立中高と狭い交友関係で過ごしてきた自分にとって、様々な多様性をもった学友と接することは自分自身の考え方を見つめ直し、視野を広げることが出来た。この経験があったからこそ今の自分の考え方の基礎が出来たと感じている。 |
| 234 | 【仕事】講義やゼミ、課外活動を通じ、自分の仕事を俯瞰的・構造的にとらえる習慣が付き、日々自分の仕事の意義を感じながら働くことができている。【私生活】大学で学んだ思想や社会学に継続して関心を持つことができ、読書の趣味を持つことができた。 |
| 235 | ①学び:多種多様な人との出会いから、物事にはこんなにも色々な考え方があるのかという気づきは、公私ともに相手を受け入れられる術に繋がっています。 |
| 236 | ものの考え方、学び方 |
| 239 | 国際関係論を学んでいましたが、学生の頃からの夢であった国連で働けるようになりました。在学3年目にパリに留学しましたが、今のところ仕事でフランス語は活かせていません。 |
| 240 | 当時気づかなかったが商売の基本を学べた。また多様な人のかかわりが自身の価値観を広げてくれたし、今でも仕事やプライベートなんでも相談できて高め合える大切な友人に出会えた。 |
| 244 | 学生当時は専門分野の研究開発職での就職を考えていましたが、研究開発職以外の分野のカリキュラムもあり(知的財産系の授業)、第一線で活躍されてる方の講演がある事を知って受講してみました。特許庁や武田製薬の方等、活躍されてる方の話を聞き、理系でも研究開発職以外の道でも輝ける場所があることを知りました。その後社会人になり、研究開発職として入社しましたが、当時の知的財産の授業の事を思い出し今は知的財産の道に進んでいます。 |
| 248 | 文章を褒められることが多いので、学部時代に創作の授業で表現力を磨けたのが良かったのだと思います。 |
| 249 | 短期留学を経験して、幅広い視点で物事を考えられるようになった |
| 250 | 筋道を立てて物事を考える論理的思考と、良好な人間関係の構築方法について、仕事、私生活いずれについても生かされている。 |
| 251 | 残念ながらあまり生かされていないです。もっと実学的な勉強をするべきだったと思います。また、もっと真剣に自分の将来について考えるべきだったと思います。現在、経理として働いているので、大学で学んだ簿記の知識、英語の知識が生かされています。会計に興味を持つきっかけになったのは良かったです。 |
| 252 | 知識はあまり活かせてないと感じますが、物事の考え方や課題の背景を整理することの大切さを習得し、それが仕事に活かせていると感じます。仕事にすぐ活かせる知識は仕事をこなすことで習得できますが、考え方を自分で納得いくまで習得できたことは大きな意義があったと考えます。 |
| 253 | あらゆる局面、全てを考える際のベースとなっている |
| 254 | 特になし |
| 255 | ゼミで得た論理的に考え、ロジカルにライティングする能力は仕事でも役立っています。 |
| 256 | 必修科目の簿記の知識は社会に出てからも役立った。サークル活動で代表を務めた経験は会社内での人間関係の構築などに役立っている。 |
| 259 | 特に生かされていない |
| 260 | サークル活動で得た人間関係での学びが、仕事のチーム活動に役立っている。また、その人間関係がプライベートを支えてくれている。 |

| | |
|-----|---|
| 261 | 図面を見ながら様々な検討をしなければ ならないが、数学の知識などがいかされています。また、アメリカに出張に行った際の英語でのコミュニケーションなど学部で学んだことがいかされています。 |
| 263 | 貴校は全国各地より優秀な人材が集まっており卒業後も当時の学友の活躍を聞いたりお付き合いすることで仕事および私生活においてとても刺激されて生活のモチベーションになっている。 |
| 264 | 早稲田大学で得た法律知識は、公務員業務の基本となっています。 |
| 265 | 様々な人の間で生活すること |
| 266 | 現在にもわたる人間関係を築けたのが1番です。仕事でも、大学の人脈を活かしてビジネスを構築していきたいと考えています。 |
| 267 | 在学中は色々な人に出会いました。二文は特に世代もバックグラウンドもぜんぜん違いました。相手の気持ちを想像し、理解することを学びました。そこから、色々な目線で物事を考えて、よくわからない意見を言われたら調べて相手に追いつく努力をすることの大切さに気づきました。それは今でも大事にしています。 |
| 268 | 主にサークル活動での幹部経験を通じて、受け身ではなく自発的に動き経験や人脈を得ていく力を得たと思います。それは仕事で課題に直面したとき、チームをまとめるときに、経験が活きていると感じます。 |
| 270 | 会計監査の仕事をする上で、大学時代に学んだ経済学の基礎が土台となって生かされています。 |
| 271 | 法学的思考や具体的な法領域のスキルを使用する部署で活用出来ている。そこで必要なスキル習得にあっても基礎は学部で培っており習熟にかかる時間を短縮出来た |
| 272 | 常に自己を見つめることと向上心 |
| 274 | 授業で学んだことはありません。 |
| 275 | 高校教員 |
| 276 | 授業中の話のネタとして |
| 277 | 地元にはいたら気づけなかった、本当に色々な人がいるのだということを感じました |
| 279 | 図書館司書の資格を取るために履修した科目すべてにおける学びが、現在の職業と私生活の両方に役立っている。大学教員として初年次生にアカデミックスキルを教えているため、自分が資料検索の専門知識を持っていることは強みである。調べものの仕方は、もちろん私生活の随所で役立つ。信頼性の低い情報も氾濫している現在だが、信頼性の高い情報を検索し、選別する力がついていると思う。タイムマネジメントの力も、大学の授業や課題をこなす中で身につけ、現在の職業で自分の仕事を遂行するのに役立っている。 |
| 280 | 1) 普通こうだね、という普通のレベルが高くなった気がします。 2) 専門知識を議論できる友達と継続して仲が良いです。 |
| 281 | ない |
| 282 | 知識やスキルというものはあまり役に立ってはいない。教養科目で学んで興味を持ったことは、今も本を読んだりして、心を豊かにしてくれている。 |
| 284 | 香港駐在に選ばれるなど、英語で仕事ができることは評価されている。 |
| 285 | 多様性にオープンな姿勢は社会の中でそのまま活かされています。英語や語学を学び、今は翻訳者で、海外の友人も多いです。 |

| | |
|-----|---|
| 286 | 意識・能力の高い学友に恵まれ、自分の小ささを痛感、受け止めることができ、謙虚かつ意欲的に仕事もプライベートも取り組むようになった |
| 287 | ・学歴社会はいまだ存在し、早稲田は強い。 ・様々な人と一緒に物事を考え進めていくコミュニケーション能力が営業に役に立っています |
| 289 | 生かしていない |
| 291 | 臨床心理士・公認心理師という資格を取得し職に就き、本学で学んだことを最大限に活かしていると感じている。さらに研究といったアカデミックな活動にも従事したい。 |
| 293 | 取材など幅広い知識が要求されるが、幅広い業種の友人関係ができて、常に助けられている。 |
| 294 | 教職課程で学んだことが実際に教育の現場で活かしていると思います。 |
| 296 | 配属された部署では会社法の知識を求められることがあり、在学中に身に付けた知識を活かす機会になりました。 また、ゼミで得た交友関係や人脈は今も続いており、異なる業種で働くメンバーの話が自身の刺激となっています。 |
| 297 | 在学中ではないですが、卒業後の同期年次の稲門会での交流活動が、プライベートや仕事での人付き合いにプラスの影響を与えていると感じます。 |
| 298 | 教育機関で働いているため教育学観点から思考する能力は役立っている。 |
| 300 | 職種の専門知識の基礎になっている。また人脈が有意義。 |
| 301 | 研究室の活動や卒業論文の制作課程で粘り強く対応する力を身につけた。 |
| 303 | 教職課程を経て、教員として働いています。 |
| 304 | 大学で学んだことは直接ではないにせよ今の仕事に生きています。具体的には広い視野を持ち物事に組み込むことができます。 |
| 305 | 学部卒であるため、専門科目の知識がそこまで仕事に直に役に立っているということはないのが正直なところ。一方で大学名と学部名を伝えることでの人的ネットワークの構築がしやすいことやその後の仕事の紹介、留学を通して得られた異文化交流は社会人生活での理不尽さに対するストレス耐性にもなっている。 また留学で得られた語学力も業務をする上や転職活動においても役に立っている。 また、ゼミを通して得られた仲間とは仕事とは別の交流もできており、お互いに大きな存在になっている。 |
| 306 | 特にいけない |
| 307 | 国際交流サークルでの経験や、在学中に渡英し短期留学をした経験、そしてインターンシップを複数行った経験等は、就職活動時だけでなく、その後の仕事や MBA 受験にも役立った。一方、ハード面でのスキルは特に活用する場面がなく、その点は課題だと認識している。 |
| 308 | 一般教養などの幅広い知識。 大学での専門と現在の仕事は関連が無いため。 |
| 309 | マーケティング 組織経営 競争戦略 ファイナンス プロジェクトマネジメント などの商学部やメディア運営サークルで得た知識やスキルが仕事にそのまま役立っています。 社会人 10 年目になりましたが今でも実践しながら同じ分野を学び続けています。 |
| 310 | 英語力:英語を使う仕事を担当する機会が多く得られている。 プレゼン力:人前で話す場面に臆すことなく臨める。 |

| | |
|-----|--|
| 313 | ネットワーキング、ポジティブ思考、経済学、アントレプレナーシップ |
| 315 | 国際教養学部の、多種多様の学生の中で、自分に自信を持つこと、卑下しないこと、相手を尊敬することは、海外の人と仕事をする上で自分の糧になっています。 |
| 316 | 早稲田の多様なバックグラウンドの人達とであったことで、海外への興味や対人関係の構築がスムーズにできるようになった。 |
| 317 | 色々な人と巡り会えたことで視野が広がり、仕事でも外国人を含め多様な人と積極的に繋がりを持つようになった。 |
| 318 | 教職課程で学んだ知識が教員としての仕事に活かされています。 |
| 319 | 同好会活動で出会った多くの仲間と日々語らうことで、自然と高いコミュニケーション能力が磨かれ、仕事に活かされている。 |
| 322 | 電気工学の学習内容が仕事で生かされている。 サークル活動が旅行好きの趣味につながっている。 |
| 323 | 主に部活動に力を入れており、そこで得た忍耐力が役に立っている。 |
| 324 | 仕事・プライベートを問わず、年齢差のある目上の方や海外の方など、バックグラウンドの異なる方と話す際に、教養やリベラルアーツの重要性を感じています。学部の一二年次に学んだことやそれに触発された大学時代の読書で培われたものがあってこそ、人間関係に深みを持たせられると思っています。 |
| 326 | 課題に対しては、大学時代のさまざまな授業で出されそれについて関連書籍に何冊もあたり自分なりの答えをまとめ、ゼミで発表したり教授の叱咤激励を受けた経験や、スポーツ科学部では学会に出席したり、日頃の授業から、体育分野についての最新の授業や理論を指導要領を作る教授などから厳しく指導してもらえたこと、サークル活動で他大学の体育会と同じ土俵で日本一を目指す中で組織の運営やよりよい在り方を自分たちなりに考え実践改善できたことなどが、今の自分を支えていると思います。 |
| 327 | コミュニケーション能力は身についたように感じる。また同窓生が多く、どの地域にいても先輩後輩がいることは大きなメリットだった。 |
| 329 | 自由に力強く生きろ！という大学で共有されているメッセージに勇気づけられた。 |
| 330 | 早稲田大学体育会での縦横の繋がりと、在学中に勉学や稽古に励んでいた方々の努力の仕方、生き方を真似たいと思っている事 |
| 331 | 計画性を持って業務を遂行すること |
| 332 | 法学の知識から論理的思考能力を学んだ |
| 335 | 大学での学びを通して、世の中には多様な学問があり、各々の専門分野において深く掘り下げて研究している多く教員がいることを身近に感じる事ができた。その経験は、今現在において、仕事以外にも様々な分野に興味を持ち、書籍を読んだりシンポジウムに参加したりする等、学ぶ姿勢に活かされている。 |
| 336 | サークル活動で身につけた社交性は社会人生活に役立っています。 |
| 337 | 解決困難な問題や壁にあたった時に在学中の経験が考えや方針の決定に活かされている。 |
| 338 | 卒業後の稲門会での活動への参加が仕事や私生活の充実という点で活かされている。仕事では社内の他部門の稲門の方との関係構築であり、私生活では様々な業種の方と交流できる良い場となっている。 |

| | |
|-----|---|
| 339 | 人脈。オープン講座を積極的に受講したり、他大学と関わる活動をしたりと、様々な人と関わるよう努めていた。社会人となってからは、活躍している友人が多く、自分も頑張らなければと刺激を受ける。 |
| 344 | 主人との結婚 |
| 345 | 大学で多様な人物と出会い、関わったことで様々な視点があることに気づけた。自分の考えだけでなく、他人を受け入れることができるようになった。 |
| 348 | 部活動の庶務・マネージャーの経験が、仕事や母校の部活動指導など、生活の全面に活かしています。 |
| 349 | 交友関係構築や人付き合いのスキル |
| 350 | 学部卒として、専門学校への入学資格、国家試験の受験資格(実務経験免除等)として活かすことができた |
| 351 | 物事をよく考えるようになった。 |
| 352 | 論理的に考え、まとめる力はまず役に立っていると思う。ただ、それだけではなく、文学という枠組みの思考というのは、直接的にかかるものではなく、間接的になんらかの力になると信じており、引き続きどう生かせるのかは考えて行きたい。 |
| 353 | 専門が機械工学であり、現在の仕事も機械設計であるので、学んだことを直接仕事に利用している。 |
| 354 | 法制度を読み取ってシステムの仕様を決める |
| 355 | 多様な人々との交流経験による、コミュニケーション力 |
| 357 | 一般的な事象に対して理解するための素養を幅広く身に付けられた。またある分野の考え方を他の分野で活かすような考え方が身に付いた。 |
| 358 | 技術の仕事において、基礎知識として役立っている。 |
| 359 | 演習の中で各自が色々なテーマに沿って、リサーチ・スタディを行い、それを発表して議論を行うという経験は、卒業後の実務においても課題発見・解決やプレゼンテーションを行う際にとても役立っています。 |
| 360 | ゼミ時の発表用に身に付けたパワポなどの Office ソフト使用経験が仕事し始めの時に役立った。 |
| 361 | 民法・商法の知識が主に仕事で事例を考察するときに役立っている。 |
| 363 | 何にでも興味を持つキッカケになっている |
| 364 | 特になし |
| 365 | 発表形式・討論形式の講義の経験がかなり活かされていると感じます。メーカー技術者として顧客への技術PR・共研提案を頻繁に行う立場にあり、「知識がない方にどのようなステップで理解してもらうか」「どのように合意形成を図るか」などを行う素養を大学で身に着けることができたと感じます。 |
| 366 | 特になし |
| 367 | 趣味 |
| 369 | マスコミで一般教養が必要とされるときに活用できるほか、刑事事件の取材などで法学部の専門教科の知識も役立つ |
| 373 | 国際教養学部はプレゼン等発表の機会が多かったので、会社でのプレゼンに苦手意識がない |
| 375 | 多種多様な学生がいたので、人見知りや物怖じせず初対面のひとともコミュニケーションが取れる。仕事上弁護士とのやり取りが多いが、特殊な専門用語なども理解できる。(法律関係の予備知識あり) |

| | |
|-----|---|
| 377 | 授業よりもサークル活動の学びが多かったです。スポーツ新聞製作のサークルに所属しており、取材を通して傾聴力が伸び、区役所で区民の方のお話を聞く時、話しやすい雰囲気作りができています。 |
| 378 | 多様な価値観を受け入れることができるようになり、公私ともに活かされている。 |
| 382 | 外資系企業がクライアントのほとんどを占めるため、英語が役に立っている。 |
| 384 | 体育の教員として、各実技教科での経験を生かしながら仕事をしている。 |
| 386 | 「活着ている」と具体的に感じることはない。血肉となって色んな場面で発揮はされているとおもうが。 |
| 387 | 文献をしっかりと読むこと。 社会人になっても学び続けること。 |
| 388 | 早稲田の卒業生の知人の活躍が刺激になる。自分もできるんじゃないかなとか、見習おうと思う。知人になった人が早稲田だとシンパシーを感じる時がある。 |
| 391 | 日常会話からビジネスにおけるリレーション構築まで幅広く |
| 393 | 学校で学んだことは、現在の仕事に直接関係がないが、その知識を学ぶプロセスが現在の仕事にも役立っており、また今後、仕事で必要となると思う。 |
| 396 | チャレンジ精神、当たって砕ける勢い学部生活の終盤に出会った先生は生涯の恩師になった |
| 397 | 早稲田大学での経験が現在に活かされているものは、①専門科目の授業、②教職科目の授業、の2点が挙げられます。 ①専門科目の授業 現在、高等学校の教職についています。当時の講義を通して、専門性を高めること、教養を高めること、などの大切さを学びました。現在、生徒指導で学びの主体性を説く際に、経験談として話をしています。 ②教職科目の授業 本キャンパス、戸山キャンパス、東京女子医科大学(生物学実験を履修)に行く機会が得られました。理工学部以外の学生と、講義の中で関わったことが、多様な考えを感じる機会になりました。 |
| 400 | 教育学部数学科の専門科目で学んだことは、アクチュアリー資格に挑戦する上での土台になったと思います。 |
| 401 | 幅広い知識を得ることができたと同時に自分のキャリアを見つめ直す機会になりました。 |
| 402 | 他人との関わり方、協力して物事を進めること |
| 403 | 理工のゼミ中に身に着けた技術(機械設計、CNC 加工、プレゼンテーション、後輩への指導など)がそのままお仕事にに生きている |
| 404 | 在学中福祉を学んでいて、卒業後福祉業界に就職したので、大学で学んだことをそのまま生かした。現在は転職したが、クレームへの対応や相談業務で上司から褒められるのは、福祉や心理学を学んだことが活かされているからだと思う。 |
| 406 | 公務員の昇進試験に役立っている。また、公務員に対して基本法制を教える研修所での勤務のため企画立案に役立っている。 |
| 408 | 人が多い中で自分をアピールすることができる。 |
| 410 | 海外で働くことの抵抗のなさ |
| 411 | 早稲田卒ということで社会人生活の中でもOBOGと接する機会が多く、刺激を受けることが多い。また在学中のゼミやサークルの仲間とは卒業後の現在も非常に仲が良く、一生の友となっている。 |
| 412 | アカデミズムの基本動作(課題設定、先行研究調査、仮説検証、論文執筆)は仕事、私生活のいずれでも役立っている。 |

| | |
|-----|--|
| 413 | 多様な人とのコミュニケーション |
| 414 | 金融の勉強が投資関係に生かされています。 |
| 415 | ゼミでのディベートや、AIESECでのマイクロソフトオフィスの多用は、社会人のベーススキルとして生きています。 |
| 418 | コミュニケーション能力が身につく、仕事及び私生活において役立っている。 |
| 419 | 文学部出身ですので、出版社勤務だったり文筆業でない限り、文学部で得た知識が仕事に活かされることはあまり無いと思います。ただ、文学部で得たことは「生きることに耐える」「世間一般で”当たり前”とされていることを疑う」ということに活かされていると思います。 |
| 421 | 授業中の発表や議論、留学の経験により、度胸がついた。海外旅行へ行った時に、英語を話せてちょっと良い顔をできる |
| 422 | 広範な知識を吸収し、抽象し、仮説を立てるという考え方のクセ |
| 423 | コミュニケーション能力 |
| 426 | iPhoneとか人にどのようなものか教えられる |
| 428 | 大学時代はアルバイトばかりしていて真面目に学ばなかったため(授業にはきちんと出席)、今とても後悔しています。 |
| 429 | レポートなど好きな学科で徹底して調べたプロセスが仕事に役立っています。 |
| 431 | 自然環境に関するゼミに所属していて、今もそれに関連する研究が仕事になっている。 |
| 432 | ゼミでの緊張感ある中でのプレゼン経験は、今の会社でのプレゼンや人前で話をするときに生かされていると思う。 |
| 433 | 経済、経営の基本知識、ゼミで学んだディスカッション力、ロジカルシンキング力は仕事に活かしていると思います。 |
| 434 | 授業やサークル活動での人付き合いによって、自分が集団の中でどのような人と気が合って、どういう面が不得意なのかを知ることができました。 |
| 436 | 在学中に得た知識やスキルよりも、早稲田卒というブランドが持つ影響力は大きいと感じている。就職時には、実際の能力よりも非常に轟然とされていると感じた。実社会では大学で学んだ知識など役に立たないが、学ぶ姿勢が仕事に取り組む姿勢に現れると思われるので、真剣に学んだ経験があるということが、実社会で活躍する上での必要条件なのかもしれない。 いづれにしても、社会に出てから学ぶことの方が遥かに大きい。 |
| 437 | オープン科目で 一流に相応しい教授や講師から学びの機会を受けたことが良い思い出となった。直接的に生きている実感はない。 |
| 438 | 現在、国家資格の取得を目指しているが、そのための効率的な勉強に生きている。 |
| 439 | 現在、数学の教員をやっているが学部で学んでいたのは地球科学でありあまり関連性はない。しかし地球科学には天文から化学、古生物などいろいろな分野の教授がいたため幅広く専門知識を得たのは進路指導することに役立っている。無論、多くを覚えているわけではないが何が行われるかを知っているという意味では学部で勉強していたことは大きい。教職の授業もいい授業が多く、教育心理学の授業で聞いた話を実践したこともあ |

| | |
|-----|---|
| | る。また、一般教養の授業も多彩で大学時代に受けた漫画の授業など自分が授業をする上でネタとして使うこともある。多くのものを学んだことを糧にしている実感は少なからずある。 |
| 440 | 生かされていない。 |
| 442 | 謙虚であること。 |
| 445 | 化学系のメーカーに勤めているので、専攻で学んだことが活かされている。また、論理的思考のペースも微小ではあるが身につけており、それを就職後に伸ばすことで、活躍の場が広がっていると思われる。 |
| 448 | 専門分野のみならず、社会規範や人間関係といった生きていく上での能力を身に付けさせてくれる環境であった事は、今考えても間違いなかったと感じる。 |
| 449 | マネジメント ロジカルシンキング 文章構成力 |
| 451 | 仕事に必要な知識を学習することに対する姿勢や考え方 |
| 452 | 勉強もサークルも一生懸命やったので、大学時代は忙しかった。なので、限られた時間の中で優先順位をつけ、スケジュール管理をするスキルは、仕事で忙しい今の毎日の中で生かされている。 |
| 453 | 全く違う方向に行ったので特に今は生かされていない 人間関係の築き方くらい |
| 455 | 在学中にグローバルな視野を持つ学生と出会うことで、自分も海外で活躍したいと思い、実際に海外出向4年を経験した。 |
| 456 | どんな方法でもやるべきことをやりとげる |
| 457 | 何一つ役立っていない。進学しなければ良かったと思っている。 |
| 458 | 大学で得た専門定知識や教養、論理的思考力は仕事で文章を書く際の根本的な土台として役に立っている。 |
| 459 | 幅広いことに興味を持てる。 |
| 461 | 大学院に進学できた。 |
| 464 | 広い視野で物事を見られている。同窓生と結婚し、価値観も似ている。 |
| 465 | 法律の基本的なスキルは、業務において役立っている。図書館を中心に、様々なものごとについて横断的に情報を収集したことが、業務においても役立っている |
| 469 | 優秀な生徒であっても出身地を出ない比較的閉鎖的な地元を出て、初めての1人暮らしで早稲田に入学しました。やはり関東圏の自宅から通っている学生が多かったですが、それでも全国各地から集まった様々な学生と過ごした4年間は、多様性を私の中に育みました。卒業後、地元に戻りましたが、もし生まれてから今までをずっと地元で過ごしていたとしたら、他者への寛容、新しい環境への適応能力は、得ることはできなかったと思います。 |
| 472 | 英会話交流会に行った際、会話が出来る。また、チョムスキーや60年代の音楽などが話題となる。 |
| 473 | 特に活かされていない |
| 475 | 好奇心旺盛で優秀な友人が多いため、考え方に影響を受けることが多く、キャリア形成、自己実現を考える際にとても役立った。 |
| 476 | イスラムに関する授業・国際関連の授業→国際情勢を見る際の役に立った。 行政学→政治や職場での交渉を考える際の役に立った。 映像学→仕事での見せ方、広告などを考える際の役に立った。 法律全般→一般 |

| | |
|-----|---|
| | 生活、商業全般を考える際の一助になっている。日本語ボランティアや留学→職場で留学生の嗜好を知る際の役に立っている。教育法や心理学→職場での考え方の一助になっている。 |
| 479 | 特になし |
| 481 | 個性的な学生が多く、人間関係構築にあたり多様性を理解できる寛容さが身に付いた |
| 482 | 学んだのは人生哲学そのものです。学費以上の体験をしました。問題意識を常に持ち弱者に寄り添う教員の姿勢には公正さがありました。いつもの確な指導をいただき、私がマイノリティという理由で攻撃されなかったのはじめてでした。私にとって塾にも高校にもなかった、誰もが尊重される公正な環境でした。常に批判的な環境で育った私はこのノンジャッジメンタルな態度が普通の社会であってほしいと、心から願ってきました。これを言えば綺麗事と大勢に非難されます。現実には批判的な企業風土に流されかけたこともありましたが、早稲田大学に在籍されている大勢の方々のなかにはきっと理解してくださる方がいるだろうと、いつも思います。そのように思えることが私にとって財産です。 |
| 483 | 様々な考え方を持った友人と語り、お互いを知り理解すること。高みを目指す人たちの考えに触れる機会が多かったこと。地元に戻ってきて「真逆の人たち(向上心などがあまり高くない)」と仕事する中で大学レベルでの意識共有の難しさを痛感しています。(答えになっていませんが) |
| 484 | 現在川崎重工業で働いています。語学はもちろんのこと、社内外との交渉力やコミュニケーション能力が必要とされます。また臨機応変に動ける力や考察力も。早稲田でそういう力が自然と身についたので、仕事上で何が起きても様々な視点から物事を見て、行動ができています。また早稲田大学出身ということで、偉いクラスの方々から可愛がってもらえたり、時にはネタにされたり…本当に早稲田大学卒業してよかったと思えることばかりです。 |
| 487 | 仕事にも私生活のいずれについても全く生かされていない |
| 489 | 職務上、許認可等の行政手続を担当している。学生時代に習得した法律学の知識をベースとして役立てている。 |
| 490 | 本学在学中にサークル活動を通じ、同期生以外にも先輩後輩、OBOGとの多くの交流を通して、仕事上や私生活も含め、円滑な人間関係形成の方法を学ぶことができたと感じている。学問の面では不勉強であったと感じており、今となっては後悔することも多いが、当時サークル活動というものに熱中することができ、今でも切磋琢磨しあえる人間関係をサークル活動を通して得られることができたことは、貴重な経験であったと思う。 |
| 492 | 投資先や種類を考える時に役に立っている。 |
| 493 | 自発性・行動力・好奇心が身についていると思う。学生時代、設備環境は整っているというのに自ら考えて日々を過ごしてそれらを活用していかないと損してばかりだということに気がついた。まわりをよく見渡せば、自分がいかに恵まれているかということ。もっとそれらに対して興味をもって自ら動いていけば、色んな経験に繋がるということを学んだ気がします。社会人になって仕事に拘束される時間が増え、メンタル的にも自分の時間をどう使うかが大切だと考えるようになった。興味を持つものに対してとにかくアクションをかけてみるが増えた。1人旅はその良い例で、一度チャレンジするとなんてことはない。旅先で現地の人や旅人と話す機会をがどんなに楽しいか。そしていろんな感情が生まれる。それが仕事に活かせることもあれば、生活に潤いを与えて仕事をするパワーにもなったり。そんな気がしている。 |
| 494 | 育児 |

| | |
|-----|---|
| 495 | 私生活において友人関係に恵まれた。 |
| 497 | 様々な分野で活躍する仲間を得られ、常に刺激を貰えるは役立っていると思うが、具体的なスキルはない。 |
| 498 | サークルや授業などで培われた感受性は、日常生活を豊かに楽しいものにしてきている。 |
| 499 | 新しい分野の仕事に乗り出す際の情報収集、整理、プレゼン等の実施において、学生時に得たりサーチのフレームワークや、文章力等々を使用していると思う。 |
| 500 | 政治哲学をゼミで学んだが、哲学の学問的な課題解決方法、思考方法が仕事上、答えの無いなか判断を行う必要がある場面で役に立っている。 |
| 501 | 専門分野に関する基礎知識、文献等の調査方法は現在の仕事を進める上で、とても役立っています。 |
| 505 | 教職大学院で学び、小学校教員をしております。理論と実践の融合という大学院の学びは今でも役立っています。 |
| 506 | 異文化への理解・交流に自信が持てた。外国の方に限らず、早稲田には本当に色々な人が居たことが自分の世界や価値観を広げてくれた。それが相手を理解することの大切さへと繋がり、今の自分の大きな個性を形作ってくれたと感じる。神社のつぼ、とても言うべき早稲田には感謝しかない。 |
| 509 | 大学時代に培った人脈は、公私を問わず役立っている。 |
| 510 | 一般科目の一部は子育てをする上で、教職科目と専門科目はすべて仕事上役立っている。 |
| 511 | 気心知れた友人を得たこと。勉強で学んだことはあんまりないです。イベント企画の仕方などは、仕事に役立ってます。 |
| 512 | 仕事との両立を果たせたという自信が介護など何か壁にぶつかった時も乗り越える原動力となっている。世界のニュースを、より多角的に見るようになった。 |
| 513 | 研究室のLinux管理やプログラミングスキルがSEの仕事に役立っている。研究で鍛えられた課題解決力や論理的表現が仕事を進める上で役立っている。また在学中はよく英語に触れていたので社会人になって英語の文章や外人とのコミュニケーションに変な苦手意識が無い。 |
| 514 | 論理的思考はどこでも役立つ |
| 516 | 子どもとの接し方や、地域の方との関わり方(大学生活を通じ、いろいろな考えの方がいる、と実感させていただいた) |
| 517 | 現在法曹を目指して勉強しておりますので、学部時代の専門科目の勉強はかなり役立ってます。 |
| 519 | 日本史学専修だったので専門知識が仕事に直結するという事は少ないですが、巨視的な視点からすると歴史的なアプローチというものが仕事を進める上で活かされているという感覚があります。また、日本史学専修の中で趣味や志向が同じような仲間たちと大学時代を過ごせたことは、職場では経験することの出来ない貴重な財産であったと思います。あの時の経験は仕事上でも私生活でも、私の人生の燃料の一部として私を勇気づけてくれます。 |
| 520 | 研究に役だっている。 |
| 522 | 様々な価値観の人間がいること。大手企業や土業に就く事がゴールではなく、やりたい事を自己実現していく事を是とする人間が沢山いる環境だったのが刺激だった。 |
| 523 | 様々な人と関わることで、既存観念に囚われないスキルが身についた。 |

| | |
|-----|---|
| 524 | 同窓生にすごいと思える人がたくさんいて、その人が頑張っているのをみると、自分も頑張ろうと思えること。 |
| 525 | 経理の仕事に就けました。早大卒の方と結婚しました。(在学中に知り合いだったわけではないが、早大卒つながらりで話すようになった) |
| 526 | 自分自身の考えをしっかりと持ち、他に流されず行動する強い意志、自分から動こうとする気持ち。また広い許容量。社会科学部は非常に多様な学びが出来、色んな考えの友人と出会える場所であった。小中高一貫の小規模な学校を卒業した私は、能動的に行動しなければ人間関係も築けず学びも得られないことを大学生活から教わった。そこで様々な学びや考えを知り、自分の視野が広がった。社会科学部で教職を取得するのは大変であったが、この経験があったからこそ多様な背景をもつ生徒とも教師として広い視野で関わる事が出来ていると思う。 |
| 528 | 大学教員をしているので、大学で身につけた知識はもちろん、教員の授業運営の仕方など、お手本にさせていた部分が多い。 |
| 531 | PCスキルはやっていて良かったです。 |
| 533 | 教職課程で免許を取得したことから教育分野への興味関心が増し、教員就職しました。 |
| 535 | 私は金融に関わる仕事に就いていますが、大学で学んだ統計学の知識は、金融の議論を理解する基礎になっていると常々感じています。 |
| 536 | ・良い友人を得られた |
| 538 | 大学で学んだ機械工学の知識が、会社の日頃の業務に役立っている。 |
| 541 | 優秀で多種多様な人間が世の中にいるということを思い知らされることは非常に重要だと思います |
| 543 | 仕事でのプレゼン、物事の考え方・捉え方 |

Q39. 授業、カリキュラム、教員の指導など、本学が改善すべきであると思う点などについて、ご意見をお聞かせください。※一部個人名を伏せている。

| No. | 回答 |
|-----|--|
| 2 | リベラルアーツであるからこそ、1・2年次はアメリカのような100番台の教養科目があっても良いと思いました。3・4年次は専攻を決めるなど、もう少し専門性があっても良いと感じました。 |
| 4 | グローバル教育にはますますの必要性を感じており、現在の方針へ大いに賛成するとともにこのまま継続してほしい。早稲田は勉学のみならず、学生にしかできないことの最後のチャンス(誘惑と紙一重ともいえる)にありふれた環境にある。当然ながらそれらと本業とのバランスを考えるのも自己責任である。入学時点でシラバスがあれば多少プランニングに役立つのではないか。 |
| 5 | ●●氏の件に関わった教員がまだのさばっているのを何とかすべき。文化構想学部のような広告代理店がつけた酷いネーミングは廃止して文学部に統合すべき。本も書かない教授はとっとと誠に若い研究者や作家を雇うべき。 |
| 7 | 特にありません。 |

| | |
|----|--|
| 8 | 米国のように予習や出席、授業中の発言などのコミットメントをしないと単位が取れないようにし、しっかりと専門性や思考力、語学力を着けさせるべき。でないとなすすま日本は世界から置いていかれる。(在学中に留学を経験し、現在もグローバルにビジネスをする身として、自戒の念を込めて) |
| 9 | 卒業後の目標を1年目にしっかり意識づけさせてから授業を受ける形にした方が良いと思います。入学がゴールになり、在学中の目標設定がなされないまま、受け身で授業を受けるのは良くないので。 |
| 10 | 将来就職したときに直接役に立つことも教えてほしい |
| 11 | 基礎実験は何も考えなくても手を動かせば結果が出て、何が何だかわからなくても実験を終えることができてしまう。もっと学生に考えさせるような実験をできたら楽しいと思う。 |
| 12 | 単位を取るのが簡単過ぎる。どの科目が将来どのように活かせるのかわからない。 |
| 17 | 大きな話となるが、医学部を設置して、研究レベルを上げていければ。 |
| 18 | もっと学びたい科目があるが、受講日・時間が重なっているために受講できない科目が生じてしまう、といったことがないようにオンライン受講も拡充してほしい。 |
| 19 | 所属している学部での専門科目だけでなく、オープン科目などで他学部の学生との交流がもっと盛んになれば良いと当時思っていました。 |
| 22 | 特にありません。 |
| 24 | 指導方法について、生徒に教えるような話し方ではない教授が一部いた。(今は変わったかもしれないが) そもそも声が小さくてよく聞こえないとか。 |
| 25 | 厳しい授業とやさしい授業の差が大きい |
| 27 | 私が発達障害なのもあったと思うが(最近発覚した)、授業の取り方についてもっとアドバイスがあってもよかったと思う。私は面白そうな授業をいろいろとって自分が興味のある分野を探していた。しかし、最終的にゼミを選ぶときほとんどのゼミが言語学に関するゼミであることに気づき、もっと言語学の授業をとっておけばよかったなって後悔した。SILSはいろんな分野を学べるのが利点だと思っていたので正直驚いた。いろいろと相談できる人がいたらより充実した学生生活が送れたとおもう。 |
| 28 | 55号館のトイレは早く改修した方がよい。 |
| 30 | 世界のワールドスタンダード、トレンドを学べる授業を追加してほしい。 |
| 31 | 教員によって、授業の工夫度に差がある点。一方的に講義する教員もいれば、質問を投げかけ考えさせる講義をする教員もいた。 |
| 35 | グループワークを増やしてもらえると、交遊関係が広がり、さらに視野、知見深まるのでは、と、海外大学で経験した修士課程と比較して感じる。 |
| 37 | 専門科目の細分化。 国家資格取得のより積極的な推奨。 |
| 38 | 今は状況が変わっているかもしれませんが、他学部聴講やオープン科目でどうしても取りたい科目があっても、選外になってしまうことが多々ありました。4年間にわたって毎回トライしても、結局受講できないまま卒業してしまったことが心残りです。申込みの際して志望動機の記入を必須化したり、GPA上位から優先的に受講を許可するなどの取組みはあっても良いと思います。 |
| 39 | 学部1年のときから教員と会話や議論ができる機会を増やした方が良いと思います。 |

| | |
|----|--|
| 40 | 私のような田舎からの苦学生に対する補助やその PR 活動。 |
| 41 | 法医学の勉強をもっと充実させて欲しかった。在学中、ゼミを選ぶ年の翌年に法医学ゼミができてとても悔しい思いをした。法医学ゼミに行っていれば違う進路だった気がする。 |
| 42 | 私がいた頃は、長椅子での受講がきつかったです。 |
| 45 | 慶應に圧倒的に押されている。受験生に選ばれる大学となるために、第一に、偏差値の向上、次にマスメディア等への積極的な露出を行うなどの取組みが必要。また、学生の学力を図る客観的な指標として、資格試験合格者数が利用されやすいため、司法試験、公認会計士試験など難関資格の合格者を増やす取組みに積極的になってほしい。 |
| 46 | 良くも悪くも早稲田がひとつのブランドになっている以上、事件が起これば“20 代の大学生”や“大学職員”ではなく“早稲田大学の”という報道がなされるので、早稲田の看板を背負っていることを関係者は認識すべきです。その看板が今後の人生で有利になることもあれば、看板の荷が重すぎて悩む人もいでしょう。早稲田大学としては、大きくなりすぎた早稲田のブランドが間違った方向に進まないように、今以上に広報やブランド維持に邁進していただきたいです。 |
| 47 | 入学がゴールになっている 思考力を身につける教育になっていない テストに対してフィードバックがない環境 (学部生が多いため仕方ない部分もあるが) |
| 48 | 幅広い分野を学べる環境や社会に出て役立つスキルや知識を学べる環境を提供して頂きたい。 |
| 53 | 一部、厳しすぎる教員がいると感じました。特に資格取得にかかる授業では学生に優しくしてほしいです。 |
| 55 | 経営者や、企業の幹部の人の話を聞く機会 |
| 57 | アクセスや SAS、マクロや Python など、学生時代に学べていればよかった。パワポを使つての資料作成も、学生時代にもっと数をこなせていればよかった。 |
| 62 | 教授との距離感を近くすれば良かった |
| 63 | 社会人向けのサテライト校を作してほしい |
| 64 | 特になし |
| 66 | 文学部などでも、【文系でもこんな資格もあるよ！】と知ってもらえるような資格試験対策コースなどもあってもいいかなと思います。 |
| 67 | 希望すれば得られるものが多いので過不足ないのではないかな。 |
| 68 | 早慶戦の日は休暇にしてほしいです。 |
| 69 | 非常勤講師の待遇。 |
| 72 | ほかの大学出身者の話を聞くと、早稲田は就活のサポートが足りなかったり、学びがどう将来に活かされるのかが明確になっていなかったりするように感じます。学生の自主性を重んじるからこそだとは思いますが、私のように「親戚に早稲田出身の優秀な人がいるから」のような理由で早稲田に決めた人にとってはそもそも何から手をつけていいかわからなくなります。1年の時、最初の授業で周りの友人は親が先生で知識を沢山持っているとか、本を毎日1冊読んでいるとか、自分の努力の足りなさに愕然とした記憶があります。今後日本の大学受験制度や教育制度、また関連して働き方も変わっていくと思います。「公平さがなくなるから筆記試験をしない」ではないのです。「筆記試験で人は公平でないことを思い知る」のです。今のような校風のままでも伸びる人材だけを育てるならば、試験で振り落とすべきでしょう。そうでないならば、もっとサポートは必要です。 |

| | |
|----|--|
| 74 | 専門が分かれてからも、学位取得だけでなく、学部やキャンパスを超えた講義を取得しやすい環境であるとよりよい。単位以外には自身の興味という観点でしか利が得にくかったが社会に出てからは他学部の思考を知っていることが役に立っている。単位以外の評価があると学生の方はよりオープン科目の受講をしやすいと思う。また、第二外国語以前に早大生は基本的に英語でのコミュニケーションを難なくできるように育成してほしい。自身がとても苦勞しており、早稲田なのにも言われるため是非これからの学生さんのために検討していただきたい。 |
| 75 | 特に無く、充実した学生生活だったと思います。 |
| 77 | 東日本大震災の影響もあり、卒業式が開催されなかったのは今でもおかしいと思っています。雰囲気になれない早稲田であって欲しいと思っています。 |
| 79 | 指定校、内部推薦を排除する |
| 84 | 在学中の自由に学べる雰囲気は良かったと思う。卒業後に学びたくなることも多いので、社会人になってからの学び直しの機会を卒業生に対して積極的にアピールしてくれると良いかなと思う。 |
| 87 | 全体として私たちの時代では課外活動(サークル、アルバイトなど)への注力が容認されているカルチャーであった。しかし今後の社会を考えると、4年間ないしは6年間しっかりと専門知識を身につけていく必要があると感じている。早稲田大学にはそのような改革を期待している。 |
| 88 | 人間科学的な視点に基づいたカリキュラム。 |
| 89 | 授業の内容と実際の仕事の内容がどう結びつかイメージ出来なかった 仕事をして人生を作っていくことがどういうことか分かっていなかった 自己分析のような授業を必須にしてみれば |
| 90 | 1年目から受けたかった授業があり、毎年応募していたのですが、結局4年目の最後まで抽選が当たらなかったのが残念でした。人数の関係もあると思いますが受講したかったなと心残りです。 |
| 91 | 教育学部数学科でしたが、理論だけでなく、機械学習をはじめとした社会への応用についても話題として扱い、具体例も交えて学んだ方が、理論についてもイメージしやすく身につくと感じました。 |
| 92 | 教員が独りよがりの授業を展開するのではなく、学生の学ぶ意欲をもっと引き出す創意工夫を常にし続けていただきたい。企業社会では思考停止ではやっていけない。大学も今の時代のスピード感や潮流に合わせた授業を展開してほしい。また、コミュニケーション能力は文理関係なく必要なスキルであり、学生に沢山人と接する機会を与えてあげてほしい。 |
| 94 | 所沢キャンパスの孤立。 |
| 95 | 生徒数が多く、学校から個人へのケアが不十分。自立性は身につくが、経験の浅い学生にとって、ある程度の道しるべはあった方がより濃い4年間を送れたと思っています。学部ごとのセミナーや教員からの情報提供など、学校から発信する機会を増やしてあげて欲しいと思います。 |
| 96 | 早稲田大学の学生のレベルが下がってきていると思う。推薦やAO入試の割合を少なくし、一般入試の定員を増やすべきだと思う。授業のレベルも上げて欲しい。 |
| 97 | ゼミの必須化。論文の書き方の丁寧な指導。第二外国語よりも英語の時間を増やす。 |
| 98 | 再入学したいと思うほどに全てが魅力的でした。学生の質を落とさず、いい意味で変わり者の多い早稲田大学であり続けてほしいです。 |

| | |
|-----|--|
| 99 | 指導教員とけんかになってしまい、研究室にいられなくなってしまったときのフォローとリカバリプランが欲しかった。もしもリカバリプランがあったならば途中で辞めざるを得なくなることもなかったかも知れない。 |
| 101 | 無気力な学生でも卒業できてしまうのは良くも悪くもあると思った。 |
| 104 | リテラシーの向上。 |
| 105 | ①社会人が大学院で学べる体制を整えてほしい。 ②文学部の大学院でも、臨床心理士コースを設置してほしい。 |
| 106 | 英語や第二外国語があってもいいと思う。スポーツ推薦の学生に甘い感じがあった。 |
| 108 | 卒業して思うこととして、教授は学問の面白さを伝え、好奇心を育むことが大切だと感じる。そのような教授、授業での経験は、今でも糧となり自分の中に残っている。 |
| 109 | 授業は正直受け身のものが多かった。もっとアクティブラーニングを取り入れ、英語でディスカッションするような授業をオプションではなく必須科目で取り入れて欲しい。また東大のようなリベラルアーツを取り入れて欲しい。高校では自分が勉強したい学問がはっきりわからないことが多いし、進学選択という関所を設けることで、もっと勉強に身が入るようになると思う。 |
| 110 | 特になし |
| 111 | 特にありません |
| 112 | 左寄りの思想の教授が多いのはいかがなものか。特に法学部はその傾向が強く、卒業してから色眼鏡で見られる(左寄りの思想なのではないかと)ことがあり、困った。 |
| 114 | 内部の教員に寄り添った研究推進体制は必要と思います。 |
| 115 | 一部の、一斉授業でただテキストをなぞるだけ、といった授業スタイルからは得られるものが少なく、見直す必要があると感じた。 |
| 117 | 英語を学び、そして英語で学ぶということをより強化していく必要があると思います。 また授業・講義外の活動について啓蒙していくと、より広い視野を持って大学生生活を送れるのではないかと思います。 |
| 119 | 学生に対するきめ細かなケア(カリキュラムの立て方・進路相談など)は物足りなかったように感じます。 とはいえ、学生が自由に過ごせることが、良くも悪くも早稲田の校風だと思うので、あまり過保護になる必要はないと思います。 |
| 120 | 授業選択時に受けてから判断できるような制度を作って欲しい。シラバスだけで判断すると思っていたものと実際が異なることがある。 |
| 123 | 教養学部なことはよいと思うが、理系科目が少ないため、増やすべき。 |
| 125 | 就職に結びつくような授業があったら良かった。 |
| 126 | 英語以外の会話を重点的に出来るようにする必修科目があると良い気がします。英語は1年時にある程度会話できるようになった気がしますが、他の外国語の会話は私の頃はそれほど上達しなかった気がしました。 |
| 127 | 本学の直接的な問題ではありませんが、系列校の小学校の考察のありかたを見直した方が宜しいかと思います。 |
| 128 | 学問は非常に大切だけれども、必要性を感じないと中々手につかないことがあった。インターンなどを早めに経験するとよいと思う。 また、ディスカッションや自分の意思表示の重要性が高まってきているので、そのような授業や知識を学ぶカリキュラムを増やすとよいと思います。 |

| | |
|-----|---|
| 129 | リベラルアーツを充実させてほしい。普通科の学生が多いが、社会に出ると工業高校や商業高校でやる科目の知識が求められるので、高校卒業レベルの知識が得られる科目があると良いと思った。 |
| 130 | 専門科目は日本語で学ぶべきだが、英語を使う教育を充実すべき。ビジネスでは英語が出来ることが当たり前になってきている。 |
| 131 | 特に無し |
| 132 | 留学サポートと斡旋を大々的に行うべき。 |
| 133 | 就職活動への支援 |
| 136 | ゼミなど自ら主体的に取り組む学びの機会を増やすべき。年齢や立場を超えて議論する機会があればいい。 |
| 137 | より少人数制のカリキュラムにする、セミナー形式の授業を増やすことで、生徒が積極的に参加するかたちの授業を取り入れると良いと考える。 |
| 138 | 閉鎖的な点。もっと外に羽ばたくことに寛容であるべき |
| 139 | 立教の経営学部などきめ細かい指導をして名を挙げているので、そういうところを参考にしてほしい。放置主義である。 |
| 141 | 特にありません。 |
| 142 | 教員が大教室で、大人数の学生相手に行う講義は撤廃するべき。すべての講義をアクティブラーニング形式にすることが理想。学生の参加意欲および満足度が格段に上がると思う。 |
| 143 | 他の学部はどうか分かりませんが、SILSではゼミや留学仲間以外との交流が在学中限られていたので、それは残念でした。横のつながりを作る取り組みがもっとあれば良かったなと思います。また、SILSでは2年の夏から3年の夏まで留学するため、インターンの機会が限られており、1年の春の時点で情報を提供してもらっていたら良かったなと思います。 |
| 144 | 特になし |
| 145 | 授業でのフォローアップ体制を整えて欲しかった。オフィスアワーに教授を訪ねるのは勇気が要るので。 |
| 147 | 一般教養科目の負担が大きかった。大学なのだから、もっと自分で学びたいことを自由に学べるようすべしと思う。 |
| 148 | 留学生交流や留学派遣の強化などグローバル力の強化と、ディスカッションの機会(含む英語で)を増やすこと。 |
| 151 | 特にありません！ |
| 152 | なし |
| 154 | 特にオープン科目で、本業だけでは食べていけないから講師を務めていると公言する人間がいた。こちらは興味があって受講しているのだから、もっと教える意欲やわかりやすくする工夫を見せてほしい。 |
| 155 | IT、プログラミング、AIなど次世代分野。 |
| 157 | 特にありません。 |
| 158 | 野球部の伝統は素晴らしいが、更に野球の面白さを感じ、かつその他の視野を開ける環境であるべき。そう言った血を新たに加えていくべきと考えます。それでこそ学生スポーツのリーダーたると思います。 |
| 159 | 英会話の必修化 |

| | |
|-----|---|
| 160 | 履修していなくても、他学部の授業にも参加できたらよかったなど、在学時に思っていました。 |
| 161 | 学生数が多く、各学部が狭小であるため、空間を大きくし、教室のみならずオープンスペースにも学生の居場所を確保し、ラーニング commons のスペースを増やして欲しい。 |
| 162 | 特にはないが、今後、ますます思考力を問われるようになると思う。 |
| 163 | 今はどのようなカリキュラムになっているのかわかりませんが、在学中に学部の垣根を越えて履修できる授業がもっと多ければ良かったと思います。 |
| 166 | 特にありません。 |
| 167 | カリキュラムの理解が及ぶ前に科目選択をしなければならなかったこと。もっと丁寧な説明があればよりよかったです。4年トータルでの計画もたてたかった |
| 170 | ゼミ及び卒論の必修化 |
| 171 | プレゼンテーションツールを活用した授業だけでなく、その方法を教授する授業をさらに増やすべきだと思う。 |
| 172 | 学校制度の活用や社会に出る心構え・自己マネジメントなどについてもっと知り得るような環境があると良いと思います。 |
| 174 | 試験の答案用紙の採点結果を、希望者にはフィードバックする。 |
| 176 | 法解釈の基本的な思考方法や、法律主要7科目の基礎中の基礎部分だけを解説するなど、超入門レベルの必修科目を1年前期に設置してほしい。 |
| 177 | 小学校教員免許をスムーズにとれるようになると良い |
| 179 | 自学自習の習慣を身につけさせること。学ぶ環境だけ整えて、学びたい人間だけ伸ばせば良いです |
| 181 | 自らの意思で動ける学生には、本当に多くの機会に満ちた素晴らしい環境でした。一方、最初に流れに乗れない学生が来なくなっていくイメージがあります。1年生の後期などに何かしら仕切り直せる機会があると救える学生もいるのではと思います。なお、私の場合はゼミの受験が契機となり、勉学への意欲が生まれました。 |
| 184 | ビジネス的思考も身に付けられる大学であってほしい |
| 185 | 不祥事おおすぎ |
| 187 | 大手の民間企業での就業経験のある教員も一定数必要ではないか。 |
| 189 | 第二文学部は卒論が必須では無かったので、必須にした方が得るものが多いのかなと思いました。 |
| 191 | 成績に関する卒業基準を厳しくしていた時期だったことで、やる気のない人と接して墮落する機会が少なく良かったと思う。2010時点よりもさらに厳しくしても良いと思います。 |
| 192 | 一般教養科目とゼミについて複数質問があったが、そもそも第一文学部のカリキュラムに該当するものがなかったのでは？本来それを重視すべきと思うが、無かった(或いはそう思うぐらいウェイトが低かった)と感じるのは、在学中から不満であり残念であった。大規模で横並びの授業から脱却すべしと感じる。 |
| 195 | 数年、学内で働きましたが、図書館の資料に対する大学側の考え方、スタッフをただのカウンター係のような扱いで給与も低く質が上がらない点、近年の学生のモラルの低さが目につきました。 |
| 197 | 他の大学にも共通することだが、受身な授業が多かったと思う。少人数のディベート形式の授業がもっと多ければ良かった。実際に社会にでて、自身の意見を持って発言できる人が活躍していると日々感じている。 |
| 199 | 対外への発信を強化してほしい。 |

| | |
|-----|---|
| 201 | 地方学生の増加 |
| 203 | フィールドワークを頻繁に行う必要のある分野に関して、学内で対応できない場合は、学外での活動を授業や単位の兌換措置として認めるシステムを充実させるべき。すでにそういったシステムがあるのであれば、積極的に周知すべき。 |
| 204 | 大規模なので難しいですが、もう少し面倒見が良かったらなと思いました。 |
| 205 | 世の中の企業が求めているスキルや実学も大事だが、MBAを受けていて思うのは時代を超えた普遍性の高い価値基準を養うのも学生時代に必要で、そういう点で哲学や文学の重要性は見直されるべきと思います。ただ、世界の新興国の価値観や文化、言語を学ぶ授業はもっとあっていいと思います。多様性という意味では留学生や都内の外国人などもっと交流を持てたらいいと思います。 |
| 211 | 大教室での授業は、独学でも変わらないのではないかと当時思いました。 |
| 212 | 一般教養の授業について選択のモデルコースを提示してほしい。自分の時は訳もわからず闇雲に選んでしまったため。 |
| 213 | 本人の心構え次第と考えている部分が多いので、大学に対しての要望はあまり思いつきません。 |
| 219 | 一文の英文学専修はゼミが無かったので、それが残念だった。 |
| 220 | なし |
| 221 | 教員からの連絡手段がコースナビやメールでの緊急時の伝達が遅れ目であった |
| 225 | 特になし |
| 226 | 各先生の個性豊かな教育が印象深かった。近年、画一化されているように感じる。質の確保は重要だが、学生が夢を抱くという観点では、学問について、自由に熱く語る教員の姿を見せるのも、良いのではないか。 |
| 228 | 就職する場合、早稲田の卒業生となると企業の中でも経営的な立場に関わることを期待される場合も多々あると思われる。特に理工系でも経済や経営に関する知識を得られると良いと思う。 |
| 229 | 特にございませませんが、5人以下の人数で個の意見を伝えあい、結論を導く方式の授業ができればなお良いと思います。 |
| 230 | 在籍していた機械工学科は学生300人超で研究室もひと学年10人前後と大所帯であったため、どうしても教官との距離を感じてしまい有意義な議論を出来たかといわれると自信をもってはいえないう状態であった。授業は仕方がないが、研究室はもう少し少人数制にした方が学生の責任も増え、研究に邁進出来るのではないかと感じた。 |
| 235 | 県人会があるなど、地元情報をもう少し発信・受信できる機会をいただきたいかった。 |
| 236 | 特になし。 |
| 238 | 授業内で、議論や発表の機会が増えると良い。 |
| 239 | 大学入学前から学びたいこと(国際関係論)がはっきりしていました。国際教養学部では、国際関係論に関連する授業はすべて取りましたが、残念ながらあまり専門性をつけることはできませんでした。そして正直授業のレベルもそこまで高くありませんでした。 |
| 244 | 卒業生のお話を聞ける機会が少し少なかったため、講演や交流会等をもう少し増やしてもらえたらなと思いました。 |

| | |
|-----|--|
| 248 | 国の方針に縛られず、文学部系に今後も力を入れてほしいです。早稲田の自由な校風を失わないでほしいです。 |
| 249 | 学生同士が積極的にコミュニケーションを図れるよう、授業の中でもディスカッション等を組み入れてほしかった |
| 250 | もう少し教員と学生、もしくは学生同士に議論させる講義が多くあっても良いと思う。 |
| 251 | もっと学生が自分の将来について真剣に考える機会を与えるべきだと思います。もっと単位について厳しくした方がいいし、仕事で役立つ知識を教えるべきだと思います。更に、自分で考え、人前で発信する力を育てることが必要だと思います。 |
| 252 | 学部時代は如何に楽をして単位を取ることをばかり考えていました。一方、大学院の時は指導教官から熱心に指導いただき、社会人になっても役に立つことが多いです。通り一辺倒なテストだけでなく、物事をとらえる力やそれに対してどのように課題設定するかをすることの大切さを学ぶ事が非常に重要だと考えます。 |
| 253 | 半強制的にでも、もっと本を読ませるべき。卒業要件をもっと徹底的に厳しくしていい。英語の授業レベルも低すぎた。 |
| 254 | 特になし |
| 255 | 早稲田の多様性を受け入れる文化は今後も続いてほしいし、SDGs が叫ばれる中でもそれが強みになるのではないのでしょうか。早稲田のおかげで本当に素晴らしい4年間を過ごすことができたので、今後も長く続いてほしいです。大学運営者のみなさまは大変かと思いますが、応援しています。 |
| 259 | 単位取得を厳しくするべき |
| 260 | 今一度原点に戻り、日本語でしっかり教育するという視点を取り戻してほしいと思います。日本国内(地方)で頑張る学生も多いです。早稲田の良さは多様性(都心、地方問わず)です。 |
| 261 | もう少し実験設備など具体的に学んだことなどをトライできる環境を増やしたほうがよいと思います。 |
| 263 | 理工学部社会環境工学科であるが、在学中に CAD や専門的な資格が取れるようなカリキュラムがあればよかった。 |
| 264 | 進路指導をきめ細かく行うべきではないかと感じます。 |
| 265 | 特になし |
| 266 | エリート養成ではなく、ベンチャー精神の養成。 |
| 267 | 自由なのに、一部、評価がなかなか保守的だったことがありました。 |
| 268 | どの学部でも、英語を使った授業や留学生との合同授業など、必須になるとよいと思う。 |
| 270 | 授業について、途中退室や欠席をしてもあまり成績に影響がなく最後の試験さえ合格点を取れば単位が取れる授業が多かったと思います。自由度が高い反面、緊張感がなく実質的に内容が身に付かないものが多いと個人的に思いました。 学生の受講時の態度など、さらに厳しくされると良いかと思っています。 |
| 271 | 教授の指導スキルの向上は特に必要。特定領域では最も古参の教授が最も低レベルの指導しか出来ず、院生や助教に対してもパワハラをしていた。 |
| 272 | 特になし |
| 274 | 語学はもっと徹底してやりたかった |
| 275 | 医学部を開設し公正な入学試験を行う |

| | |
|-----|---|
| 276 | 特にない |
| 279 | <p>・私が在学していた当時、「早稲田を知る」(という名称だったと思う)という科目があった。受講したかったが、スケジュールの関係でできなかった。あのような「大学について」の授業はオンデマンドでも受講できると良い。・アカデミックスキルの授業は、全学部1年次必修にしても良いのではないかと。私自身は2年生の時にレポートの書き方がわからず、困った経験がある。・『ワセクラ』と『マイルストーン』、私も大変参考にしたのでコメントしづらいのだが、あれらの雑誌があると選択肢が狭められてしまうのも確かだと思う。両誌で評判が今ひとつでも、自分には合う授業というのものもあるかもしれない。学生がああいう情報に頼りすぎないような仕組みがあると良いのではないかと、今になって思う。</p> |
| 280 | 自主的に行動できるような人間を育てるよう(場の提供)してください。 職場でも、何でもかんでも聞きすぎな方が多いです(自分で考えて欲しいというのが、毎日あります。それも50前等年配の方に対して。) |
| 282 | 双方向型の授業を増やした方がよい。 学部の決定を入学後にした方がよい。 |
| 285 | ゼミのない専攻だったので寂しかったです。 |
| 286 | 私は教職の仕事に就いているので、早稲田の教職カリキュラム、就職支援は弱いと感じる |
| 289 | わからない |
| 293 | 特にないが、インターンや起業、ボランティアなどカリキュラム外で学ぼうとしている学生を支援する制度があってもいいかもしれない。 |
| 294 | 留学はお金がかかることがネックで、結局挑戦せずに卒業してしまい、後悔しています。経済的に厳しい学生でも留学のチャンスが豊富にある環境づくりをお願いしたいです。 |
| 297 | 特にありません。 |
| 299 | 講義だけでは分かりにくい授業の、参考資料や、いい問題集などが探しにくかった記憶がある。自己学習の仕方を探すのに時間がかかり、最終的に単位を取るために過去問などでの対策となり、身についたとは言えない授業が多かったのは、今でも心残りである。 |
| 300 | 学年200名のうち、上澄み層を伸ばす教育が早稲田。高校までの受け身のカリキュラム気分ではダメ。そのあたりを入学後最初にインプットして欲しい。 |
| 301 | 1年生の時から進路のことを考える機会を設けるなどのサポートをすること。 |
| 303 | 教員になった人たちと意見交換できるような機会があると嬉しいです。 |
| 304 | 大学でも学生によるプレゼン能力などが重要視される時代ですが、私の大学時代のように文学部は文学部らしく、合理的で効率的な世界では語られることのない感性や価値観に触れられる場所であって欲しいと思います。 |
| 305 | 政治経済と名を打っているのですが、例えば地政学的な要因が経済に与える影響など、理論だけでなく、実際に起きている国際政治をその教授の視点から語る授業などがあると面白かったと思う。 また、私がいた頃はマイナス金利はあり得ないと言われていた中で、リーマンショックが出て、これまでの経済理論を超えた政策が次々と実行された。こう言ったものを学ぶには海外の最新論文などを読まない限り、5年以上遅れてではないと大学で学べない気がするのですが、最新理論はどんどん講義で紹介して欲しい。 指導としては質のばらつきが大きいので、学生の評価などを行い、質の均質化を目指すのもありだと思ふ。もちろん、個性は大事だと思ふが。あと、平日頃から卒業後にどうなっていたいのかを意識させる取り組みがあっても良いかもしれない。 |

| | |
|-----|---|
| 306 | ITリテラシーと金融リテラシーはどの業界に行っても必要なもので改善して欲しい |
| 307 | 既に国際化を推進しているが、授業のスタイルがいまだに日本流(=「学生が受け身」)であるのではないか。米国でのMBAを経験すると、日本の大学教育はガラパゴス化しており、教授のレベルも相対的に低いと感じる。教育スタイルを世界標準に本気で変えていかない限り、日本の大学及び教育に明日はないと思う。(ひいては、日本の競争力の低下に拍車を掛けることになる) |
| 308 | 特になし |
| 309 | 卒業から10年くらい経っているので現状がわからないのですが、英語を使う機会は多い方がいいかと思えます。 |
| 310 | 今とは少し違うかも知れないが、在学時は、留学先と比較して大教室での一斉講義が多いと思っていた。 |
| 313 | アカデミックとビジネス、ソーシャルのバランスを考慮したカリキュラム設計。卒業後もつながってほしいと思うような教職員の採用。 |
| 315 | 優秀な学生が全国から集まり、自主性を重んじることは早稲田の強みだが、頑張っってやっと入った学生の方が圧倒的に多い。それは経済面や、田舎から出てきた学生が自信を失わないために授業の出欠をとる、教授との距離を近くするなど、取組を強化してほしい。 |
| 316 | 授業スタイルを少人数にしぼって、もっとディスカッションする時間があるとよい。学部を越えたカリキュラムを増やしてほしい。海外留学制度の強化。 |
| 317 | プレゼンテーション力、ロジカルシンキングをより身につけられる授業 |
| 318 | 概ね満足していたので、特筆することはありません。 |
| 322 | 理工系で言えば、企業に勤めている技術者向けの社会人講座を充実させて欲しいです。もっと大学と社会の距離を近づけるべきです。 |
| 324 | 3年で所属したゼミの教授が指導を疎かにしていたが、大学側にそれを伝える手段もなく、数名が4年次にゼミを移動した。私の経験した環境では、専門教育のレベルが高いとは思えなかった。 |
| 326 | 今公立義務教育の現場に立つ身としては、教授と学生がもっと議論したり、学生同士で議論したりするような授業の在り方が望ましいように思います。今はどうかわかりませんが。その中でスポーツ科学部の友添教授のゼミで1年過ごせたことはとても価値のある1年でありました。大学の先生であんなに厳しく指導してもらえることはないと思っていましたので、感謝してます。1人1人に発言の機会が毎時間ありました。 |
| 329 | なし。素晴らしかった。 |
| 330 | 大教室での授業はYou Tubeや東進ハイスクールに任せて、もう99%しなくてもよいのではないかと思います。あと語学の授業でも旧態依然テキスト中心の座学の授業より会話を幹に実践的な留学生を交えて留学生とも人脈を築ける授業だったらよかったのかなと今更ながらに思います |
| 335 | 授業で出席をとり管理する、というような方向性ではなく、学生が自然にもつ学ぶ意欲に最大限に応えるような環境づくりに徹することが大切だと思います。 |
| 336 | 今になって、もっと学生時代勉強しておけば良かったと思うので、それを学生達に気づかせて欲しい。 |
| 337 | 大学スポーツの指導者の雇用を改善すべきであると思う。多くはボランティアが担っているが、それでは指導者育成が進まない。異なる分野の学部間交流をさらに促進すべきと思う。また、海外も含め他大学の同じ分野の学部間交流もさらに増えると良い。 |

| | |
|-----|---|
| 338 | 私は結局、短期留学しか出来なかったが、もう少し年収がそこそこの家庭に海外留学を長期でできるような奨学金を拡充してほしいと思う。中途半端な年収では給付型の対象ではなかったりした記憶があるため。もちろん圧倒的な学業の成績等があれば給付型の奨学金を得られる機会があるだろうが、一般的な学生にもそうした機会があっても良いと思う。(海外留学をきっかけに変わる学生も多くなると思う) |
| 339 | 就職や将来について考える機会を大学側からも提供頂きたかった。他大学生の話と比べて、自分で情報を取りに行かないと何も手に入らないことがほとんどであると感じた。社会人経験のない学生には、もう少し手厚く、転職サイトで無料で開催している自分の掘り下げ方セミナーのような具体的な教えがあるといいと思う。 |
| 344 | 友人と知り合えたこと |
| 345 | 特にない |
| 347 | 学部・研究科がたくさんあって多様性があることは認められるが、重複していたり隣接しているのに組織的に分断されている状況であり、学術分野ごとのまとまりに欠けている。そのため、ある分野の専門家に習いたいと思っても他は組織が異なるためにあきらめざるを得ない状況を生じている。例えば、政治学の教員は政経以外にも社会学や教育その他にもいる。そして、相互間の交流が乏しいように聞いている。 |
| 348 | 授業でのITの活用。基準が10年前なので具体的なことは何も言えません。 |
| 349 | 学習に熱心でなくとも取得できる単位が多すぎる |
| 350 | ゼミを決める際、通信制学生であったため、教員から直接内容について伺いながら選ぶことが難しかった |
| 352 | 主体的に考え、アウトプットできるような場がもっとあると良いと感じる。あるいは、せっかくの総合大学なのだから、学部間の連携を取るなど。極端な話、文学部の教授と、経済学の教授を繋げて、一つのリベラルな講義形態を志向してみるとか、教授の研究の一環を共に取り組むとか、はたまた外部機関と連携した取り組みなど(フランス文学なら、フランス大使館や日仏会館と一緒にイベントをやるとか…)場はいくらでも、持てるように思う! |
| 353 | 予告なし休講にすることはやめて欲しい、卒論指導では具体的な指導が欲しい、時間を守って欲しい |
| 354 | 実経験者を講師に増やしてほしい |
| 355 | ゼミ形式の授業がたくさんあっても、よいかなど。聴講形式はやはり薄い内容になりがちだった。 |
| 357 | 定員をもうける必要のない授業も多いので 他の学部の授業を受けられる機会をもっと得られたらよかった。 |
| 358 | 特にありません |
| 359 | リカレント教育の一環として、かつての第二文学部のように終業後に社会人が大学で学ぶことができる環境があると良いなと思っています。 |
| 360 | 講師により熱心さや難易度がだいぶバラついていて記憶がある。 |
| 361 | 自主性を重んじるだけでなく、個々の学生に対するケアも行って、より多くの学生が豊かな学生生活をおくれるようにしてほしい。 |
| 363 | アメリカの大学のように、レポートや論文の書き方について入学初年度にみっちり教えるべき。 |
| 364 | あまり受講したいという気になる授業はなく魅力に欠けており、がっかりした 高校での授業の方が有意義だった |

| | |
|-----|---|
| 365 | 理工学部について、専門の切替・複数の専門の履修が簡易にできるようになってほしいと感じます。 ∵入学時と高学年時で関心が変わる方は多いかと思います。初めから絞るのではなく2→3年次などに選択できるような形になってほしいと感じます。 |
| 366 | ビジネスにどう活かせるかの視点 |
| 367 | 卒論の必修科目化 |
| 369 | 特にはない |
| 373 | 当時の国際教養学部は特定の分野に関する科目は2、3個しかなかったので、もう少し専門性を持てるようにした方がよい |
| 375 | 教職を取るには夕方遅くの授業しか選択肢がなく、諦めざるを得なかったのが残念だった。普通の時間帯にもあれば、絶対に教職取りたかったです。 |
| 377 | 第一文学部日本史学科では一度もパワーポイントを使うことがなかったので、パワーポイントを使った方が今後に役立つと思います。 また、先生によって授業のレベルに差がありすぎます。やる気のない先生だとこちらもやる気が出ません…。 学部の英語の授業が簡単すぎて、せっかく受験で高い英語力がついたのにもったいないと思いました。 |
| 378 | 教務と教員側の意思の疎通がきちんとなされていない。履修登録ミスが相次いでいた。 |
| 384 | 特になし。卒業後になんらかの形で早稲田と繋がれるようなものが欲しい。 |
| 385 | もう少し就活支援に力を入れて欲しかったと思います。 |
| 386 | 留学生との交流を深め、もっと学生の視野を広げる工夫があればよいと思う。早稲田は学生任せな所があり、それが魅力的なのは事実だが、だからこそ「自然と」外国人や異文化に触れる環境を作ることで、より学生の意欲を刺激することができ効果的と思う。 |
| 388 | 授業の抽選が多い。教育学部の授業の半分がつまらない。個人的には調査データを用いて卒業論文を書きたいのに指定字数が多過ぎた。教育学部は移動が多いのに階段の上り下りが多いし人混んでなかなか移動できない。 |
| 391 | 特になし |
| 393 | やる人はやるし、やらない人はやらないので特に変更した方がよいとかはないが、講義の幅(経営の学部デザインとアートとか)は広げて色々なことが学べるようにしたらよいと思う。 |
| 396 | 授業方法に工夫する先生が当時もっと多ければ、もう少し早くから専門科目にも興味を持てたかもしれないと思います。ただブツブツと独り言のように話すのではなく、アクティブラーニングで議論中心の授業が大半であれば良かったなど。 ただし基本的には放任で学生を管理せず、食いつく学生には徹底的に(教員によりスタイルはさまざまですが)指導し、食いつかない学生は放っておくという姿勢は失くしてほしくない(それが早稲田らしい)と思います。 |
| 397 | 理工学部物理応物学科は、在学中のカリキュラムでよしいと思われます。 1、2年時に基礎実験を多く経験でき、実験の仕方、レポートの書き方を綿密に指導していただきました。 卒業論文も、鵜飼研究室は研究テーマを自らで見つけることを課しており、問題発見から解決にいたるまでの全過程を経験できました。 専門科目は威厳のある教員が多く、単位を取ることに努力を要しましたが、今となっては大きな刺激が得られたと感じて |

| | |
|-----|--|
| | います。基礎科目や教職科目も、他キャンパスや他大学との交流を自らが持てば多様な考えを得られる機会となりますので、現学生に薦めたいと思います。 |
| 400 | 数学科の専門性を活かせる就職先は、これまで教師、システムエンジニアがほとんどでしたが、近年はアクチュアリー(保険数理に関する専門資格)もその選択肢の1つとなっています。保険業界でのアクチュアリーの重要性が高まっていることを踏まえると、教育学部数学科においても、保険数理に関するゼミや授業を設置すると尚良いと思います。 |
| 401 | スクーリングの回数をもっとあるとよかったです |
| 402 | 少人数の授業やクラス制等による学生間・学生・教員間のコミュニケーション機会の創出、促進 |
| 403 | 自由に議論でき、時にはモラトリアムを過ごせる早稲田らしさをもっと活かすべきだと思う。学生看板を撤去したり学生のたまり場を消したりするような当局の横暴を許してはならない。 |
| 404 | 特になし |
| 406 | インプット型の授業が多いように感じた。フィールドに出て学んだことを発表する授業は自分の生き方に大きな影響を与えたと思うので、そうした授業を増やすべき。 |
| 408 | 1年次からゼミの紹介を行い、取る必要のある講義を周知するべき(2年のゼミ選考時に、授業数が足りず希望するゼミを諦めたことがあるため) |
| 410 | 英語で実施する授業を増やす |
| 411 | 社会に出てプレゼン能力を問われることが多々あるため、在学中にもっと学ぶ機会があると良かったと思う。 |
| 412 | 在学当時。本学学部卒業後、本学大学院に進学し、博士号すら持たずに教職にある職員が複数いた。それらの教職は総じて教授能力が低く、論文の執筆も無く、全くその職に相応しくなかった。国際標準からも大きくかけ離れるそのような役職員の实態は大いに恥ずべき。 |
| 413 | 私は結構授業を欠席してしまったので、学生カードなどによる出欠確認を導入したら良いと思う |
| 414 | 少人数で行う授業を増やすべきだと思います。 |
| 415 | 入学のタイミングで、卒業時にどうなっていたいかを考える機会があるといいと思う。何もわからない中で手探りにやりたいことを探すのもいいけれど、最初にゴール設定のようなものがあると、授業やサークル、留学等の課外活動の選択の参考になると思う。 |
| 418 | 現職では海外の大学を卒業した人が一定数おり、日本の大学との差を感じる。特に、老練的思考や積極性などの点において、海外の大学を卒業した方の能力が高いと感じる。 |
| 419 | 第一文学部時代なのでゼミが無く、授業が一般教養的なものしかなく、教員と議論する機会もほぼありませんでした。また、前期は教員の講義、後期は学生の発表というカリキュラムの授業がありましたが、回数が足りず大半の学生は発表できないまま終わった授業もあり、管理がかなりおざなりでした。少人数で教員の指導を受けられて議論を深められるゼミは必須にしてほしかったです。 |
| 422 | 部活動生徒が時間的に自由に学びにくい環境はあると思います。(10年経つと変わるのかもしれませんが…) |
| 426 | 出欠を厳しくすべき |
| 428 | 働いてみないとわからないことがたくさんあると感じます。学生時代にもっと学ぶべき、語学にも興味をもつべき、ということを教えてもらえると良いと思います。 |

| | |
|-----|--|
| 429 | 私は第二文学部の所属だったのですが、他の学内の学部とだいぶ違うように感じました。最初にもっと調べていても、憧れていた文学者の多いこちらで学ぶことを選んだと思いますが、自分でも学ぶお金をためていましたが両親に援助してもらっていることに申し訳なさを感じました。高校から進学して来ている方々や、また自分自身も威勢をはりながらも、あまりにも待遇等(年間受けられる授業の数が少なかったり、ゼミなど)がちがいが悲しんでいるのをみたり、感じるのが在学中とても辛かったです。力のある学部とそうでない学部待遇の違いは難しいのかもしれませんが、在学中は明るく毎日を過ごし、学び、どの学部も胸をはって元気に卒業してほしいです。 |
| 431 | 私語を放置しすぎて講義内容が全く聞こえないものがあった(もちろん学生が悪いのだが…) |
| 432 | 人間科学部は受けられる授業が面白いものが多いのに、早稲田大学が人間科学部の発展に全力を入れているように見えるのが残念に思う。慶應の SFC みたいにブランド化を図るべき。 |
| 433 | ディスカッションやディベートなど、教員から一方的に学ぶだけではなく、相互にインタラクションできる仕組みがあると学生がレベルアップすると思います。 |
| 436 | 他学部、他学科との交流が皆無なため、イノベーションが起きにくい。理工学部でどのような研究がされていて、各学部でどのような技術、設備があるのか、教員がいるのか誰も知らない。学部の受付の人ですら詳しく分からない。なので、コーディネーターやコンシェルジュのような、相談窓口のような、気軽に聞きに行ける調整する部門があっても良いと思う。他学部との連携が無いため、付加価値が十分に産み出せてないように感じる。タテとヨコの繋がりを強化するのも、非常に大切な事だと思います。 |
| 437 | 学生自身に問題があるが、受験時に何を学ぶかという視点を持たず、早稲田という大学自体を希望する学生が多いため、入学後に学部の授業内容とのミスマッチを起こしている。 |
| 438 | 元来の教育方針であるかもしれないが、学生に対して放任的に感じた。今思えば、とりわけ就職活動に関しては苦労したので、少し改善していただければ存じます。 |
| 439 | 改善すべき点かわからないが学部生の当時、私より優秀だった同期の学生がゼミを選ぶとき、該当のゼミの必修で取るべきものを受講していなかったために留年してしまった。学生の自己管理と言えそれまでだが教えてあげてもよかった気がする。しかしこれは自己管理能力の向上という意味では大学がやりすぎても良くないものだとも思う。 |
| 440 | 英語の授業にこだわらない。英語でのもっと丁寧な論文の書き方。修士でイギリスに留学したが、早稲田の知識じゃ全然太刀打ちできなかった。 |
| 442 | もう少し少人数の授業があって欲しい |
| 445 | 大学での学習から、仕事・ビジネスへのステップアップについて、より具体的な支援があると、早稲田出身者の社会での活躍の場が広がると思います。ただし、これは早稲田大学に限らず、社会全体の課題であると思います。 |
| 447 | 私の在学当時はかなり放任主義だと感じていました。 |
| 448 | 講義にやる気がない、もしくは講義の準備をせずいきあたりばったりの講義をする教授も、残念ながら稀に存在した。教員も学生も、授業や研究というものに対してもっと真摯に向き合うべきだと、自分自身が学生生活にもっと真摯に取り組むべきだった後悔も含めて)感じる。 |
| 449 | 社会人への門戸をより広げてほしい 本アンケートでも社会人入学者への配慮があまりみられない(設問が社会人入学者にとっては不適當) |

| | |
|-----|---|
| 450 | 就職にも資格取得にも役立たない授業がほとんど。一方他大学は面倒見が良さそう。生徒の自主性に任されているところは良い反面、面倒見が良いと考える保護者からは犬猿されるようになりそう。 |
| 451 | 学問を学ばせるとともに、一人一人のキャリアをフォローする活動がいいと思います。 |
| 452 | 自分は理工学部、院卒ですが、自習するスペースが少ない気がします。空き教室を開放してほしいと思っていました。ラウンジや学食でも勉強していましたが、静かに勉強できるスペースが欲しかったです。また、英語やプログラミングは、カリキュラムにおいてもう少し手厚いほうが良いと思います。あとは、建物の増改築にお金をかけているイメージが強く、本キャンなどに行くたびに建物が変わっていたり増えていたりするので、そのお金の出処が学費や卒業生からの寄付なら、もう少し外側だけでなく授業やカリキュラムを充実させては、と思ってしまいます。 |
| 453 | 入った学科だけじゃなくてもっと色々な選択肢を用意してあげて欲しい、大学に入ってから自分の道を知る事になるので |
| 455 | 自分の意見を持ち、議論(アウトプット)する経験がより積めると、より能動的な学びになると考えます。 |
| 456 | 教授の研究が有名なゼミほど学生が他力本願(教授主導)で研究を行うところ |
| 457 | 何一つ印象に残っている授業がない。 |
| 458 | 国際化を進めるべき。教員にも国際水準の指導力を求めるべき |
| 461 | 教員の質を上げるべきだと思う。教員評価の仕組みがあるのか。非常勤講師の比率が高すぎて長期的な教育・指導を受けにくい。 |
| 465 | あまり悪い点を覚えていないが、他大学、他学部の科目の履修など、割と自由にカリキュラムを組める一方で、そこに関する情報があまりなかったように思います。色々な情報が得られれば、今以上に多彩な人材が育つかと思えます。 |
| 469 | 私は法学部でしたが、卒論を書いておりませんし、所謂、自由なゼミを専攻しました。しかし、教授は立派な経歴を持ち人格的にも素晴らしい先生でしたし、ゼミの仲間も非常に優秀な学生ばかりでした。卒業後、地元に戻ってしまった後、もっともっと真剣に研究し論文を書き、先生や学生と熱く議論を交わせばよかったと思いました。早稲田の自由な校風は素晴らしいですが、私のように関東圏以外から進学した生徒にとっては、その環境の「価値」を最初に十分教えてあげて欲しいと思います。 |
| 472 | 英会話の講座の追加料金を免除してあげて欲しい。 |
| 473 | より実践的な内容 |
| 475 | 選択できる科目が多いことが魅力でもあったが、入学当時は友人もおらずカリキュラムを組むことが難しかった。 |
| 476 | 専門分野だけでなく、もっと商業に関する知識やITに関する知識を増やしておけば良かったと後悔している。多くの文系学生は専門分野にかかわらず会社勤めになると思うので、そういった卒業後専門分野外で必要になる知識に気付くチャンスが在学中にあればよかったと思う。(授業が用意されていても、気付かず卒業してしまうのではもったいない!) またパソコンの授業を取ったが、専門外の先生なのか授業の半分が源氏に関する説明だった。もっと本格的に学びたかった。ゼミの教員が飲酒を(未成年でも)強要する態度だったため、授業内容を熱心に学ぶ意欲を削がせたことも残念だった。社会構造がどんどん変わる中で、必ずしも会社勤めで働 |

| | |
|-----|---|
| | くことが普通ではなくなっている。自分がどう生きていくか「考える力」やそれを支える「基礎力」を養う場が増えることを希望する。 |
| 479 | 学生の自主性(自分で考え抜く力等)を養う講座等を必修科目として設置する。 |
| 481 | 学ぶ目的、人生にどういきるかを明確にしないと自立心のない学生は大学に通う意義がわからないと思う |
| 482 | 当時から改善された点が多々あると伺っておりますので、的外れな意見でしたら大変申し訳ございません。外国語で受ける授業が増えればより国際社会に関わる力がつくのではないかと感じております。在学中に洋書を簡単に読める語学力がつかず、また留学費用の捻出が難しかったため、最近海外に語学留学しました。やはり英語が読める、話せることで情報入手がかなり容易になるため必須かと思えます。また体調を崩し通学できない時期があり、そのことでゼミへの参加を躊躇してしまいました。相談する勇気のなかった私の弱さですが、私のように担当教員と一対一で話すのが病気で難しい状態の学生の方もおられるかもしれません。困難を抱えた学生さんにきめ細かい支援があればと思います。 |
| 484 | 就活の時に、どうしても授業を欠席しなければならない時があり、教員に説明してもダメの一点張り。就職氷河期で大変なのに非協力的な教員がいて困った。また威圧的な教員もあり、クラスみんなで毎回の授業が苦痛だった。外国人の先生で、学生が英語がわからないと思っていたみたいで早口の英語で、学生を馬鹿にした発言をした教員もいた。帰国子女の学生がいたので、早口でもすぐに意味は分かりましたが… |
| 487 | 施設の老朽更新など、キャンパス間で不平等が発生しているように感じている |
| 489 | 講義の受講人数が多すぎると感じた。受講人数が多い講義は分割し、30～40人程度としてはどうか、と思う。 |
| 490 | 自身もそうであったが、あまり勉学に勤勉な学生ではなく、また同様な学生が多かったという印象のもと記載します。早稲田大学は日本国内で今も有力私立大学という認識ですが、自身が卒業して10年が経過し、よりグローバルな社会になっていることを考えると、今後は全学部を通じて、英語を中心とした講義に移行するなどの変更を行い、世界中の優秀な学生に、本学へ入学してもらうことで、早稲田大学が世界でも有数な大学として世界中の人から認識される必要があると考えます。また、入学時の学力と共に、在学時、卒業時の学力が一定水準に達しているかを測る機会を作り、勉学を優先させる仕組みを通じて、学生にも強制的に勉強する機会を与えることが必要だと思う。 |
| 492 | 素晴らしい先生方に出会えて、視野が広がったので、特に改善する点はない。あえて言うならば、統計学がビデオで分からなくて、何度も学校へ聞きに行ってしまった。 |
| 493 | 授業で教授の本を教科書にするのはやめてほしい。内容がつまらないものが多い割に高く、学生としては苦しい。講義は本当に90分必要なのだろうか。これは私だけかもしれないが、全体的にマニアックな教授の授業の方が面白かったように思う。社会学という学部柄、幅広くというのがあったのかもしれないが、もう少し専門性を極める授業があってもいいように感じている。 |
| 494 | e スクールの人間科学部でも卒業時に心理系資格や養護教諭などの単位を取得できるようにしてほしい。 |
| 495 | 学部内の教員によってかなり質的に違いがあるところ。 |
| 497 | 漫然と授業を受けるだけでは卒業できない、今まで以上に学生に自立した学習を求める大学になってほしいです。 |
| 498 | 少人数制のゼミ形式の授業の回数を週2回以上はあったほうがよい(私の頃は1回だけだった)。 |
| 499 | 学生ができていないところを指摘すること。特に社会一般常識的な側面。 |

| | |
|-----|---|
| 500 | 教員よっての授業の教授方法のレベルの差を感じた。10年前の感覚なので今は変わっているのかもしれないが、大学教員で有る以上ある一定レベルの教授方法は身に着けるべきと考える。 Youtube に教育系のチャンネルが多数有るが、大学教員が行う授業より、そういったチャンネルを見せる方が効果的に学生自身のやる気を喚起し、主体的な学びに繋がると思われる。 |
| 501 | 理工学分野についてですが、インターンシップの経験はその後の職業選択の際にとっても参考になりました。学生のほとんどが産業界に入る以上、学生のうちから産業界との接点を持ち、その雰囲気を感じた上で、職業選択できるようにすることは、非常に大事だと思います。 |
| 505 | 特にございません。 |
| 506 | 卒業して約10年が経つので現状とのギャップがあるが、早稲田は最後まで学生の自由を大切にしておいて欲しい。時代の流れに反することがあっても、我々卒業生をはじめ日本中の早稲田人がそれを支えます。よろしくお祈りします。 |
| 509 | 講義は自己満足の時間ではない。 毎年同じような内容では意味がない。 |
| 510 | 英語科教育法の授業で第二言語習得理論をやってほしかった。社会人になってから必要に迫られて自学したが、時間のある学生時代にたくさん多読をしておけば語学力を伸ばせたと思う。さらに女性には子育ての知識と育児と仕事を両立できるライフスタイルを学べる機会があれば良いと思う。 |
| 511 | 企業との関わり |
| 512 | 社会人が実用的な学びだけでなく、アカデミックな授業も受けられる機会はなくさないでほしい。 |
| 513 | 昨今の新社会人のOJTを通して、読解力、理解力、論理思考力を含む総合的な国語力の不足を感じている。特に思考体力というか、思考停止せず咀嚼して理解する能力が重要だと考えている。ゼミや研究などでの対外発表を通して「自分の感覚で他人に伝えても全然理解されない」経験を一度は積んで欲しいと思う。 |
| 514 | 最近の早稲田は過保護すぎる。求める者にのみ与える姿勢こそが早稲田なのではないか。 |
| 516 | 教員で卒論指導の厳しさが違うのは改善してもらいたいです。ある程度、基準を大学や学部で設定してほしいです。(3年後期にはテーマが決まっても、細かい直しなどで、卒論のため最終日3日間泊まりこみだったため) |
| 517 | 在学時海外の大学院進学を検討している際、推薦状を教授が書いてくれず、自分が書いた推薦状をサインするだけでした。これでグローバル大学を目指している大学は名乗れません。各教授は推薦状を書く書かないを判断してもいいですが、書くなら自前で英語で書いていただきたいです。 |
| 519 | やはり人数が多いので少人数型の、教授やクラスメートと議論するような授業が少なかったのはやや残念でしたが改善すべき点だと思います。友人もよく言っていましたが、「本を読めばわかる」程度の内容の講義では、わざわざ大学に行く意味があまり感じられません。ただし残念ながら、自著の内容を延々と講義するような授業が多かったのも事実です。もっとインタラクティブな要素を盛り込んだ授業が欲しかったと思います。 |
| 520 | 特になし |
| 522 | 企業や実業家、アーティスト等、いわゆる社会人の世界にもっと触れる経験があるとよかったと感じる。 |
| 523 | 資格取得を推奨するとモチベーションが上がると感じた。 |
| 524 | 授業は出席を自由にするなど、本当に勉強したい人だけが勉強する環境の方が良いと思う。 |
| 525 | 文系学部在学者は、卒業後大部分が就職すると思います。就職までの4年間の間に、具体的にどの様に学生生活を過ごす事ができるのかについてイメージできるようなイベントがあると良いと思いました。(OBの説明会の |

| | |
|-----|---|
| | 開催など) また、教員のカリキュラムについては、そもそも教員が実社会において、担当の学問をどのように使えるのかをイメージできているのか、疑問のある方もいました。具体的な事例を多く盛り込んだ授業のほうに興味を持ちやすいし、社会人になってから役に立つと思います。最後に、文系でも結局システムに関わらざるを得ないと思うので、システムのコーディネートや、簡単なプログラミングができるようになるような講義があると役に立つと思います。 |
| 526 | 露骨なひいき(女性らしさを重視する)教員は何人かいた。 |
| 528 | 初回ガイダンスや各種テストに時間が取られることを考えると、クォーター制の導入で学習時間が減るのではないかと考えている。 |
| 535 | 私が在学中の政治経済学部のカリキュラムは、あまり数学や統計学に力を入れていないように感じました。数学や統計学は現代の学問にとって極めて重要なものであり、力を入れるべきであると思います。 |
| 536 | ・もう少し少人数での授業を受けたかった |
| 538 | 本部キャンパスの講義を受けるために、自転車を購入し理工キャンパスとの間を行き来していた。このキャンパス間の行き来をより便利にして欲しかった。 |
| 541 | 他大学の授業を見学すると良いかと思います |

3. 質問票(回答ウェブページ)

※掲載予定

本調査は、卒業生の皆様の、早稲田大学でのご経験や本学に対するご意見をうかがい、それを早稲田大学の教育改善に役立てることを目的としております。

諸般ご多忙とは存じますが、早稲田大学のさらなる発展のために、何卒、この趣旨をご理解いただき、一人でも多くの方からのアンケート調査へのご回答のご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

回答時間は、およそ8分です。

なお、回答いただいた内容は在学中に本学が収集したデータと照合することがありますが、結果については全て統計的に処理されるため、特定の個人が識別可能な個人情報として公表されることはありません。また、本調査に回答いただくことによって、回答者の方に何らかの不利益が生じることは一切ありません。回答送信後は、回答者が回答データの内容の確認や開示、修正、削除は出来かねます。

(ご参考：早稲田大学における個人情報保護への取り組み：<https://www.waseda.jp/top/privacy-policy>)

2020年2月10日までに、アンケートフォームよりご回答いただくようお願い申し上げます。

*アンケート調査に関してご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

大学総合研究センター連絡先

E-mail : ches-staff@list.waseda.jp

(*を@に変えて送信してください)

あなたのプロフィールについてうかがいます。

* 1. あなたの年齢（2019年1月1日現在）を記入してください。

* 2. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。

- 男 その他
 女

* 3. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。

* 4. あなたの高校卒業時及び現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

都道府県

高校卒業時

現在

* 5. あなたが早稲田大学を卒業した年（西暦）・月を記入してください。

年

月

卒業年度

その他（具体的に）

あなたが早稲田大学に入学したときの状況についてうかがいます。

*6. あなたが大学に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。

- 一般入試
 自己推薦・AO入試等
 指定校推薦
 附属・系属校からの推薦
 その他(具体的に)

*7. 入学した学部は第一志望でしたか。

- はい
 いいえ

*8. あなたは現役で入学しましたか。あてはまるものを一つだけお選びください。

- 現役
 その他(社会人入学や編入学)
 浪人

*9. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。

| | とてもあてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 勉強したい分野がその学部にあったから | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 就職に有利であると思ったから | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 将来の希望する職業分野を勉強できるから | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 資格の取得が有利であるから | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 指導してほしい教員がその学部にあったから | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学力(偏差値など)が適当であったから | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 進路選択の幅が広い学部を選択した | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 高校の先生や家族または塾などで勧められたから | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

その他(具体的に)

* 10. 高校3年の時と中学3年の時の成績は、あなたの通っていた学校のなかでどのあたりでしたか。

| | 上のほう | やや上 | 真ん中くらい | やや下 | 下のほう |
|--------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 中学3年の時 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 高校3年の時 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

* 11. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。

- ない
 中期 (3か月以上～約半年：1学期のみを含む)
- 短期 (数週間～3か月未満)
 長期 (半年以上～：2学期以上を含む)

* 12. あなたが中学生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。

| | あてはまる | どちらかといえばあてはまる | どちらかといえばあてはまらない | あてはまらない |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

13. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。

| | |
|----|----------------------|
| 父親 | <input type="text"/> |
| 母親 | <input type="text"/> |

14. 入学時のあなたのご両親の主な働き方についてあてはまるものをお選びください。

| | |
|----|----------------------|
| 父親 | <input type="text"/> |
| 母親 | <input type="text"/> |

あなたの早稲田大学での生活についてうかがいます。

* 15. あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

| | 熱心 | やや熱心 | やや不熱心 | 不熱心 | 経験しなかった |
|---------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 専門科目 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 一般教育科目 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ゼミ | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 卒業論文作成 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 部活動、サークル活動 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| アルバイト | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ボランティア | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| インターンシップ | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 早稲田大学以外での勉強 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 資格取得や教職、国家試験勉強 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイイクなど） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

その他(具体的に)

* 16. 学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きます。

| | とてもあてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 図書館を利用した | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 読書（漫画や雑誌を除く）をした | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 授業内容について、他の学生と議論した | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 授業内容について、教員と議論した | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 留学生と一緒に学んだ | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 特別な理由なく授業を欠席した | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| よい教員に巡り合えた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

* 17. 大学（学部）在学中に留学をしたことはありますか。

- ない
 中期（3か月以上～約半年：1学期のみを含む）
 短期（数週間～3か月未満）
 長期（半年以上～：2学期以上を含む）

* 18. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。

| | 上のほう | やや上 | 真ん中ぐらい | やや下 | 下のほう |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1～2年 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3～4年 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

* 19. 早稲田大学の学部で次のものをどの程度身につけましたか。

| | かなり身についた | やや身についた | どちらとも言えない | あまり身につけていない | 身につけていない |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 専門的な知識・技術 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 幅広い知識・教養 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 論理的思考能力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 表現力・プレゼンテーション能力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

あなたの早稲田大学での生活についてうかがいます。

* 20. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。

- はい
 いいえ

* 21. 学部在学中にもっと熱心に取り組めばよかったと思うものを、上位3つあげてください。

| | 1位 | 2位 | 3位 |
|--------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 専門科目 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 一般教育科目 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ゼミ | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 卒業論文作成 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 部活動、サークル活動 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| アルバイト | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ボランティア | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| インターンシップ | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 早稲田大学以外での勉強 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 資格取得や教職、国家試験勉強 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

その他（具体的に）

* 22. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。該当するものを一つだけお選びください。

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="radio"/> 就職した | <input type="radio"/> 就職活動を行った |
| <input type="radio"/> 自分で事業（自営）を始めた | <input type="radio"/> 資格試験準備を行った |
| <input type="radio"/> 早稲田大学の大学院に進学した | <input type="radio"/> 仕事にも就かず、学校にも行かなかった |
| <input type="radio"/> 他大学の大学院に進学した | |
| <input type="radio"/> その他（具体的に） | |

* 23. 就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。該当するものを一つだけお選びください。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| <input type="radio"/> 大学での専門分野との関連 | <input type="radio"/> 経営方針 |
| <input type="radio"/> 業種 | <input type="radio"/> 安定性 |
| <input type="radio"/> 地域条件（勤務地・転勤の有無など） | <input type="radio"/> 給与 |
| <input type="radio"/> 規模 | <input type="radio"/> OBやOGの存在 |
| <input type="radio"/> 知名度やイメージ | <input type="radio"/> 勤務時間・休暇・福利厚生など |
| <input type="radio"/> その他（具体的に） | |

* 24. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。

- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> 本学学部卒業 | <input type="radio"/> 本学博士課程在学中 |
| <input type="radio"/> 本学修士課程在学中 | <input type="radio"/> 本学以外の博士課程在学中 |
| <input type="radio"/> 本学以外の修士課程在学中 | <input type="radio"/> 本学博士課程修了 |
| <input type="radio"/> 本学修士課程修了 | <input type="radio"/> 本学以外の博士課程修了 |
| <input type="radio"/> 本学以外の修士課程修了 | |

その他（具体的に）

* 25. あなたの学部卒業直後の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

* 26. 卒業後最初についてのお仕事は、現在も継続されていますか。出向や転勤などで異動している場合は、同じ会社・団体・組織としてください。

- はい
- いいえ

27. 学部卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。(前頁の問26で「いいえ」とご回答した方のみお答えください)

28. あなたは現在働いていますか。該当するものを一つだけお選びください。(前頁の問26で「いいえ」とご回答した方のみお答えください)

29. 最初に就いたお仕事から転職または辞職された理由は何ですか。最も大きい理由を一つだけお選びください。(前頁の問26で「いいえ」とご回答した方のみお答えください)

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> 新たなステップアップを図るため | <input type="radio"/> 自分の関心に合わなかった |
| <input type="radio"/> キャリアを買われたから | <input type="radio"/> 能力不足 |
| <input type="radio"/> より大学の専門性に近かったから | <input type="radio"/> 解雇や倒産など |
| <input type="radio"/> 収入面での不満 | <input type="radio"/> 結婚 |
| <input type="radio"/> 労働時間面での不満 | <input type="radio"/> 出産・育児 |
| <input type="radio"/> 職場の人間関係 | |
| <input type="radio"/> その他(具体的に) | |

* 30. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。

* 31. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。

* 32. あなたの現在の年収(税込)について、該当するものを一つだけお選びください。

4. 高等教育研究委員会名簿

高等教育研究委員会 名簿

| | | | |
|------|----|----|-----------------------------|
| 委員長 | 吉田 | 文 | 副所長（教育・総合科学学術院 教授） |
| 副委員長 | 黒田 | 一雄 | 副所長（国際学術院 教授） |
| | 天野 | 紀明 | 教務部事務部長 |
| | 沖 | 清豪 | 文学学術院 教授 |
| | 小森 | 宏美 | 入学センター副センター長（教育・総合科学学術院 教授） |
| | 近藤 | 孝弘 | 教育・総合科学学術院 教授 |
| | 鍋嶋 | 郁 | 国際部副部長（国際学術院 教授） |
| | 西尾 | 俊彦 | 総長室経営企画課長 |
| | 松本 | 裕幸 | 研究推進部事務副部長 |
| | 山名 | 早人 | 情報企画部長（理工学術院 教授） |

（2020年3月時点、委員長・副委員長以外五十音順）

謝辞

卒業生調査にあたっては、2010年次稲門会の皆様にもご協力いただいた。
記して感謝申し上げたい。

2019年度 早稲田大学卒業生調査 報告書
2020年3月
早稲田大学 大学総合研究センター

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町 1-104 (24号館 4F)